



授業情報誌 Class・学び合う授業 第2号 OCT・2016

# class

## 学び合う授業

新潟県中学校  
教育研究会  
授業情報誌  
第2号 2016

第2弾

新潟県中学校教育研究会

授業情報誌 **Class**・学び合う授業

第2号 2016年10月

ISSN 2189-8111

新潟県中学校教育研究会

### 学び合う授業づくりの情報誌

アクティブ・ラーニング

学び合う授業の考え方がわかる  
教科別の授業づくりのアイデア

FT論理スキルでじょうずに収束  
全員参加型の構想検討会の進め方

ISSN 2189-8111

## Class・学び合う授業の内容

「学び合う授業」と「教師の学び合い」の具体的なイメージを伝えることが本誌のねらいです。

- 学び合う授業の背景や考え方がわかります。創設50周年指導者 千々布敏弥様からの特別寄稿
- “話がかみ合い、結論が出せる” 授業や会議にするためのFTの論理スキルを紹介します。  
ファシリテーション
- 今年度、研究会を実施する指定研究チームが提案する20の“手立て”を紹介します。
- 全員参加型の構想検討会の進め方がわかります。



学び合う授業 下越地区・国語 指定研究会(新発田市立猿橋中学校)2015



教師の学び合い 中越地区・保健体育部会(長岡市立三島中学校)2015

# class

## 学び合う授業

新潟県中学校  
教育研究会  
授業情報誌  
第2号 2016

### 学び合う授業づくりの情報誌

第2弾

アクティブ・ラーニング

学び合う授業の考え方がわかる  
教科別の授業づくりのアイデア

FT論理スキルでじょうずに収束  
全員参加型の構想検討会の進め方

# 「学び合う授業」を 教室の普段着に

6月の始め、新潟県中学校教育研究会の全県合同運営推進委員会で熱い議論が交わされていました。

「学び合う授業の創造」を目指し授業改革の取組を進めて4年目となる本年度、全県各地で開催される指定研究の質を一層高める工夫が話し合われていたのです。これまでの3年間、各郡市の研究推進委員が中核となり、授業構想検討会にファシリテーション（FT）や構想シートを取り入れ、「教師の学び合い」を通じて「学び合う授業」のあるべき姿を模索する取組が浸透し、大きな成果を上げてきました。FTを取り入れた授業と研修スタイルは、県内の各地区・各学校に確実な広がりを見せています。

そんな中、更なる前進に向けて新たな課題が浮き彫りになってきました。「FTを活用して思考の拡散を図る授業実践は数多くみられるが、適切な収束をかけて生徒の思考を一層深めていく実践例が少ないのではないか。」「FTを取り入れることが目的化して、教科の学びに深まりが不足している実践もみられるのではないか。」こうした指摘を真正面から受け止め、指定研究2年目を迎え「学び合う授業」を提案する郡市の研究推進責任者と会場校責任者が、全県部長と共に冒頭の熱い議論を繰り広げることになったわけです。そこでの議論の成果が本誌「Class第2号」の目的である以下の3点に十分に反映されていることを確信しています。

- ① 会員が「学び合う授業」による授業改革の具体的なイメージやアイデアを得る。
- ② 指定研究で研究する内容が具体的で提案性のあるものにする。
- ③ 指定研究と郡市事業のモデルとなる実践を紹介する。



新潟県中学校教育研究会  
副会長 近藤 道範

8月1日に中央教育審議会教育課程企画特別部会が次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）のポイントを公表しました。改訂の基本方針の中で、学習内容を深く理解し、社会や日常生活で活用できるためには、知識の量や質と思考力の両方が重要であるとして、知識重視と思考力重視の二項対立的な議論に終止符が打たれました。そしてすべての教職員に、校内研修や多様な研修の場を通じて新しい時代に求められる資質・能力の在り方やアクティブ・ラーニングの考え方についての理解を深め「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から学習過程を質的に改善することを求めています。こうした国の考え方と県中教研の目指す方向性が一体であることは、8月4日発行の「県中教研会報」の巻頭言の中で早川義裕会長が、文部科学省初等中等教育局教育課程の合田哲雄課長の言葉を引用して説明されているとおりです。

次期学習指導要領は「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加え、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から改善が加えられることでしょうか。県中教研では、FTという手段を通じて「対話的な学び」や「深い学び」に向けた取組を国に先んじて進めています。会員一人一人が自信と誇りをもって県中教研が目指す授業改革を進めていきたいものです。そのためには、「学び合う授業」が県中教研指定の公開授業や校内研究授業等のハレの日の実践に留まることなく、県内すべての学校・すべての教室で普段着の授業実践として根付いていくことが大切です。

「学び合う授業の創造」に向けた各教室での日常的な実践こそが、生徒の生き方や社会の在り方と結び付く「主体的な学び」を成立させ、習得した知識や技能を活用して仲間と共に新たな考えを構想し創造する「対話的な学び」や「深い学び」へと繋がることを確信しています。

本誌がこうした授業改革に向けて、会員の皆様から存分に活用されることを、心から願っています。

## 目次

巻頭言 第2号発刊にあたって「学び合う授業」を教室の普段着に	4
＜コラム1 指定研究2年目・指定研究1年目＞	6

### ① 「学び合い」によって授業はどのように変わるか

論理スキル 4つのポイント

〈特別寄稿〉

「学び合い」によって授業はどのように変わるか	8
------------------------	---

国立教育政策研究所 千々布 敏弥

FTの論理スキルで“話がかみ合い、結論が出せる”授業や会議に…	16
---------------------------------	----

新潟県中学校教育研究会 事務局長 山内 伸二

＜コラム2 活動・研究の振り返りはKPTで…＞	22
-------------------------	----

### ② 指定研究チームが提案する21世紀型能力育成の手立て

#### 社会

単元構想シート等で単元を見通した思考の深まりを考えよう	24
-----------------------------	----

県中教研 社会部 全県部長 松井 淳

1時間の話し合いの「見える化」で、思考力を高める	26
--------------------------	----

上越市中教研 社会部

生徒が本気になる授業を単元構想シートで練り上げます！	28
----------------------------	----

小千谷市中教研 社会部

ジグソーで広がる思考をファシリテーションで深めていく！	30
-----------------------------	----

新潟市中教研 社会部

自分はこう考えた！可視化で考えを深化させよう！！	32
--------------------------	----

新発田市中教研 社会部

#### 理科

W型問題解決の過程のどこで“学び合う”かを意識しよう	34
----------------------------	----

県中教研 理科部 全県部長 石坂 均

4QSで素朴な「疑問」を検証可能な仮説へ	36
----------------------	----

上越市中教研 理科部

ヒントカードの提示で、思考の練り上げを促す	38
-----------------------	----

長岡市中教研 理科部

自信度グラフで自分の思考過程を実感、思考力アップを目指す！	40
-------------------------------	----

佐渡市中教研 理科部

知識の整理と交流で科学的な根拠を見いだす力を育成！	42
---------------------------	----

五泉市・東蒲原郡中教研 理科部

#### 英語

表現力 (Speaking) の向上を目指した単元の構想を！	44
--------------------------------	----

県中教研 英語部 全県部長 鷲尾 哲郎

タスクにひとり学びの一工夫。目指せ“全員参加”の学び合い！！	46
--------------------------------	----

糸魚川市中教研 英語部

他者とのつながりを活用して英語で表現する力を高める	48
---------------------------	----

三条市中教研 英語部

“バックワードデザイン”でゴールに向かって見直しをもってステップアップ! …	50
新潟市中教研 英語部	
“英語で話す→書く→話す”の流れで、表現力を高める …	52
村上市・岩船郡中教研 英語部	

## 保健体育

あるべき姿とのギャップから問題意識をもたせ、解決すべき過程で“学び合う”ことが大切! …	54
県中教研 保健体育部 全県部長 若月 弘久	
グループ活動を通し、思考力、表現力を向上させ技能の習得を目指す ～器械運動(マット運動)～ …	56
上越市・中教研 保健体育部	
効果的な戦術・動きをFTで検証・共有。より具体的な動きへ高める ～球技(バスケットボール)～ …	58
長岡市・三島郡中教研 保健体育部	
FTを活用して課題を共有!! 思考を深めて技能定着を促す …	60
新潟市中教研 保健体育部	
ファシリテーションで課題解決能力を高める ～体づくり運動～ …	62
新発田市中教研 保健体育部	

## 進路指導

体験的な学習活動をとおして、自己の生き方を見つめさせよう …	64
県中教研 進路指導部 全県部長 堀川 雅司	
「どの仕事にも共通する大切な力」は何か、FTで生徒自身が見付け出す! …	66
柏崎市刈羽郡学校教育研究会 キャリア教育部	
「みつめる力」を柱としたキャリア教育で、生徒の主体的行動を高めます …	68
十日町市・中魚沼郡中教研 進路指導部	
異学年交流で学び合い、高め合う職場体験学習 …	70
新潟市中教研 進路指導部	
グループ活動やワールドカフェでの学び合いを通して考えを深める …	72
村上市岩船郡中教研 進路指導部	

## ③ 指定研究 1年目の進捗状況

国語 …	75
数学 …	76
美術 …	77
道徳 …	78
総合学習 …	79

<コラム3 校内の研究授業を4ステップ・1ポイントで!! > … 80

## ④ 全員参加型の構想検討会をしてみませんか?

〈特別寄稿〉	
全員参加型の単元構想検討会をおすすめします …	82
新潟市立白新中学校 竹田 真実子	
授業(単元)構想シート(記入例と留意) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県中教研版</span> …	84
授業(単元)構想検討会を実施してみて… …	85

<コラム4 “学び合う授業”と“教師の学び合い”を各校・各教室へ > … 86

## ⑤ 授業ナビゲーション

県中教研 授業ナビゲーション …	88
------------------	----

参考書籍 … 92

編集後記 … 93

1年目、2年目で計40郡市が指定を受け、40チーム(委員会)が各教科・領域での学び合う授業の具現化を目指し、研究を推進しています。

指定研究 2年目

教科領域	推進郡市	研究推進責任者		会場校		研究会日
社 会	上越	藤田 賢	上越市立城北中学校	上越市立城東中学校	11月11日(金)	
	小千谷	鈴木 勇	小千谷市立小千谷中学校	小千谷市立千田中学校	10月27日(木)	
	新潟	小林 朗	新潟市立石山中学校	新潟市立白新中学校	11月24日(木)	
	新発田	神田 武	新発田市立七葉中学校	新発田市立佐々木中学校	11月10日(木)	
理 科	上越	保坂 修	上越市立城北中学校	上越市立大潟町中学校	11月11日(金)	
	長岡・三島	澤栗 隆之	長岡市立堤岡中学校	長岡市立岡南中学校	11月 9日(水)	
	佐渡	本間 悟	佐渡市立佐和田中学校	佐渡市立新穂中学校	11月11日(金)	
	五泉・東蒲	鈴木 尚	五泉市立山王中学校	五泉市立山王中学校	11月 1日(火)	
英 語	糸魚川	倉若 拓人	糸魚川市立糸魚川中学校	糸魚川市立能生中学校	11月 9日(水)	
	三条	五十嵐 博利	三条市立大崎中学校	三条市立第三中学校	11月10日(木)	
	新潟	高田 哲也	新潟市立寄居中学校	新潟市立寄居中学校	11月10日(木)	
	村上・岩船	井上 定浩	村上市立荒川中学校	村上市立村上東中学校	11月 4日(金)	
保 健 体 育	上越	内藤 隆	上越市立大潟町中学校	上越市立潮陵中学校	11月11日(金)	
	長岡・三島	高橋 正明	長岡市立大島中学校	長岡市立三島中学校	11月22日(火)	
	新潟	中山 智司	新潟市立新津第五中学校	新潟市立内野中学校	6月15日(水)	
	新発田	藤間 善徳	新発田市立豊浦中学校	新発田市立川東中学校	11月10日(木)	
進 路 指 導	柏崎・刈羽	宮崎 隆史	柏崎市立北条中学校	柏崎市立第五中学校	11月16日(水)	
	十日町・中魚	佐藤 壮	十日町市立十日町中学校	十日町市立下条中学校	11月17日(木)	
	新潟	岩崎 正法	新潟市立坂井輪中学校	新潟市立潟東中学校	11月24日(木)	
	村上・岩船	白澤 直子	村上市立村上東中学校	村上市立神納中学校	11月 8日(火)	

指定研究 1年目

教科領域	推進郡市	研究推進責任者		会場校	
国 語	妙高	田中 裕子	妙高市立妙高高原中学校	妙高市立新井中学校	
	南魚沼市・郡	柴田 恵理	南魚沼市立六日町中学校	南魚沼市立塩沢中学校	
	新潟	長嶋 茂	新潟市立東石山中学校	新潟市立山の下中学校	
	五泉・東蒲	囲 由香	五泉市立五泉中学校	阿賀町立阿賀津川中学校	
数 学	柏崎・刈羽	土田 貴宏	柏崎市立鏡が沖中学校	柏崎市立松浜中学校	
	見附	倉田 孝英	見附市立見附中学校	見附市立今町中学校	
	新潟	山口 靖博	新潟市立巻東中学校	新潟市立横越中学校	
	村上・岩船	青山 亮	村上市立村上第一中学校	村上市立山北中学校	
美 術	上越	中澤 聡子	上越市立直江津中学校	上越市立城西中学校	
	加茂・南蒲	近 まどか	加茂市立加茂中学校	加茂市立葵中学校	
	新潟	丸井 武馬	新潟市立石山中学校	新潟市立曾野木中学校	
	新発田	堀口 博子	新発田市立豊浦中学校	新発田市立第一中学校	
道 徳	上越	笠原 里美	上越市立直江津東中学校	上越市立頸城中学校	
	長岡・三島	大橋 立明	長岡市立北中学校	出雲崎町立出雲崎中学校	
	新潟	嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校	新潟市立木崎中学校	
	阿賀野・胎内・北蒲	小林 典子	胎内市立黒川中学校	聖籠町立聖籠中学校	
総合的な 学習の時間	柏崎・刈羽	小松 久子	柏崎市立南中学校	柏崎市立北条中学校	
	長岡・三島	渡邊 健実	長岡市立小国中学校	長岡市立中之島中学校	
	新潟	関根 立志	新潟市立山の下中学校	新潟市立松浜中学校	
	阿賀野・胎内・北蒲	内山 秀実	胎内市立乙中学校	阿賀野市立水原中学校	



# ① 「学び合い」によって授業はどのように変わるか

## 論理スキル 4つのポイント

県中教研の創設50周年記念事業の指導者  
千々布敏弥様（国立教育政策研究所）から寄稿をいただきました。県中教研が進める「学び合い授業」の参考となる学び合いの方法と意義に関する内容です。  
また、<sup>フアンリテーション</sup>「FTは収束がむずかしい」という反省に答えて、収束の助けになる論理スキル4つのポイントを紹介します。



〈特別寄稿〉

# 「学び合い」によって 授業はどのように 変わるか



国立教育政策研究所  
千々布 敏弥

## はじめに

現在学習指導要領改訂が議論されており、アクティブ・ラーニングがキーワードとしてクローズアップされている。諮問の段階で登場したこの言葉は、急速に義務教育に浸透しつつあり、関連書が多く出版されている。教条的な書き方をしているものもあり、この通りに実践すればアクティブ・ラーニングになる、あるいはこの通りにしないとアクティブ・ラーニングとは言えない、などの記述が見られる。中教審はそのような動向に危惧を示し、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるもの」ではないと喚起している（審議のまとめ、2016年8月）。中教審はアクティブ・ラーニングの語に代えて「主体的・対話的で深い学び」という文言で説明するようになっており、特に「深い学び」が重要だとしている。本稿は「深い学び」ではなく、「対話的な学び」に焦点を当てていく。最終的に深い学びを考えないといけないのだが、対話的な学び、すなわち学び合いの段階で躓いている現場が多いためである。

授業研究で学び合いについて指導依頼をいただく機会が増えてきた。おそらく、校内研究のテーマでもこの言葉は多く使用されているのではないか。私は以前から社会科の初志を貫く会等で子どもが学び合う姿を見続けてきていたため、学び合いという言葉聞いても新鮮さを感じることはなかったが、このテーマで指導を依頼される場面が増えてきた中で、意外と大変なテーマかもしれない、と言う思いを強くしてきた。大変さをひと言でまとめると、子どもを学び合わせることのできない、堅い教師が多いのだ。子どもは本来的に「学び合いたい」ものである。学び合う素材を与えれば子どもは勝手に学び合い出すのに、いろいろな足枷をはめるために学び合いが阻害されている。そのような教師に「授業が堅い」と伝えても、いっそう堅くなるばかり。堅さをほぐすための方法が意外と見つからない。

そこで、本稿では学び合いの方法と意義を整理することを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践しようとする教師の皆様の参考となることを意図している。

## アクティブ・ラーニングと学び合い

学び合いは日本の授業の欠かせない要素として認識されてきたにも関わらず、結果として教え込みの授業が多く現場で行われていた。それを解消するキーワードとしてアクティブ・ラーニングという言葉が多く教師たちに受け入れられたと解釈している。

アクティブ・ラーニングとは、高等教育における授業改善の文脈で登場してきた言葉である。日本にこの語を紹介した溝上慎一によると「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」ことをアクティブ・ラーニングの定義としている。溝上の定義における「(受動的) 学習」とは、知識伝達型講義を聴くだけでも能動的な学習があり得るという批判を念頭に置いたものであり、「聴く」を操作的に「受動的学習」だと定義した」と溝上は語っている。アクティブ・ラーニングの手法として溝上慎一は、協同学習・協調学習、PBL法、LTD法、ピア・インストラクション、コンセプトマップ、反転授業を紹介している（『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』2014）。

アクティブ・ラーニングの手法として紹介されている協同学習と協調学習とは、英語で collaborative learning あるいは cooperative learning と表記されている。英語と訳語の組合せが錯綜しており、collaborative learning を協調学習と訳することも協同学習と訳することもあるし、cooperative learning に関しても同様である。

協調学習・協同学習についてもっとも有名なのはジョンソンらによる『学習の輪』であろう。この書の原題は“Circles of learning: Cooperation in the Classroom”（1984）となっており、邦訳書では「協同学習」と訳されている。

バークレイは大学教育に関して書いた『協同学習の技法』（原題 Collaborative Learning Techniques, 2005）において、cooperative learning のことを「小グループの教育的使用であり、学生が自分自身の学びと学習仲間の学びを最大限にするために共に学び合う学習法」、collaborative learning のことを「学生と教師が知識の創造に向けて共に学び合う」ことで「構成される知識」を得るものと紹介し、前者が旧来の教育の枠組みの中で進行するグループ学習であるのに対し、後者は社会構成主義に基づく新しい学習の理念であると紹介している。そうは言いながらもバークレイは、「ほとんどの教育者にとって cooperative と collaborative は同じ意味に聞こえる」とし、ジョンソンらの定義を引用して両者を含めた collaborative learning のことについて書くこととしている。また、本書の訳者である安永悟は「collaborative learning と cooperative learning を一つの概念で表現するという方針は、原著者の立場とも一貫している」として両語の訳語を「協同学習」で統一している。

関田一彦と安永悟はジョンソンらの定義を引用しながら cooperative learning（協同学習）の定義を「①互恵的相互依存関係の成立、②二重の個人責任の明確化、③促進的相互交流の保障と顕在化、④協働の体験的理解の促進」、collaborative learning（協調学習）の定義を「①プロジェク

トの形をとり、②メンバーの間で相手の活動を参照して自分の行動を調整する仕組みがあり、③プロジェクトの成果物に対して各自が何らかの貢献を期待され、④しばしばプロジェクトリーダーによって統率される学習活動であり、⑤質の高い成果物が求められる学習活動」と定義し、collaborative が cooperative より広義であると整理している。（「協同学習の定義と関連用語の整理」日本協同教育学会「協働と教育」1, 2005）

三宅なほみは collaborative learning（協調学習）の枠の中で知識構成型ジグソー法を推進している。その基本理念は「建設的相互作用を通して一人一人の児童生徒が自分の考えを深める」ことであり、グループで学習するもののグループ全体で答えを出せるようになればよいのではなくて一人一人が学ぶことが重要と述べている（「協調学習」の考え方」三宅なほみ・東京大学 CoREF・河合塾『協調学習とは』2016）。

以上をまとめると、collaborative learning にしても cooperative learning にしても、グループ内での子どもたちの相互作用を必要としており、集団としての学びよりも個人としての学びを重視し、自分個人の学びと同時にグループ内他者の学びも尊重すべきことが共通している。そして、これらの要素は日本国内で学び合いの用語で実践されている取組でも共通している。

おそらく多くの教育現場では「学び合い」「協同学習」「協調学習」「アクティブ・ラーニング」の語は明確な差異化がなされることなく、使用されているであろう。それよりも、なぜ学び合いという言葉が現場で使われるようになったのかについて想像してみたい。協同学習や協調学習は海外で概念化された実践であるが、日本では大正新教育の時代から少人数グループ学習の実践が行われてきた。及川平治が兵庫県の師範学校附属小学校で実践した分団式動的教育法などが著名なところである。戦後も全国生活指導研究協議会が班活動を中心にした学級集団づくりの運動を推進した。日本には少人数グループを活用した学び合いの長い歴史があり、協同学習や協調学習の文脈を超えるものがあると解釈した方がいいであろう。

## 日本における学び合いの実践

日本において学び合いは旧くから実践されてきた。だが、学び合いを授業で効果的に使える教師はそれほど多くない。それが、最近は大学研究者や実践家により学び合いの方法を定型化して実践する事例が増えている。アクティブ・ラーニングのブームに乗ってのものもあるが、それ以前から取り組まれているものも多い。それらの研究者・実践家のうち、佐藤学、市川伸一、小林昭文、西川純の4氏の言説を検討することを通して、学び合いとは何かを考えていきたい。

佐藤学氏が推進する「学びの共同体」では、子どもが取り組む学習課題が2種類用意される。最初は誰もが理解すべき、教科書レベルの共有の課題であり、次いでその理解を基礎として挑戦するジャンプの課題である。いずれも4人グループで課題に取り組むのだが、共有課題においては高学力の子どもが低学力の子どもに教える場面、ジャンプ課題では皆が協同して取り組む場面が見られる。（『学校を改革する－学びの共同体の構想と実践』2012）

市川伸一氏が推進する「教えて考えさせる」においても4人グループでの教え合いと協同問題解決の場面が見られる。市川氏の手法では最初に教師の説明が行われるが、次いで理解確認課題と理解深化課題に4人グループで取り組む。理解確認課題は教師が説明した内容を子ども相互に説明し合う。理解できていない子どもには理解できている子どもが教えるようにする。理解深化課題では基礎的な事項の理解を前提にした発展課題に協同学習で取り組む。（『「教えて考えさせる授業」を創る』2008）

小林昭文氏の「アクティブ・ラーニング」では市川氏と同様に最初に教師が説明する時間がある。その後、子どもは4～5題の問題演習に取り組むのだが、佐藤氏、市川氏らのようにグループは作らず、自由に相談する相手を選んでいいことにしている。立ち歩く子どももいる。（『アクティブラーニング入門』2015）

西川純氏が推進する「学び合い」は、授業の最初に子どもに課題が与えられる。課題は1問でなく複数であり、業者テストや市販のドリルでもよいとされている。その課題を子どもたちは自ら考え、分からなかったら友だちに相談しながら解いていく。相談する相手は誰でもいい。そのために西川氏の学び合いでは子どもは教室の中を自由に歩き回り、相談し合っている。（『クラスがうまくいく！「学び合い」ステップアップ』2012）

## 教え合いに必要な支え合う関係

以上の4氏の学び合い法を概観すると、4氏とも子ども同士の教え合いを活用していることが分かる。授業でワークシート等で与えられた課題に子どもが取り組んでいるとき、教師が机間巡視しながら一人一人に教えていることがある。この場合は確実に時間がオーバーしてしまい、それでも全員が理解できたことにならない。時間通りに終了する授業では一人学びで理解できていない子はその後、教師の指名によって黒板で解き方を披露する別の子の説明、それに続く教師の説明を聞いて理解できる（であろう）こととなっている。特に算数・数学のように基礎的事項の理解がその後の学習に大きく影響する教科では、教師の説明でどこまで子どもが理解できるのが重要となる。それを子ども同士の教え合いによって確実な習得を可能にするのが、4氏の方法である。

広く普及している4氏が共通して採用する教え合いであるが、問題点はないだろうか。第1に教師でなく子どもが教えることで不完全なあるいは不正確な理解になる可能性が挙げられるだろう。この課題は市川氏、小林氏のように教師が一斉に教える段階があればその危険性は回避できるだろうが、佐藤氏、西川氏のように子ども同士の教え合いに委ねる時間が長い場合はどうなるか。その点を両氏は子ども同士の教え合いの方が低学力の子どもにおいて確実な理解につながることを指摘している。力量の高い教師が教えれば習得できる内容でも、すべての教師が高い力量を持っているわけではない現場において、子ども同士の教え合いの効果を活用することは考慮すべきであろう。

教え合いに関する第2の問題点は、果たして課題を解くことのできない低学力の子どもが高学力の子どもに教を請いに行くことができるだろうかという問題である。実はこちらが大きな問題である。私がこれまで関わった授業でも、教師が教え合いを促しても子どもが動かない場面はよく見られた。子どもが「分からない、分かっている子、教えて～」と叫ぶ教室はかなり状態のいい教室であり、通常子どもはそう動かない。この疑問に、佐藤学氏と一緒に学びの共同体の推進に取り組んでいる佐藤雅彰氏が的確に答えている。

「できない子どもほど一人で解決したがらる。できないことを他人に知られたくない、恥ずかしいと思う気持ちがそうさせる。」（『中学校における対話と協同』2011）

つまり、子どもは聞きたい気持ち以上に恥ずかしい気持ちが強いのだ。この気持ちを取り除くのが教え合いを推進する上で重要な条件になる。佐藤雅彰氏は「教師の役割は孤立した子に対して「隣の人に訊いてごらん」とその子どもが仲間に訊くまでを見届ける。」と書いている。西川純氏は次のように子どもに働きかけることを勧めている。

「あれ？ わからなかったら聞きに行ってもいいんだよ。わからないのに、じっとしているなんて馬鹿馬鹿しいじゃないか」というように語ってきっかけを作ってください。そんなことを何度か語っているうちに、恐る恐る立ち歩いて相談する子が現れると思います。そうしたら、「お～、〇〇は賢いな～。聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥というけど、“教えて”と言える人が一番賢い人なんだよ」と大げさにほめてください。」

理解できない子が教を請う姿勢は、その子の気持ち、教える子の気持ちだけではない。クラス全体で互いを認め合い支え合う雰囲気醸成されていることが必要となる。佐藤学氏はそのことをネル・ノディングの「ケア」という言葉で説明している。小林昭文氏は授業の冒頭に「しゃべる・質問する・説明する・動く・チームで協力する・チームに貢献する」という態度目標を生徒に伝えている。「黙っている・じっとしている・黙々とノートをとる」はだめな態度だ。「チームで協力」「チームに貢献」という価値観が子どもに身につかないと学び合いは成立しない。そのため小林氏は年度当初に一人で取り組むよりもグループで取り組んだ方が正答率が高くなる課題を生徒に与え、チームの有効性を理解させるようにしている。

これらの記述を概観すると、学び合いにおいて子ども同士の認め合い支え合う関係が構築できているかどうかは必須条件と思われる。いずれの手法においても「〇〇法を実践したところ、かえって学校が荒れてしまった」というネガティブな情報が語られることがあるが、それは、子ども同士の関係が構築できないままに学び合いに取り組んだ故のことではないかと推察できる。

## 学習課題をどう作るか

子ども同士の支え合う関係が構築できていたら、学び合いが成立するかというとそうではない。4氏とも、学習課題の選定の重要性に言及している。佐藤学氏は「子どもは「わかりそうでわからない課題」において、夢中になる学びを体験できる。」と語っている。実際には「クラスの半

分から三分の一が達成できるレベルが妥当」とのことだ。小林氏は4～5題の問題演習を生徒に与えるが、問題は簡単すぎても難しすぎてもいけないと述べている。簡単すぎると相談する必要がないし、難しすぎると取り組むことにあきらめるからである。佐藤学氏の「難しい問題ほど、子どもは夢中になって取り組む」という表現と異なるが、それは学習課題の性質の違いから来ている。西川氏は「そのクラスのできる子が15分程度で終わる量に抑える」ことを推奨している。多すぎるとクラスの成績上位者でも自分で問題を解く時間が長くなって分からない子に教える時間を持てなくなるし、少なすぎたり易しすぎたりすると教え合いの必要がなくなるからである。小林氏は「難しすぎると取り組むことにあきらめる」と述べ、佐藤氏は「難しい問題ほど、子どもは夢中になって取り組む」と述べている。その違いは「課題」の内容にあると思われる。

佐藤学氏が紹介しているジャンプ課題の例は次のようなものだ。

「凹型四角形を等積変形してできる三角形は何通りあるか」(中学校数学, 佐藤 2006)「注射器の中にマシュマロを入れて圧縮するとどうなるか」(中学校理科, 佐藤 2006)「同じ大きさの2枚の円を使って正三角形を書く」(小学校算数, 佐藤 2015)「出発点と到達点は同じだが、途中の高さが異なる二つのレールでビー玉を転がすとどちらが早く到達点に達するか」(中学校理科, 佐藤 2015)

どの課題も、思わず考えてみたくなる課題だ。

市川伸一氏の理解深化課題にも面白いものがある。

「てこの支点の両脇に二つ以上の重りが下がっている場合はどのようなきまりで釣り合うか」(小学校理科, 市川 2013)「4象限に分割したマス目に1象限分だけ図形を与え、線対称、点対称、線対称かつ点対称の図形を作る」(中学校数学, 市川 2013)

このような面白い学習課題を考案するにはどうしたらいいか。教材研究と指導案検討だ。それが十分できた教師は学び合いを使わずとも、子どもを学びに集中させることができ、理解度も高まるだろう。そのために必要な努力は旧来の授業研究ですで行われている。水準の高い研究校であればどこでもやっているはずだ。ただし、そのような研究校は指導案の検討が深夜まで及ぶことが往々にしてある。校内に寝泊まりする教師がいる学校もある。そのようなハードな努力をすべての教師に求めるのは無理だ。学び合いのために旧来の教材研究と同様かそれ以上の努力を教師たちに要求すれば、その段階で学び合いは実践されないままになってしまうだろう。

旧来の授業研究であれば自分で教材研究を進める中からオリジナルの学習課題を考案することだけが求められたであろうが、4氏の記述では、出来合いの学習課題の活用も可能としているのが興味深い。市川氏の理解深化課題の例には全国学力調査のB問題もある。小林氏は問題の範囲やレベルを設定できる問題集のデータベースソフトを活用している。佐藤氏が指導する学校で研究授業を公開した教師にジャンプ課題をどう考えたかを尋ねたところ、研究校の紀要から引用したとのことだった。そのように既存の学習課題を子どもの実態に応じて選択するという教材研究のあり方を認めているのが、昨今の新しい指導方法の特徴でもある。

## 学び合いに向けて何が求められるのか

さて、以上を踏まえて読者の皆様が今後学び合いに取り組んでいく際に、何が求められるのかを私なりに整理してみる。子どもが夢中になる学習課題をどう考案するかは、日本の教師たちが長年取り組み続けてきたことだろう。夢中になって深夜まで教材研究や指導案検討にいそしむ教師たちは今でも多い。だが、それ以外に従事すべき業務が増えている今の教師たちにとっては、もう少し楽に授業を構築する方法を提案したい。

それは一言でいえば「子どもの力を活用した授業」ということである。私が拝見する授業の多くは教師ががんばりすぎている。教師が子どものすべての思考や発言を創り出そうと一生懸命になりすぎている。学び合いの授業は、子どもが共に教え合うことで習得すべき事項を確実に学び、少し難しい課題について共に考えることで思考力、判断力、表現力を身につけている。教えあうべき課題、考えあうべき課題をあらかじめ用意することができれば、子どもは自発的に学び合うようになるだろう。

ただし、子ども同士が認め合い支え合う関係ができていない学級では（そのような学級の方が多いのだが）、教え合いも話し合いも考え合いもできない。教師の統制から外れた子どもは学びではなく感情的に近いもの同士の雑談や他の友だちへの攻撃に関心を向けがちである。そうならないように教師は授業規律を厳しくしつけようとするが、そのままでは教師主導の授業しかできなくなる。子ども同士の認め合い、支え合う関係を作る労力は、教師が一人ですべての子どもの学びに責任を持つ授業をつくる労力よりもはるかに少なくてすむ。そして実りは大きい。

認め合い支え合う関係ができた子ども集団にどのような学習課題を与えるか。この点は、旧来の指導案検討会と同様の協議が有効だと思う。ただし、旧来の指導案では検討すべき事項が多すぎる。単元の目標、評価規準、教材解釈、児童生徒の実態、児童生徒へのねがい、ねがいに向かわせる手立て、単元計画、本時計画、板書計画などが主な事項であろう。これらすべてを丁寧に書くと、A4版で10頁以上の指導案になるし、その検討時間も長時間になる。一番重要なのは子どもにどのような力をつけさせるべきか、ということであろう。それが学習課題となるはずだ。佐藤学氏が「指導案の作成と検証から学びのデザインとリフレクション」への転換を提言しているのは、そのようなことだと思う。佐藤氏は旧来の指導案検討のスタイルを仮説検証型と批判しているが、私は仮説検証という文脈よりも検討すべき事項が多すぎることの方が問題だと思う。旧来の指導案の項目はそれぞれ検討に値する重要なものなのだが、コストパフォーマンスが悪いのだ。「何を学ばせるか」だけに焦点を当てることで、自然と他の事項も考えるようになるはずだ。

どのような学習課題を与えたらいいのか。算数であれば教科書に載っている課題を他社の教科書と比較検討したり、研究校や研究者の論文や書籍を参照して別の課題を考えたりするのもいいだろう。理科であれば実験だろう。教科書通りの実験でも十分子どもは夢中になるはずだ。論文や書籍から他の実験例を参照するのもいいし、どういう実験をすれば目指す結論が得られるかを子どもに考えさせるという課題でもいいだろう。社会であれば地域の教材だろう。子どもが日常



的に目にしたり触れたりすることのできる教材から社会的な事象を読み取ることができるかどうか、そのような思考に子どもが夢中になれるかどうかを検討する必要がある。

指導案検討のテーマを学習課題の1点に絞っても、長時間の議論になる可能性はある。だから時間を限って議論することを奨める。「もっと議論したい」という教師がいても、学校の教師全員が充実感をもって議論に参加するためには時間を限る方がいい（ファシリテーションに関する先行研究の多くで指摘されていることだ）。

練り上げられた学習課題を子どもに与えたら、水が高いところから低いところへ流れるように、子どもは学びに取り組むはずだ。自然と相談したいときには相談し、一人で考えたいときには考える。燃えだしたキャンプファイアの火に手を出すとかえって火が消えてしまうように、燃えだした子どもには手を出さず、そのままにした方がいい。ただし、子どもたちの議論が目指す方向性からずれてしまったときは修正する必要がある。そのために必要なのは子どもの議論を修正するテクニックではなく、教師自身が目指す子どもの姿をどれだけイメージできているかである。

学び合いは、枠を定めて子どもに話し合わせることではない。子どもの力を活用して授業を効率的に進める手段である。ただし教材研究までは効率化できない。教師の努力と子どもの学びへの意欲がかみ合いやすい方法が、学び合いということであろう。

## ● 千々布 敏弥 様 プロフィール .....

昭和 36 年 12 月 長崎県生まれ

平成 2 年九州大学大学院博士課程中退、文部省入省。その後私大教員を経て、平成 10 年に国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）。平成 18 年より総括研究官。

平成 12 年の間、内閣内政審議室教育改革国民会議担当室併任。平成 15 年の間、米国ウィスコンシン州立大学へ在外研究。

平成 18 年度教員免許更新制の導入に関する検討会議委員、学校評価の推進に関する調査研究協力者会議委員、平成 19 年度指導が不適切な教員に対する人事管理システムのガイドラインに関する調査研究協力者会議委員、平成 20 年学校の第三者評価のガイドラインの策定等に関する調査研究協力者会議委員、2013 年カザフスタンナザルバイエフインテレクチュアルスクール授業研究アドバイザー

単著「日本の教師再生戦略」教育出版 2005

単著「スクールリーダーのためのコーチング入門」明治図書 2007

編著「教師のコミュニケーション力を高めるコーチング」明治図書 2008

編著「授業力向上」実践レポート－実践の成果と舞台裏」教育開発研究所 2008

編著「学校評価」実践レポート－実践の成果と舞台裏」教育開発研究所 2009

単著「プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティによる学校再生」教育出版 2014

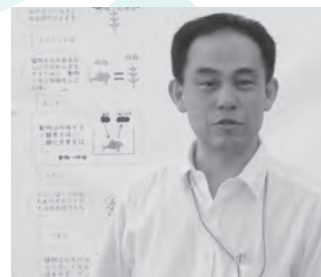
編著「結果が出る小中 OJT 実践プラン 20 + 9」教育開発研究所 2015

編著「県外から来た教師だからわかった福井県の教育力の秘密」学研 2015

## 論理スキル 4つのポイント

ファシリテーション

# FTの論理スキルで “話がかみ合い, 結論が出せる” 授業や会議に…



新潟県中学校教育研究会  
事務局長 山内 伸二

ファシリテーション

FTを取り入れると授業や会議は活発になります。でも、グループの発表で終わってしまい、生徒や参加者の考えをかみ合わせて検討できない、みんなが合意する結論に導けないといった悩みや不満が聞かれます。

論理スキル4つのポイントで、“話がかみ合い, 結論が出せる”授業や会議にしてみませんか。

ファシリテーション

## ■なぜ、学び合う授業をつくるのにFTが有効なのか？

### 学び合う授業とは何か？

「教え合い」「交流」「検討」の学び合いを授業に取り入れることで21世紀型能力（論理的・批判的思考能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力）の育成を目指す授業です。

平成25年度の創設50周年記念事業を節目に一斉・講義中心型授業の延長線での“授業改善”ではなく、この学び合う授業による“授業改革”を全県に進めています。

近年導入が求められているアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）が目指すことと同じであると捉えています。

### FTとは何か？

ファシリテーション（FTと略す）とは「集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、自己表現、成長などあらゆる知識創造活動を支援し促進する働き」<sup>\*1</sup>です。市民参加型まちづくり活動やビジネス分野等で開発・実践されてきました。FTは問題解決や合意形成等に至る集団による知的相互作用を促進させるスキルの集合体です。

FTのスキルは図1のように「対人スキル」と「論理スキル」に、論理スキルはさらに場・プロセス系のスキルと議論系のスキルに大別されます。そして、21世紀型能力の3つの能力と整合します。

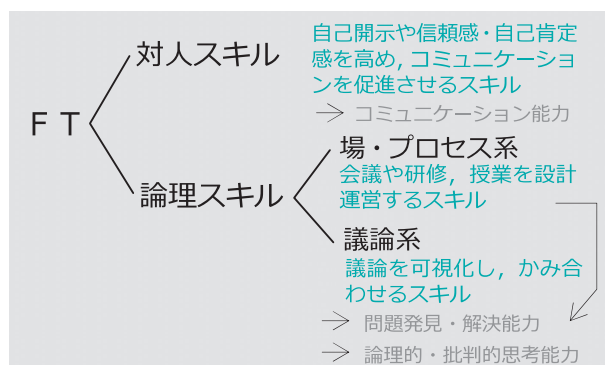


図1 FTのスキルの種類

### 教師が、そして生徒がFTのスキルを!!

FTのこの3種類のスキルを、まずは教師が身に付けましょう。そして、そのスキルを利用して学び合う授業をおこなうことが生徒の21世紀型能力を高めることにつながると考えています。

\*1 独立行政法人教職員研修センター（2013）『教職員の手引き～効果的な運用のための知識・技能～』P.12

## ■交流はできる,でも検討が… この壁を越えるにはどうすればよいか？

### どのような授業や会議にしたいか？

私たち教師が願うのはどのような授業や会議でしょうか。それは、全員が参加・参画し、退屈で眠くならず、頭が活性化する授業や会議、生徒や参加者から出た意見がかみ合い、合意する結論が出せる授業や会議といったところでしょう。

創設 50 周年事業開始から 3 年，“学び合う授業”と“教師の学び合い”は全県に広がりつつあります。FT が授業や会議に取り入れられることが多くなりました。FT を取り入れると授業や会議が活発になります。生徒や参加者は頭をフルに回転させて、授業や会議に参加するようになります。図 2 のように下の 2 つは比較的容易に有効だと感じることができます。しかし、「生徒から出たたくさんの意見をうまくかみ合わせ、検討することができない」、「結局グループで話し合わせても、その発表会で終わってしまう」、「みんなの意見をまとめて合意や結論にうまく導けない」といった悩みや不満がしばしば聞かれます。交流はできるが検討はむずかしい。FT の導入で生じるこの壁をどうすれば越えることができるのでしょうか。

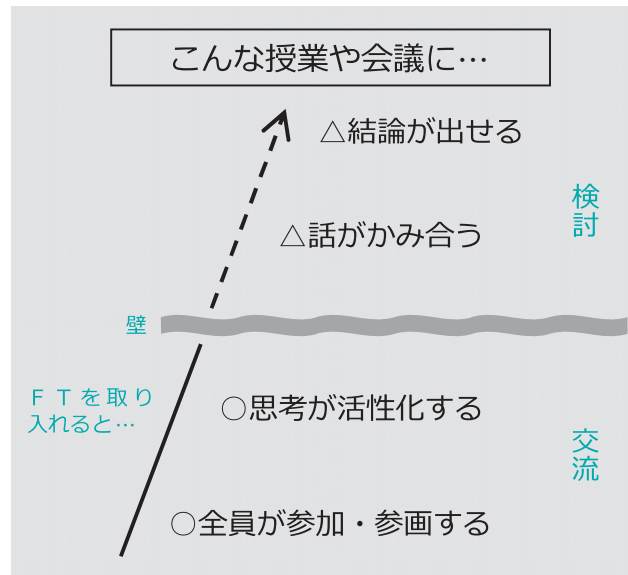


図 2 こんな授業にしたい…

- 1 基本プロセスで話し合いを進める
- 2 議論を明確にする
- 3 フレームワークで思考を促し、整理する
- 4 問題意識をもたせ、問題を共有する

図 3 論理スキルの 4 つのポイント

### 壁を越える論理スキル 4 つのポイント

この壁を越えることを“容易”にし、“促進”させるスキルが FT で開発され実践されています。それが論理スキルです。数多くある論理ス

キルのうち、図 3 のように 4 つのポイントに絞ってみました。CLASS 第 2 号では“話がかみ合い、結論が出せる”授業や会議にするための 4 つのポイントを紹介します。

## ポイント 1 基本プロセスで話し合いを進める

### 「拡散」と「収束」に分け、可視化しよう！

一番の基本は FT の流し方（プロセス）を理解することです。その授業や会議でメインとなる話し合いの部分を「FT の基本プロセス」で進めるように設計しましょう。

基本プロセスは「個→拡散→収束→個」の流れで、模式図として表したものが図 4 です。

まず、論点（問い・発問）を提示し、論点に対する生徒や参加者個々の考えを持たせます。次に、個の考えをペアやグループ等を出し合い

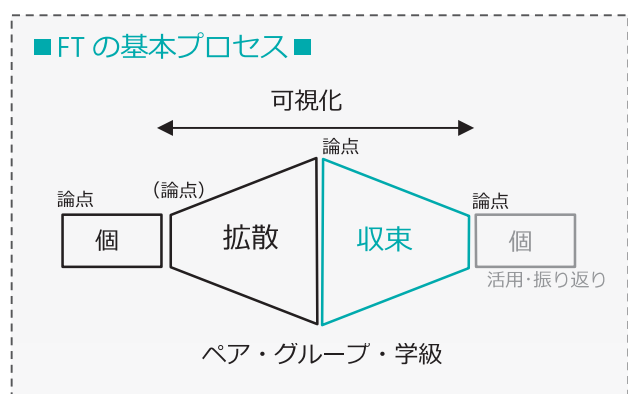


図 4 FT の基本プロセス

「拡散」します。そして、たくさん出た意見は整理し、構造化したり、価値付けしたりします。これが「収束」です。収束したことを基に「個」で振り返ったり、次に活用したりします。これがFTの基本プロセスです。これをベースに状況に応じてアレンジしていくと良いでしょう。

FTと通常の授業や会議との違いは拡散と収束をきちっと分けることです。せっかく出した意見やアイデアが、出してすぐに否定されると、積極的に発言しよう、アイデアを出そうという気になりません。話し合いに参加しようとする生徒や参加者の意欲を削ぐことになるからです。

また、議論全体を可視化します。議論が論点からぶれにくくなるとともに、「人」への意見でなく、可視化された「内容」への意見に変わります。

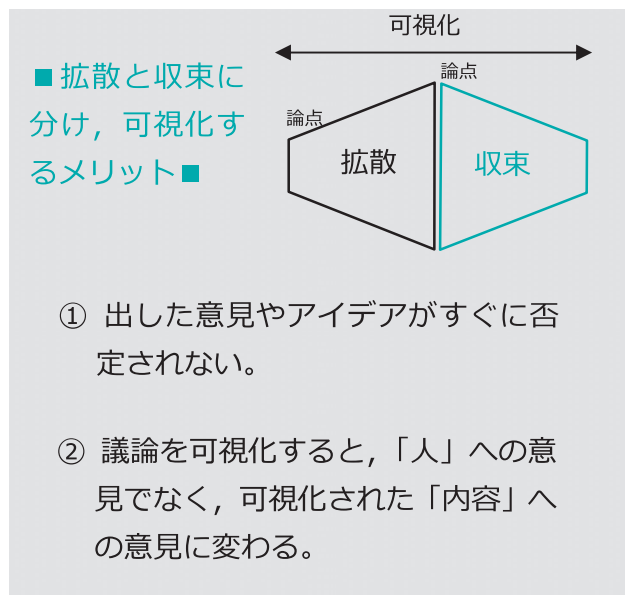


図5 拡散・収束に分け、可視化するメリット

## ポイント2 議論を明確にする

まず、論点を疑問文で表し、提示しよう!

拡散や収束ごとに論点を示します。「論点」とは考え、話し合う内容やテーマを疑問文で表した問いです。学校教育ではこれを発問と呼びます。黒板やホワイトボード等に大きく書き、可視化して提示するようにしましょう。

### 論点を疑問文で表すメリット

話し合いで出た発言をかみ合わせたり、まとめたりできない大きな要因として、何を話し合うかが、そもそも、はっきり示されていないことがあります。

よくある論点は、図7のように、「前期の活動について」など名詞だけ表現したり、「変化をホワイトボードに整理しなさい」と指示で表現したりします。こういう論点では、発言者の発言のポイントがバラバラになります。

論点を疑問文で表現すると、何を話し合うべきか、考えるべきかの焦点を絞ることができます。

基本プロセスでは、「個・拡散の論点」を疑問文で示し、たくさん意見が出たら、「収束の論点」を疑問文で示すことになります。

論点：考え、話し合う内容やテーマを疑問文で表したもの(問い・発問)

※ 黒板等にも書き、確認できるようにする

図6 論点とは何か

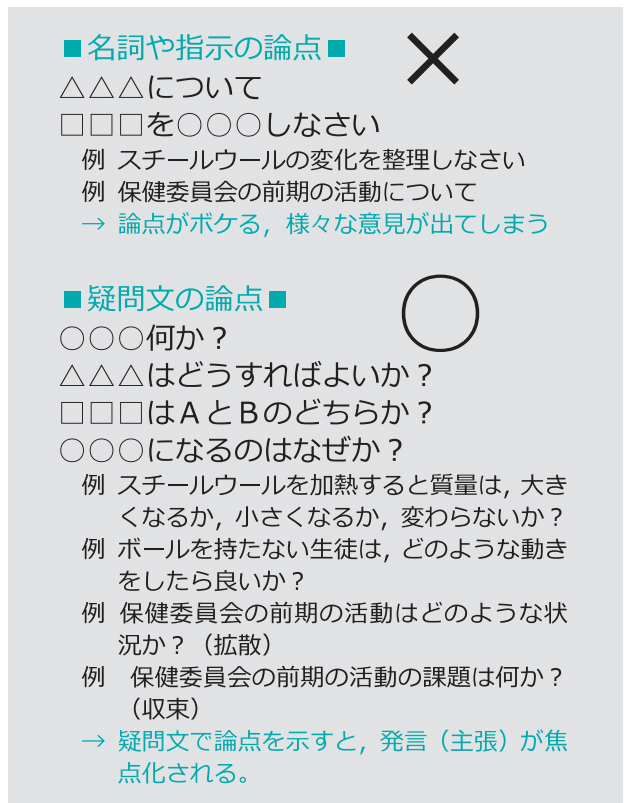


図7 論点は名詞でなく、疑問文で提示する

## 「議論」の大枠を知ろう！

日本語で「議論」というと、相手と話し合うことを意味します。

しかし、FTでの「議論」は図8のように「論点」と「主張」から構成されます。

まず、論点（問い）を定めます。

そして、その論点（問い）に対して、どのような主張（答え）があるかをはっきりさせます。

主張の意味がよく分からない場合は、主張に対して「どういうこと？」と尋ね、具体的にしていく必要があります。

また、主張の理由がよく分からない場合は、主張に対して「なぜ」と尋ね、主張の「根拠」と「理由付け」を明らかにします。

これが「議論の明確化」です。

「検討する」とは「議論の明確化」をすることであり、さらに、主張の各要素やつながりを吟味することです。

## 「議論の明確化」の3つのタイプ

議論を明確化は、題材や場面、教科・領域の特性から3つのタイプに分けることができます。

1つ目は図9の「イメージ・アイデア系」の議論です。論点（問い）に対して、付箋等を利用してたくさんの主張を出し、似たものをまとめて整理し、主張を整理する議論です。集団がもっているイメージを可視化したり、アイデアをたくさん出したりするときなどに有効な議論です。

これに対し、課題を見いだしたり、解決策を出し合ったりするといった目標達成の過程での議論は、主張がはっきりしただけでは不十分で、主張に「どういうこと？」と問いかけ、具体化したり、実例を挙げたりする必要があります。それが図10の「目標達成系」の議論です。

見方や考え方、概念を学習する国語、数学、理科、社会、道徳等の場合は、図11の「認識変容系」の議論が有効です。論点を閉じた問いにして主張を絞り、主張を対立させ、「なぜ？」その主張を選んだか、理由を明確にし、吟味する議論です。根拠（みんなが同意する事実）を理由付け（根拠と主張をつなぐ論理、論拠ともいう）でつなぐように理由を表すと、理由付け

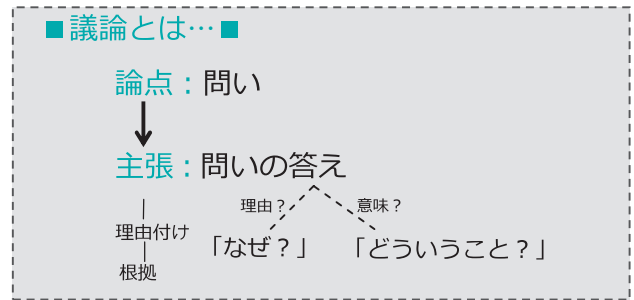


図8 議論とその要素

## ■ 「イメージ・アイデア系」の議論 ■

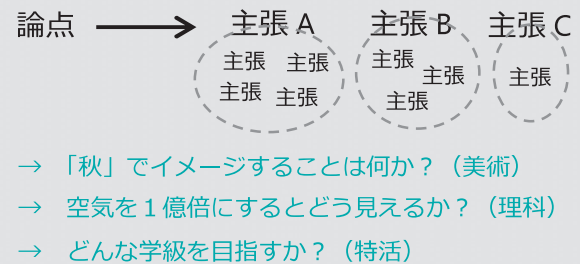


図9 「イメージ・アイデア系」の議論の明確化

## ■ 「目標達成系」の議論 ■

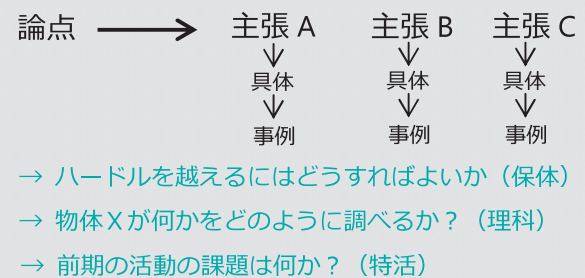


図10 「目標達成系」の議論の明確化

## ■ 「認識変容系」の議論 ■

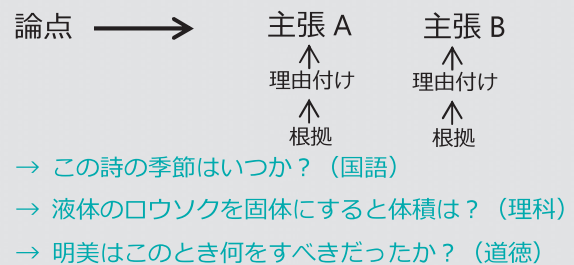


図11 「認識変容系」の議論の明確化

の部分に、考え方や概念の違いが現れます。議論を通して新たな考え方や概念の有効性に気づくなど、認識を変容させることができます。

## ポイント3 フレームワークで思考を促し、構造化して活用する

### フレームワークは議論を道案内する枠組み

議論をする際、観点や可視化する枠を明確にしておくことで、思考が適切に促され、意見が出やすくなります。また、議論がブレにくくなり、整理されます。そんな議論を道案内してくれる「観点と枠のセットの枠組み」がフレームワークです。

フレームワークには図12のように観点的セットである「切り口（観点）」と枠の置き方や組み合わせである「構図（枠）」の2つがあり、これを組み合わせて使います。

フレームワークは図13図14の「線で区切る」「理由付けチャート」のように個や拡散の最初から取り入れて思考を促す場合もあれば、図15の「親和図」のように拡散の途中から利

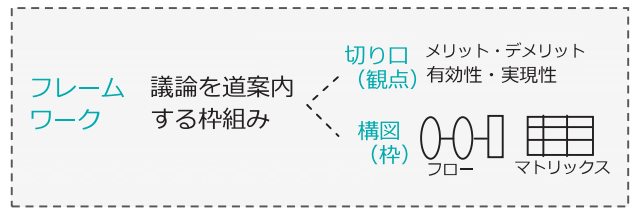
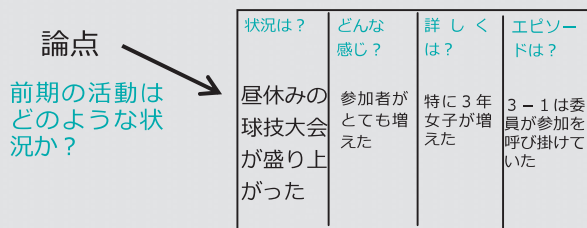


図12 フレームワークとは...

用して構造化したり、図16の「2次元マトリックス」のように「親和図」でいったん構造化した後、さらに視点を改めて構造化しなおし、活用を図ったりする場合があります。

ただ、フレームワークの安易な利用は気をつけましょう。メリットの反面、生徒や参加者の思考を強く縛るので、授業や会議の目的、生徒や参加者の状況により適度に利用することが大切です。

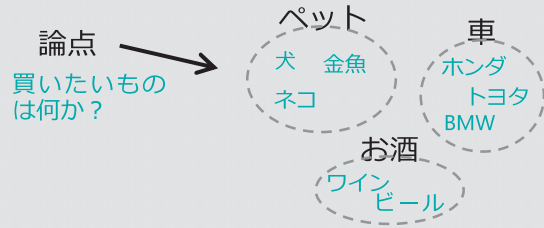
### 線で区切る



ホワイトボードや模造紙を線で区切り、観点を書くだけでもフレームワークです。空欄を埋めたいという気持ちになり、思考が自然に深まります。しかし、真っ白なところに自由に書く良さもあるので、目的に応じて適切に利用しましょう。

図13 線で区切る

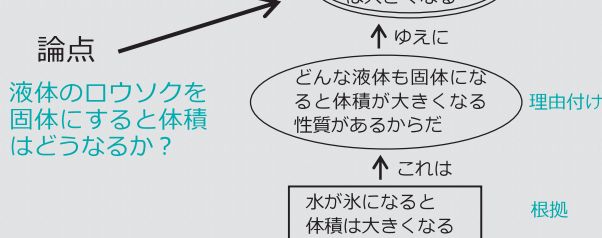
### 親和図



集団の持つイメージを確認したり、アイデアを出し合ったりする議論では、主張を付箋に書き、似たものを寄せグループにし名前を付け構造化します。グループにつける名前は、論点に答える形にしましょう。目的や論点からブレにくくなります。

図15 親和図（グルーピング・ラベリング）

### 理由付けチャート



フロー型は、物事の流れや因果関係をつかみやすいという特徴があります。実験の予想理由を、文章で書いた場合より「理由付けチャート」で表した方が、他者の予想との同異を比較しやすくなり、また、あいまいな部分を見つけやすくなります。

図14 理由付けチャート（フロー型）

### 2次元マトリックス

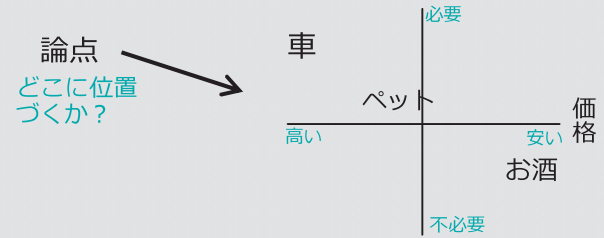


図15の親和図で構造化した主張（グループ名）を、2次元の座標上に置くことで再構造化します。「実際に何を買うか」を合意するとき、親和図では3つの主張は同列ですが、必要性和価格の切り口を取り入れることで、3つが価値付けられます。

図16 2次元マトリックス

## ポイント4 問題意識をもち、問題を共有する

### 学び合う授業には問題意識が必要！

問題とは「あるべき姿と現状とのギャップ」です（図17）。FTのスキルの利用で話し合いは活発になります。しかし、生徒や参加者に、解決したい達成したいという問題意識がないと楽しく有意義な話し合いはできません。

問題意識を持ち、問題を全員が共有すること、ワクワクするような課題に取り組むことが学び合う授業には必要不可欠です。

### 「問題」の3タイプ

#### ■「目標達成系」の問題■

“3歩でハードル越えたいのに、自分は4歩だ”これが図18の「目標達成系」の問題です。新潟市保体部指定研究では最初は低いハードルにし、みんなが目指す姿を体感できるようにした後、ハードルを高くし、3歩で越えられない強い問題意識を持たせていました。最初にハードルを低くすることで目指す姿をきちんと「体感」させる手立ては問題意識醸成の良いモデルです。

#### ■「認識変容系」の問題■

■なぜ型■ スチールウール燃焼後の質量を予想すると、生徒が軽くなると予想します。しかし、実験すると重くなります。予想と異なる現象の提示は図19の「なぜ型」の問題です。

■どっち型■ なぜ型の問題意識で学び合う授業をおこなうと酸素の燃焼理論を生徒自ら発見することが必要で難しいです。事前に酸素の燃焼理論をある程度学習して予想させると、重くなると軽くなるに予想する生徒に分かれ、強い問題意識をもちます。これが図20の「どっち型」です。学び合う授業は「活用」の授業であり、異なる主張による問題意識醸成は良いモデルといえます。

#### ■問題とは…■

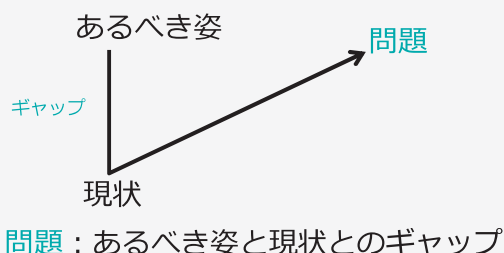


図17 問題（基本モデル）

#### ■「目標達成系」の問題■

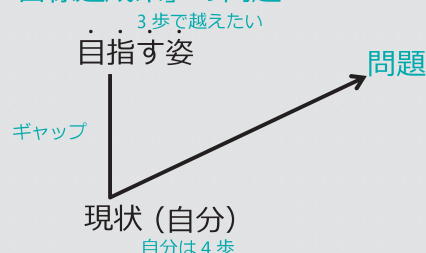


図18 「目標達成系」の問題

#### ■「認識変容系」の問題（なぜ型）■

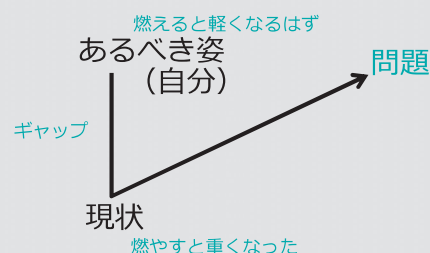


図19 「認識変容系」の問題（なぜ型）

#### ■「認識変容系」の問題（どっち型）■

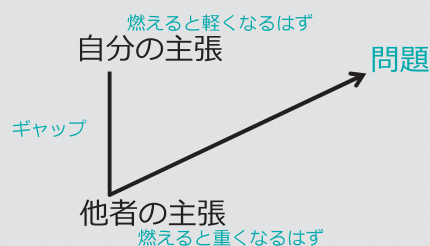


図20 「認識変容系」の問題（どっち型）

## ポイント4→1→2→3で“話がかみ合い、結論が出る”授業・会議をつくろう！

4ポイントの順は4→1→2→3です。まず[4]問題意識を醸成します。次に[1]授業や会議を個→拡散→収束→個・活用と設計し、[2]拡散の論点と収束の論点を疑問文で順に示しま

す。そして、それぞれの議論の明確化の際に[3]フレームワークを適切に使うと思考が促され、複雑な議論もよく整理されます。実際の授業・会議で4ポイントを実践してみましょう。

## 活動・研究の振り返りは<sup>ケ</sup>PTで…

ファシリテーション

### FTで活動や研究の“振り返り”を有意義に！

生徒対象に行事や活動，教師対象に研究や分掌等で振り返る機会は多くあります。

「大切なんだけど、なかなか前向きにならない…」 「マイナス面ばかりが話題になり、建設的にならない…」 など、活動をよりよく

し、やる気が出る“振り返り”はむずかしいものです。そんなときに手助けしてくれるのが<sup>ケ</sup>PTのフレームワークです。

### <sup>ケ</sup>PTってどんなフレームワーク？

<sup>ケ</sup>PTはマネジメントで利用されるフレームワークです。3つの切り口と3枠の構図を組み合わせて図1のように表します。

通常の振り返りはまず成果を出し、その後、課題を出し、その解決策を検討するという手順をとります。すると、成果と課題が分離され、課題は、実施上問題が指摘・検討される場合が多く、振り返る活動のねらいや目標が達成したかの視点が抜け落ちがちです。

それに対して、<sup>ケ</sup>PTを利用するとまず、継続したい成果<sup>Keep</sup>を出します。これでねらいを意識します。その後<sup>Keep</sup>と課題の両方を基に、次に<sup>Try</sup>という試みたいことを出し合うので、活動が目指すことやねらいを見失わない、建設的な話し合いができるのです。

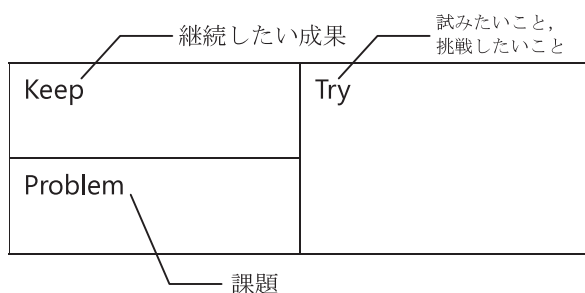


図1 フレームワークKPT



図2 県中教研 学校保健部の振り返り

### KPTを使ってどのように振り返るか？

県中教研 全県学校保健部会での研究の振り返りの写真が図2で、ファシリテーション・グラフィックが図3です。この時はまず、1年間の研究の状況(C)をKPTの前に出し合いました。この状況を基に<sup>Keep</sup>と<sup>Problem</sup>を抽出し、次にKとPから次年度に向けて<sup>Try</sup>したいアイデアをメンバーで出し合い、最後に各班の<sup>Try</sup>を共有しました。

状況(C)とKPTで、活動のねらいを見失わず、プラス思考の振り返りができます。

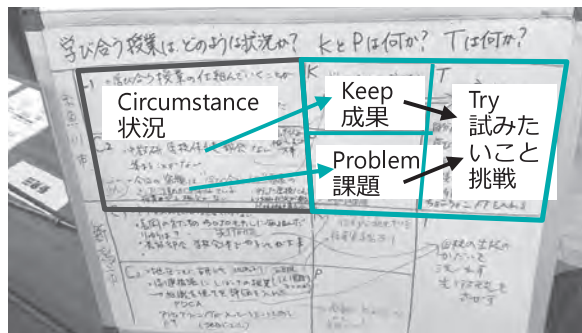
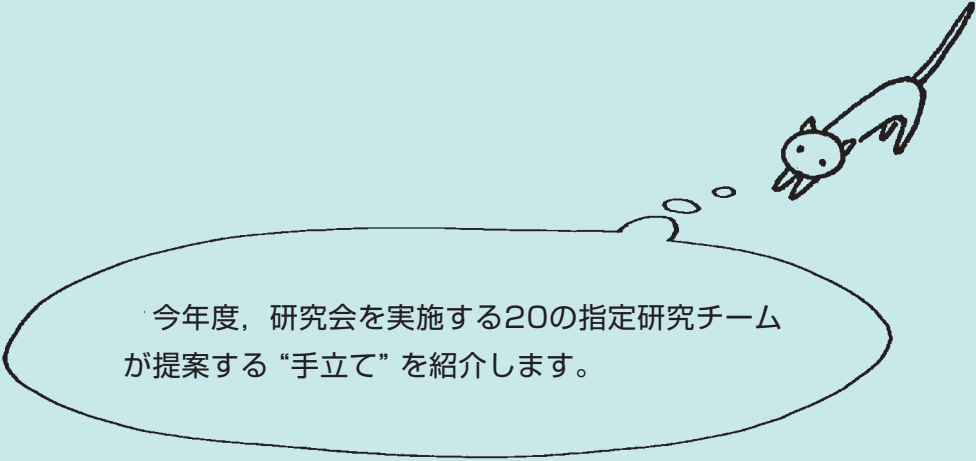


図3 状況(C)を加えたKPTによるホワイトボード



## ② 指定研究チームが提案する 21世紀型能力育成の手立て



今年度、研究会を実施する20の指定研究チーム  
が提案する“手立て”を紹介します。

# 社会

## 単元構想シート等で 単元を見通した思考の深まりを 考えよう



県中教研社会部 全県部長  
燕市立燕北中学校 松井 淳

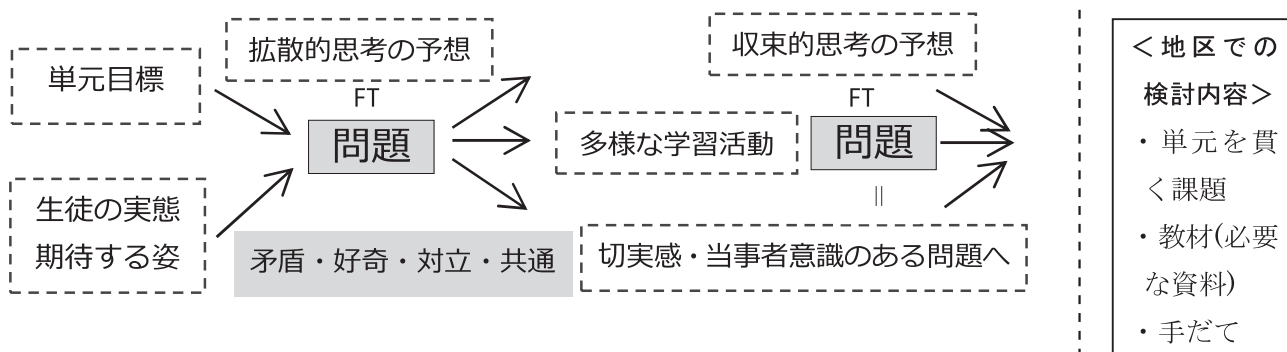
「学び合い」を通して、社会認識と自己認識が密接不可分な関係になることで社会の学習は成立します。そのためには、一単元を見通して生徒が「切実感」、「当事者意識」をもちながら自分自身の問題として思考を深めていくことが必要です。ここでは、単元構想シートと単元チェックのポイントを紹介します。

### ポイント1 社会認識の深化に向けて一単元を見通して拡散的思考と収束的思考を考える。

一般的に一時間一学習問題（課題）の授業では、生徒の問題意識の連続性が意識されない傾向があります。単元という適度なまとまりの中で、生徒の実態を踏まえ、学習内容を構造化し、生徒の問題意識の動きを想定しながら思考力・判断力・表現力を育てていく必要があります。そのためには、単元構想シートを活用することが有効です。

単元構想シートを活用しても、FTという学びの形式のみに目が向けられて学習問題（課題）が設定されては活動主義に陥ってしまいます。

一単元を見通して、個々の拡散的思考から、集団的思考を通して生徒が何を問題としていくかを検討することが大切です。問題の解決が、自分自身の在り方や生き方と結びついてこそ社会認識の深化が期待できるからです。中越地区の研究では、「単元構想シート」を活用します。



## ポイント2 望ましい單元であるか、全体像をチェックしながら單元を構想しましょう。

『昭和26年版小学校学習指導要領・社会科編』（p.29-30）には下記の、「望ましい単元の備えるべき条件」が示されています。これは、「学び合い」が活動主義に陥ることなく、社会認識の深化に向けて單元全体の中で構想されているかどうかをチェックする際に有効です。

現在、各地区で指定を受けた市町村単位の中教研では、一單元を見通した單元構想に取り組んでいます。社会認識と自己認識が密接不可分なものになり、教科目標に迫る必要があるからです。中学校の実践では難しい部分もありますが、下記を参考にチェックしてみましょう。

- 1 単元の明確な目標があらゆる学習活動の指導の中にしみ通っているか。
- 2 單元の中に、生徒が強い関心をもって、解決のために活動を営むような問題が含まれているか。
- 3 問題の解決をめぐる、多様な学習活動（話し合い、調査、見学、劇的活動等）が行われ、豊かな経験が身に付くようになっているか。
- 4 單元の間口は狭くて、そこから深く入っていくように工夫されているか。（單元の間口が広いと、学習が平面的になり深く入り込みません。共通問題から次々に問題が派生してくるようにしましょう。例えば、学習課題が「〇〇市の財政問題について考えよう」では間口が広すぎます。）
- 5 単元の計画は固定的なものでなく、弾力的なものになっているか。（教師が予想できなかった望ましい問題や活動が生徒から提案されたとき、これを取り上げることができるか。）

## 社会 重点方針

自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会の学習指導に努める。

- 生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「單元構成の工夫」を行う。
- 学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。
- 資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。

## 社会 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	單元構想シート等の活用	生徒の理解や認識の状況を把握し、單元レベルで目標や指導計画をたてている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活とかかわらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

# 社会〈上越地区〉

## 1時間の話し合いの「見える化」で、思考力を高める



上越市中教研 社会部

研究推進責任者(左) 上越市立城北中学校 藤田 賢  
会場校担当(右) 上越市立城東中学校 小林 真史

1時間の話し合いを1枚のシートに表現することで、学びの過程が「見える化」され、思考が深まりにつながります。

### 手立て設定の理由

社会の授業にありがちな「受け身的な態度」や「深まりに欠ける話し合い活動」などの課題を解決するために、表現ツールと記入の仕方を工夫し、1時間の学びを「見える化」します。このことで、次の3つの効果を期待します。

#### 手立てのメリット

- ① 話し合いの流れや内容が捉えやすく、見通しのある主体的な学びにつながります。
- ② 自他の意見を比較・関連・共有でき、対話的な学びをうながします。
- ③ 自分や他者の考えやその変化を確認でき、思考を深めます。

### 手 立 て

1時間の話し合いを1枚のシートに表現し、「見える化」する。

#### ステップ1

「見える化」できる表現ツールを活用する。

#### ステップ2

学びの過程が見える記入方法を工夫する。

#### ステップ3

わかりやすく記録し、話し合いの質を高める。

### ! ここは気をつけよう!

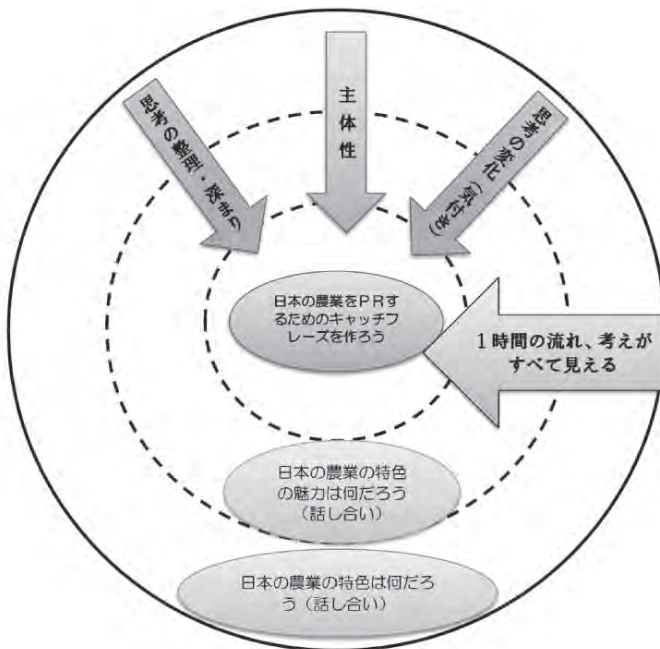
話し合いの質を高めるためには、周りにわかりやすいように記録・表現（見える化）することが大切になります。普段から「キーワードで記録する」「要約してわかりやすく表現する」等の力を高める指導を行うとともに、ファシリテーターが発言者の意図を確認したり、表現についてのアドバイスを行ったりすることも必要となるでしょう。

## ステップ 1



円卓型コミュニケーションボードを活用し、より主体的、対話的に話し合いができる環境をつくります。

## ステップ 2



コミュニケーションボードの記入の仕方を適切に指示し、授業の流れに合わせて、自分の意見や仲間の意見、班での話し合いの内容を段階的に「見える化」します。そうすることで、見通し、振り返りのある授業、主体的・対話的で深い学びをうながすことができます。

## ステップ 3

コミュニケーションボードへの記入は、「わかりやすく」を大切にします。キーワードで表現したり、要約したりできるよう、適切にアドバースを行います。

### 指定研究会情報

#### 上越地区（上越市中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：誰もが「参加できる」「わかる」授業の工夫  
～思考を深めるための学び合いを通して～

魅力ある課題設定と1時間の話し合いを「見える化」することで、主体的・対話的な学びと思考の深まりを目指していきます。

◇月 日：11月11日（金） ◇会場校：上越市立城東中学校

◇公開：1学級 2年 授業者 丸山 徹也

◇指導者：上越教育事務所 指導主事 岩片 和義

# 社会 〈中越地区〉

## 生徒が本気になる授業を 単元構想シートで 練り上げます！



小千谷市中教研 社会部

研究推進責任者(左) 小千谷市立小千谷中学校 鈴木 勇  
会場校担当(右) 小千谷市立千田中学校 大井 和人

生徒の実態と社会的事象のズレを埋めるため、単元全体を見通しながら課題提示や学習形態を工夫します。それが、主体的に取り組む姿につながります。

### 手立て設定の理由

単元と生徒とのかかわりをきちんと捉え、生徒の中に生まれる矛盾をもとに単元を貫く学習課題を設定し、単元構成や学習形態を工夫することが必要です。

また、単元構想シートにまとめることによって日々の充実した授業を継続できます。

### 手立てのメリット

単元全体で授業に対する生徒のモチベーションが維持できるとともに、生徒が時と場に応じて主体的に活動できます。

### 手 立 て

授業に主体的に取り組むために単元構想シートで練り上げる。

#### ステップ1

単元のねらい・課題と生徒の実態のズレ解消の手立てと検証

#### ステップ2

生徒が自己表現できる学習形態と収束の場の検証

#### ステップ3

「単元構想シート」で単元全体を見通した構想に着手



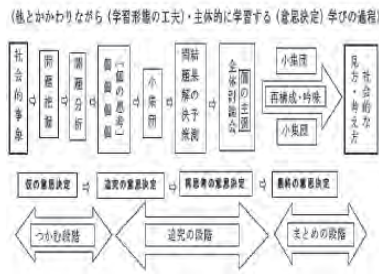
### ここは気をつけよう！

授業に主体的に取り組むために、課題設定については、学習課題に対して、興味をもち、自分なりの考えや疑問をもたせる工夫が必要です。また、学習形態、手法では、自分の考えを明確にする時間の確保、情報活用、班編成のあり方、視点を与えて議論を深める、FTなどの付箋の活用による情報の可視化・拡散・収束の工夫が必要です。

# ステップ 1



# ステップ 2



# ステップ 3



## 社会科単元構想シート (2)年・(歴史的分野)

### 1. 単元について

**○単元名** 経済の成長と幕府の改革

**○単元の目標**

- 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりについてとらえ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。
- 貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解するとともに新しい学問・思想の動きに気づく。

**○身に付けさせたい力**

- ・江戸時代中期の政治・経済・文化などに関する関心を高め、意欲的に追究する力。
- ・江戸時代中期の政治・経済・文化などを多面的・多角的に考察し、関連性を見出し、その過程や結果を表現する力。
- ・江戸時代中期の政治・経済・文化などに関する資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりできる力。
- ・江戸時代中期の政治・経済・文化に関することを理解し、知識として身に付けること。

### 2. 単元に対する教師の願い・想い

- ・地域の伝統文化や伝統産業に江戸時代中期の政治・経済・文化の動向は深く関わっていることを理解してもらいたい。
- ・地方でつらされたものが流通ネットワークに乗り、都市や武士の生活を支えていることを理解してもらいたい。
- ・経済や社会の変化が幕藩体制への民衆の不満となり、社会を大きく変化させていく力になることに気づけてもらいたい。

### 3. 生徒の単元に対する現状と実態

- ・テレビの時代劇や大河ドラマ的なイメージで時代をとらえている。都市は栄えているが、農村は年貢の取り立てが厳しく、貧しい生活をしていると考えられている。
- ・伝統工芸品の小千谷縮があることは理解しているが、小千谷縮が江戸時代の流通や政治とどのような関わりがあるのか、ということまでは理解していない。
- ・武士が年貢米を全て食べていると考えている。

### 4. 単元をつらぬく課題設定

江戸時代の政治、経済、文化と小千谷はどのような関わりがあったのだろう？

### 5. 必要な資料

- ・郷土資料『小千谷の歴史』2004年 小千谷市教育委員会発行
- 第6章 縮みのふるさと P 65～76
- 第7章 農民の暮らし P 71～88
- 第8章 町人の文化 P 89～98
- 『知っておきたい新潟県の歴史』2010年 新潟日報事業社
- メイド・イン・エチゴ P 136～137
- 小千谷縮の写真資料 小千谷商工会議所 HP

### 6. 手立て

- ・新田開発が小千谷でも行われていたことを、「○新田」地名を想起させて気づかせる。
- ・小千谷縮を通して江戸時代の経済や政治について考えさせる。  
例 小千谷縮の全国流通→農産品として意欲的改革、天保の改革で売買の制限がかかる→小千谷縮貢進

### 7. 単元のながれ (※上記の資料に関連させて、学習形態を明記する)

次	学習活動・中心発問	思考を促す資料・学習形態	評価
1	江戸時代の藩や幕府の収入は年貢米で、一般武士の収入は俸禄の米を商人に売って得ていたことを学習する。 <b>藩や幕府の収入を増やしたい武士と、生活を豊かにしたい農民はどんなことを行ったのだろう。</b> 江戸時代に新田開発や農具等の改良により、農業生産が飛躍的に伸びたことを資料と関連づけて学習する。 花開町人文化 一元禄文化と暮らしの変化→年貢米や特産品が集まる大阪江戸など大都市が栄えたこと、特に上方町人を中心とした元禄文化が生まれたことを学習する。	・一斉 → 小集団 ・江戸時代人口グラフ ・江戸時代の石高グラフ ・5つの資料(新しい農具の図、全国の特産品地図、新田開発のようすの図、耕地面積増加のグラフ、米の収穫量増加のグラフ)をワークシートに貼り付けて関連付けをする。 ・個別 → 一斉 ・年貢米や特産品の流通についてまとめた穴埋めワークシート ・元禄文化に関連する写真資料 ・江戸時代の日用品の物価資料が残っていること(問)	①藩や幕府の収入は年貢米で年貢米を商人に売って貨幣に変えており、現代とは違うしくみで経済が動いていたことに興味を持つ。(問) ②5つの資料を関連づけて説明する言葉や表現をワークシートにかきこむことができる。(資) ①江戸時代の物資の流通が大阪を中心に行われていたことを理解できる。(知) ②元禄文化の担い手が上方の町人であったことや現代にも影響が残っていること(問) ③小千谷縮が農民ではなく武士や裕福な商人向けに作られていたことを考察することができる。(思) ・写真資料により小千谷縮はどのような布か確認。 ・ワークシートに広告原案を書く
2	江戸時代中期の政治改革 — 経済の変化と政治の変遷 — <b>幕府や藩はなぜ改革を行ったのだろう。</b> 「前藩藩家の政治」松平定信の寛政の改革を比較し、優劣をつける。	・一斉 → 個別 ・教科書、資料集 ・徳川綱吉の政治、新井白石の政治、徳川吉宗の享保の改革を比較し、違いを見いだす穴埋めワークシート ・一斉 → 個別 → 小集団 ・教科書、資料集 ・2人の政治を比較する穴埋めワークシート	①幕府の財政の基礎が年貢米にあることから改革が必要であったことに気づく(思) ②若くなった幕府の財政を渡ったやり方で立て直そうとしていることを考察している。(資)(思)
3	連判状にまとまる人々 — 農村の変化と — 百姓一揆の高まり <b>農民は何に反発して一揆を起したのだろう。</b>	・一斉 → 個別 → 小集団 ・佐渡の資料 ①佐渡の米価の変化表 ②年貢が2倍になったのに一揆が起きなかった事例。 ・一揆・打ちこわし増加のグラフ	①米価の値下がりや、武士だけでなく農民の家計を圧迫し、貧富の差を広げていったことを理解できる。(知) ②幕府・藩の財政悪化による年貢の一方的な引き上げが、百姓一揆の要因になっていることに気づくことができる。
4	「読み・書き・そろばん」のならい — 学問の広まりと化政文化 — <b>武士の支配する社会に批判的な目撃者として活躍したのだろう。</b>	・一斉 → 個別 → 一斉 ・化政文化に関連する写真資料 ・江戸時代の日用品の物価資料(本の価格、浮世絵価格、寺子屋月謝など) ・『小千谷の歴史』町人の文化	○江戸時代の化政文化は庶民が中心となる文化であり、政治や経済と関わりなが時代に対する批判的な精神が広まっていたことを理解する(知)

## 指定研究会情報

### 中越地区(小千谷市中教研)社会教育研究発表会

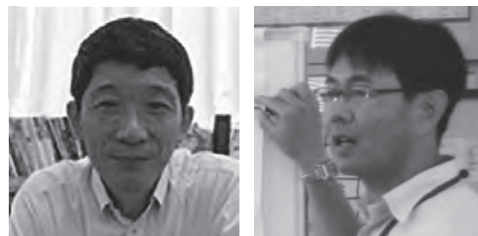
◇研究主題：学び合いを通して、主体的に課題を追究する生徒の育成  
～単元構想シートの活用を通して～

単元をつらぬく課題設定の作成と状況に応じた学習形態の工夫を柱として、「単元構想シート」の作成を目指します。「単元構想シート」があることで、教師が見通しをもってやりたくなる授業を。そして、生徒が意欲的に本気になって取り組む授業を目指します。

- ◇月 日：10月27日(木) ◇会場校：小千谷市立千田中学校
- ◇公開：1学級 3年 地方自治と住民の参加(3年A組) 授業者 大井 和人
- ◇指導者：小千谷市教育委員会 指導主事 小池 尚志  
小千谷市立南中学校 校長 日岡 求

# 社会〈新潟地区〉

## ジグソーで広がる思考を ファシリテーションで 深めていく！



新潟市中教研 社会部

研究推進責任者(左) 新潟市立石山中学校 小林 朗  
会場校担当(右) 新潟市立白新中学校 小塚 忠昭

ジグソー法を活用し、社会的な事象を多面的に把握し、多角的に考察していきます。さらにFTによって合意形成を求めていく中で思考の深まりにつながります。

### 手立て設定の理由

社会的な事象について自ら問題意識をもち意欲的に追究活動を行う。その成果や自己の考えを元に学び合う活動で、学びが深まり、総合的に考える力が身につきます。

そこでジグソー法やFTの手法を活用することで協働して課題に取り組み、多面的な把握をし、多角的な考察にもつながっていくと考えます。

### 手立てのメリット

- ① 自分が予測した立場や観点で主体的な追究活動を行います。
- ② 異なる立場や観点との交流、比較、検討で多面的な把握が可能になります。
- ③ 多角的な考察につながり、仲間との学び合いに直結します。

【参考文献】筒井昌博編著(1999)『ジグソー学習入門』明治図書

### 手 立 て

#### ジグソー法とFTを活用！

##### ステップ1

社会的な事象について、自分の考えた立場や観点で追究活動。

##### ステップ2

異なる立場や観点で追究した生徒と交流、比較、検討。

##### ステップ3

FTの手法を活用し課題解決の方策や最終的な合意形成を目指す。

### ! ここは気をつけよう！

ジグソー法を活用して追究活動を行う場合、思考の広がりを見ることができます。次に収束に向けていくために、問題解決型の課題を設定したり、合意形成を必要とする課題を設定したりしていくことで、思考の広がりから深まりに向かっていきます。



## ステップ 1



同じ立場，観点で線にまとめる。立場，観点で付せんの色も変えます。



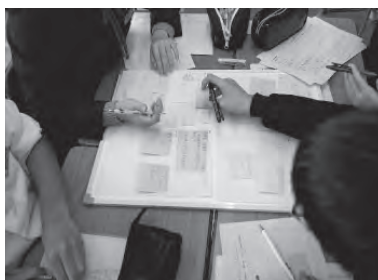
同じ立場，観点で集まって共有。思考を強化！

各自の追究する観点や立場を明らかにし，自分の追究結果を付せんにまとめます。



同じ観点や立場の生徒が追究結果や考えを持ち寄り共有します。(強化する。)

## ステップ 2



発表を聞いた後の質問，疑問などの記録も残します。

異なる観点や立場の生徒で集まる。そこで，自分の追究結果を付せんを貼りながら説明します。

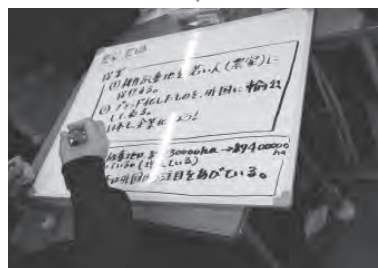


そこで出された意見，疑問，質問も付せんに書いて残していきます。

## ステップ 3



FTでまとめたものを元にして再度検討。



FTの手法を用いて，課題解決に向けて話し合いを行います。



課題解決や合意形成に向け，広がった思考が深まりをみせていきます。

### 指定研究会情報

#### 新潟地区（新潟市中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：社会的事象を自分ごととしてとらえ，課題解決の方法を考え，他者と協働して解決を図る生徒の育成  
～ジグソー法で学びを広げ，ファシリテーションで学びを深める～

ヨーロッパ州の特色を，追究場面ではジグソー法を用いて，多面的に事象を捉え，検討の場面ではファシリテーションの手法を活用し，課題解決を図ります。

◇月 日：11月24日（木） ◇会場校：新潟市立白新中学校

◇公 開：1年 ヨーロッパ州 授業者 山田 耀

◇指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 山本 達也  
新潟市立松浜中学校 校長 岡田 聡

# 社会 〈下越地区〉

## 自分はどう考えた！ 可視化で考えを 深化させよう！！



新発田市中教研 社会部

研究推進責任者(左) 新発田市立七葉中学校 神田 武  
会場校担当(右) 新発田市立佐々木中学校 田中 正朗

根拠をもとにした自分の考えを生徒にもたせます。その考えを可視化して学び合いを進めることで、視点が明確になり、生徒の考えは深化します。

### 手立て設定の理由

生徒が活発に自分の考えを発表しているだけで深まりに欠け、その考えを修正したり、深化したりできない場合が往々にしてあります。

生徒の考えや方向性の可視化を意識することで、次の3つの利点があります。

#### 手立てのメリット

- ① 個々の生徒の考えが分かります。
- ② 交流・検討の場面で視点が明確になります。
  - ・同じ考えなら、根拠の違いはないか。
  - ・異なる考えなら、それはどうしてか。
- ③ 生徒の学習の深まりが明らかになります。

### 手 立 て

生徒の考えの可視化を意識して学び合いを進める。

#### ステップ1

根拠をもとにした生徒の考えを、工夫したワークシートなどに記入させる。

#### ステップ2

ネームプレート、ワークシートなどで可視化する。

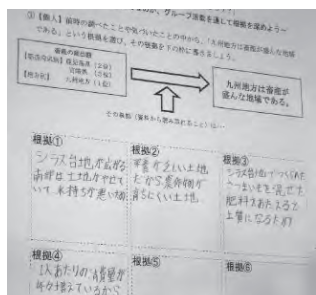
#### ステップ3

学習の深まりを可視化する。

### ! ここは気をつけよう！

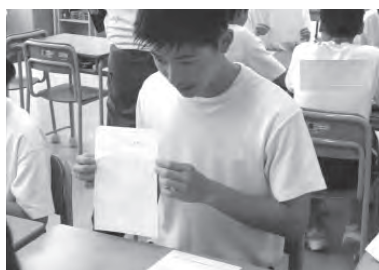
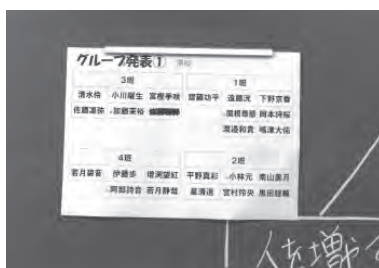
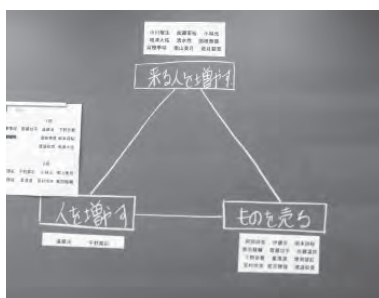
1 単位時間で「拡散」と「収束」は難しい場合が多いです。単元の目標は何か、生徒の実態を踏まえた適切な学習課題か、何時間扱いで行うかなどの指導計画をしっかりと立てる必要があります。基礎的な知識・技能の定着と思考力、判断力、表現力等の育成を両立させるため、単元構想シートなどを工夫して活用していきましょう。

## ステップ 1



既習事項や生徒の思考を揺さぶる資料をもとにして、ワークシートに自分の考えとその根拠を明確に記入します。三角ロジックの活用が有効です。

## ステップ 2

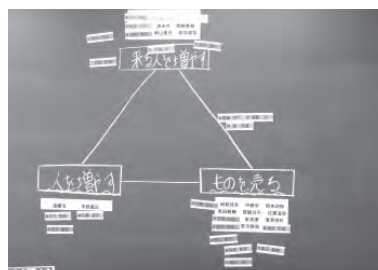
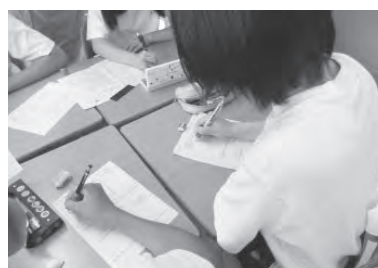


ネームプレートや工夫したワークシートで生徒の考えを可視化します。

教師は、拡散を意図して交流のグループ分けをします。

生徒は、他の生徒の考え、自分との同異を理解し、交流の視点が明確になります。

## ステップ 3



交流して得た新たな気づきと自分の考えを検討し、最終的な考えとその根拠をワークシートに記入します。

ネームプレートの移動による可視化と発表を通じて、学習の深まりを振り返ります。

### 指定研究会情報

#### 下越地区（新発田市中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して、自分の考えを再構成する生徒の育成

可視化することで自分の考える視点を明確にして、話し合いやFTなどの学び合い活動に臨ませます。こうした活動で他の意見と比較検討しながら自分の考えを再構成し、深化させていく様子も明らかにします。

◇月 日：11月10日（木）

◇会場校：新発田市立佐々木中学校

◇公開：3年 政治参加と選挙 授業者 田中 正朗

◇指導者：下越教育事務所 指導主事 若林 靖人

# 理科

## W型問題解決の過程のどこで “学び合う”かを意識しよう



県中教研理科部 全県部長  
新発田市立豊浦中学校 石坂 均

こうなるはずなのに、「なぜ?」「どうして?」

自然現象と自分がつもつ認識とのずれを「問題」として意識し、その問題を解決する過程で、「他者と交流し、検討すること」は必要な学習活動です。それを「理科学び合い5」としてまとめています。その中から、授業づくりで特に大切なポイント2つを紹介します。

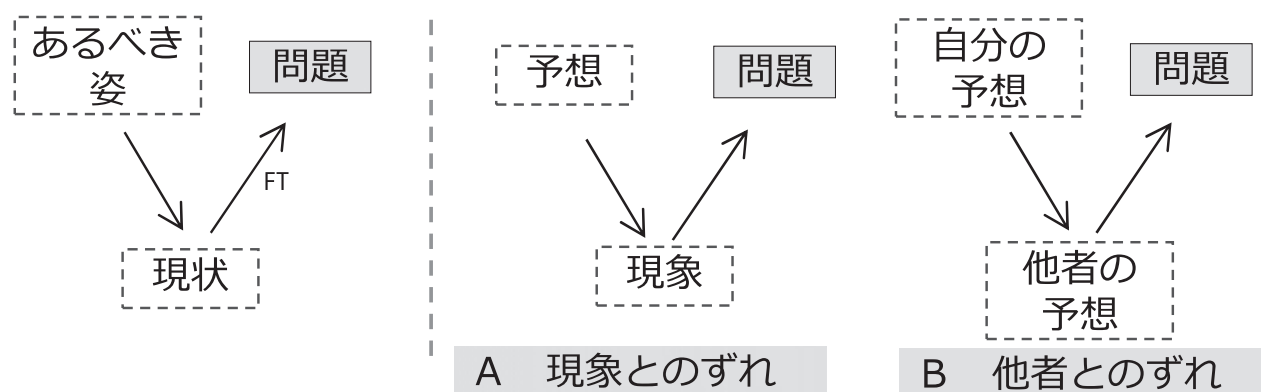
### ポイント1 生徒の素朴概念（学習前にもっている考え方）を把握し、問題意識を高める

「あるべき姿」と「現状」とのギャップを「問題」といいます。理科では問題意識を高める場面として、大きく次の2つが考えられます。

1つ目は、生徒の予想と現象とのずれで問題意識を高める場合（A）です。2つ目は、異なる予想をする生徒の存在を知ることによって問題意識を高める場合（B）です。

Aの場合、新しい仮説のアイデアと検証方法のアイデアを出し合う学び合いになります。

それに対してBの場合は、予想した理由を互いに出し合い、それを吟味、検討し、2つの予想の理由に含まれる前提の違いからそれぞれの「仮説（素朴概念と科学概念）」を浮かび上がらせる学び合いになります。

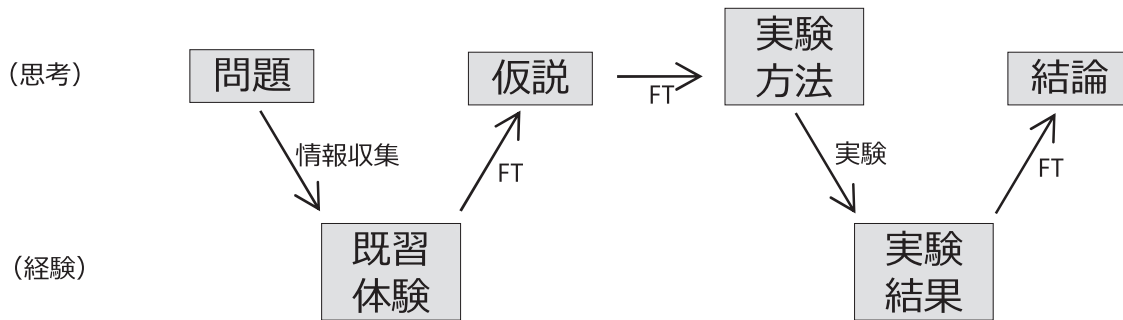


## ポイント2 主張(仮説・実験方法・結論)は“根拠”を基に“理由付け”をし、それを吟味する学び合いをする

問題解決は「問題設定」→「情報収集」→「仮説設定」→「実験方法」→「実験」→「結論」の6段階を踏みます。この6つの段階を（思考）に関することと（経験）に関することに分けて表すと、下の図のようなW型に表されます。

他者の考えを交流したり検討したりする学び合いは3つの「FT」の部分でおこなわれます。

「こんな仮説が考えられる」や「いい実験方法がある」「これがわかる」などの主張はその理由を出し合い検討します。理由は体験や実験結果等の事実である「根拠」を基に、それに「理由付け」で主張につないで表現すると、議論がかみ合う学び合いをおこなうことができます。



※1 W型問題解決モデルは、「川喜田次郎(1967)発想法 中公新書」を参考に改良

## 理科 重点方針

科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。

- 観察や実験結果の予想を検討し、得られた結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、科学的な思考力、表現力を高める。
- 他者との関わりを重視した問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。
- 地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。

## 理科学び合い10

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行っている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連させて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連させて予想理由を検討している。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気づきを工夫しながらの観察・実験の工夫	生徒の気づきを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果にもとに結論を導き、生徒同士の意見交流を通して考えを深めさせている。

# 理科〈上越地区〉

## 4QS\*で 素朴な「疑問」を 検証可能な仮説へ

\* 4QS (The Four Question Strategy) は、Cothron, J. H.ら (2000) が提唱した手法を基に小林辰至・永益泰彦らが開発した仮説設定のための指導方法。通称「フォークス」



上越市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 上越市立城北中学校 保坂 修  
会場校担当(右) 上越市立大潟町中学校 小山 宏一

科学的な思考力を高めるためには、定量的なものの見方や考え方が大切です。子どもたちの「疑問」を探究活動につなげるための手立てとして、4QSを提案します。

### 手立て設定の理由

子どもたちは「4QS」の四つのSTEPに従って思考を整理し、「仮説（結果の予想）」を設定することで、見通しをもって実験に取り組むことが可能になります。

このような思考を授業の中で学び合いとして設定し、繰り返すことで、科学的な思考力は確実に高まっています。

### 手立てのメリット

- ① 生徒が自ら課題（問題）を設定し、検証可能な仮説を立てることができます。
- ② 仮説を検証する実験の条件の制御の仕方が考えやすくなります。
- ③ グループで検討しながら、思考を収束させることができます。

### 手 立 て

4QSを使って、学び合いながら仮説を立てる！

#### ステップ1

現象から「疑問」を見いだす。

#### ステップ2

4QSシートを使って仮説を立てる。

#### ステップ3

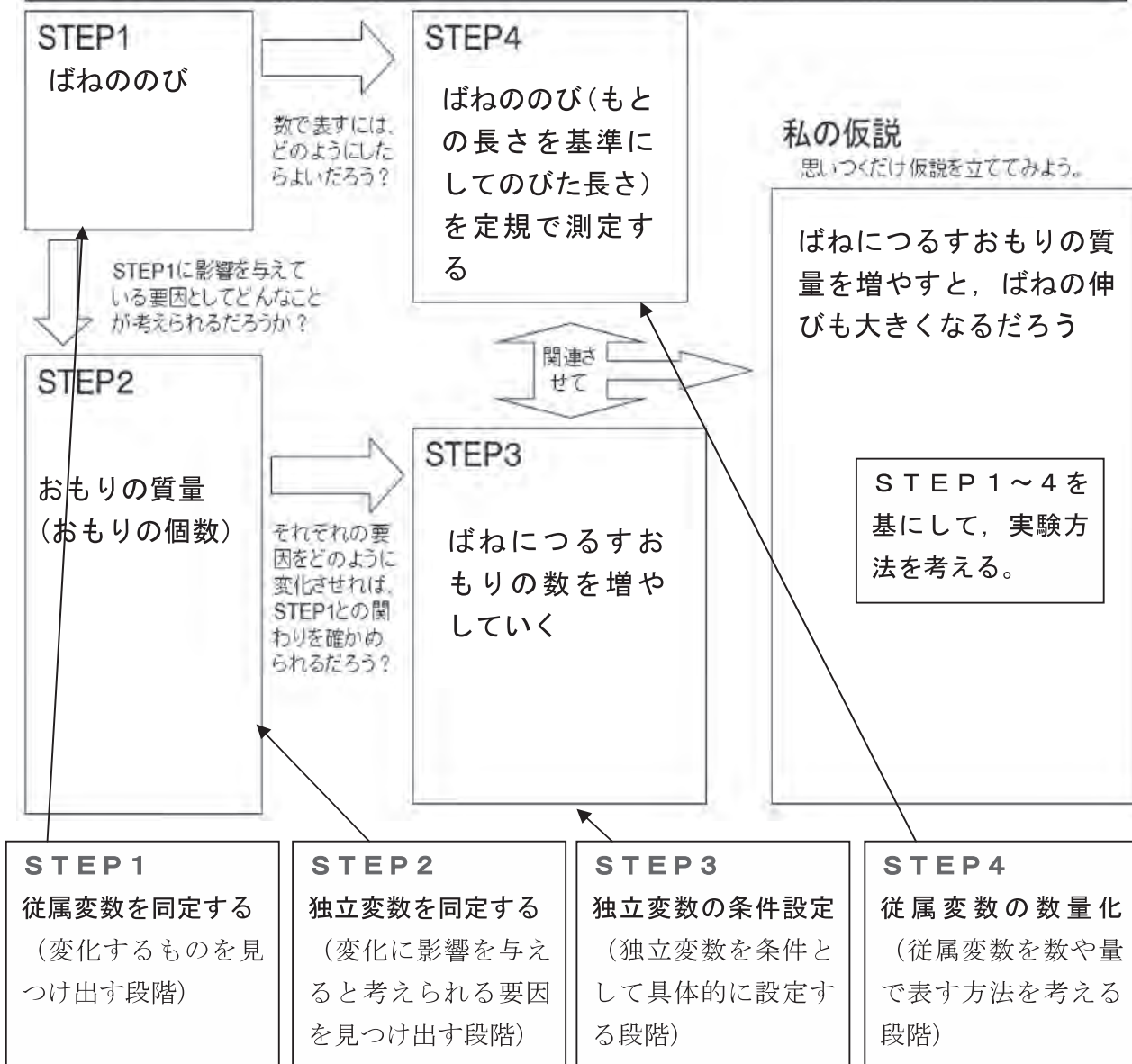
仮説を検証するための実験方法を考える。

### ! ここは気をつけよう！

4QSは、「○○と●●はどのような関係か」など、因果関係がxとyの関係として捉えられる単純な事象の検証に適しています。したがって、エネルギー領域の実験に最も適しています。一方、粒子領域の実験のように独立変数と従属変数の関係が単純ではない実験には適していません。

## 4QSワークシート

私の疑問(課題): (例)ばねののびとばねを引く力の大きさの間にはどのような関係があるのか?



### 指定研究会情報

#### 上越地区(上越市中教研)理科教育研究発表会

◇研究主題: 科学的思考力と表現力を高める指導の工夫  
～学び合う授業を通して～

力学的エネルギーを大きくする要因は何か? その要因はどのように影響するのか?  
どうやって測ったらいいのか? どんな実験で解決するのか?  
「4QS」を用い、グループで討論しながら仮説を立て、実験を組み立てていきます。

◇月 日: 11月11日(金) ◇会場校: 上越市立大潟町中学校

◇公開: 3年 授業者 山本 明子

◇指導者: 上越教育大学 教授 小林 辰至  
上越市教育センター 指導主事 藤本 孝昭

# 理科 〈中越地区〉

## ヒントカードの提示で、 思考の練り上げを促す



長岡市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 長岡市立堤岡中学校 澤栗 隆之  
会場校担当(右) 長岡市立岡南中学校 内山 睦美

理解度に差が生じやすい单元でも、ヒントカードを使うことで、追求する課題を明確にし、学びを深めることを狙います。

### 手立て設定の理由

自分の考えをノートにまとめることや実験結果から考察することを苦手とする実態があります。発展的な課題でも、ヒントカードや学習履歴など、支援するアイテムの使用や仲間との意見交換により、生徒の学びが深まることを狙います。

### 手立てのメリット

- ① ヒントカードの提示や学習履歴の確認で、課題解決への意欲を支えます。
- ② ワールドカフェで意見交換し、自分の考えを修正し深めます。

## 手 立 て

### ヒントカードの提示

#### ステップ1

課題解決の進度に応じて、必要なヒントカードを提示する。

#### ステップ2

学習履歴を確認し、既習事項を活用しながら課題解決に臨む。

#### ステップ3

ワールド・カフェにより、自己の考えを修正し、深める。

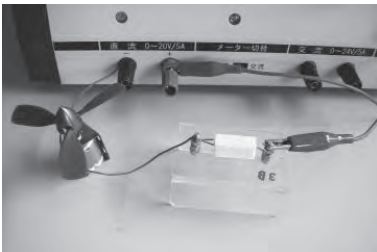
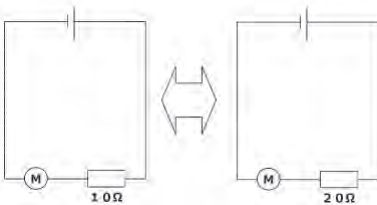
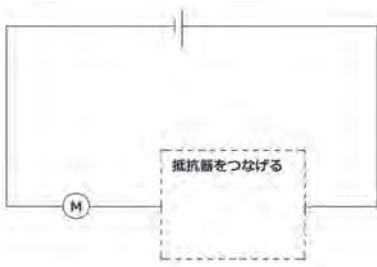
## ! ここは気をつけよう!

### 手立てを実施する際の留意点

- ・課題解決に必要なヒントカードは、提示内容、順番、提示のタイミングをあらかじめ決めておきましょう。
- ・ワールドカフェでは、「相手と向かい合って話す。相手の言葉を繰り返しながら、確認または質問をする。」など、話し合いを行う際のルールを明確にしましょう。



## ステップ 1



### ヒントカードの選択

課題解決の進度に応じて、ヒントカードを提示します。口頭での指導・助言とは違い、文字や図に残るのが利点です。

## ステップ 2

電流・電圧のきまり

直列回路

電流  $I_1 = I_2 = I_3$

電圧  $E = E_1 + E_2$

並列回路

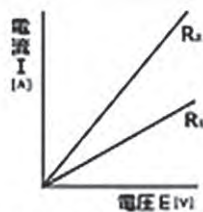
電流  $I_1 = I_2 + I_3$

電圧  $E = E_1 = E_2$

オームの法則

$I = E \div R$

$E = I \times R$

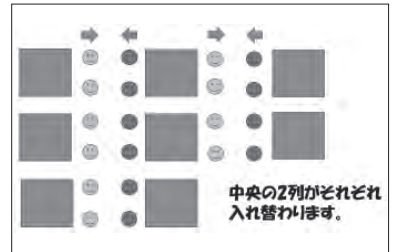


電流は電圧に比例する。  
 $R_1$ が $R_2$ より流れにくい。

### 学習履歴の活用

前時までの実験や学習内容を学習履歴として、教室に掲示します。単元で行った実験や学習内容を活用して課題解決に臨みます。

## ステップ 3



### ワールド・カフェ

学習班の一人一人が、他との意見交換をする役割を担います。各自が役割を意識して学習に参加し、さらに他の考えを取り入れることで思考を深めます。

## 指定研究会情報

### 中越地区（長岡市中教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：他とかかわり、主体的に学び表現できる生徒の育成  
～学び合い活動の工夫をとおして～

扇風機の回転数を変えるにはどのようにしたらよいか。抵抗の組み合わせ方を考える場面を公開する予定です。ワールド・カフェの学習形態を用い、自分の考えを深めていきます。

◇月 日：11月9日(水) ◇会場校：長岡市立岡南中学校

◇公 開：2年 電流とのはたらき 授業者 風間 真寿美

◇指導者：中越教育事務所 指導主事 佐藤 裕之

# 理科〈新潟地区〉

## 自信度グラフで自分の思考過程を実感、思考力アップを目指す！



佐渡市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 佐渡市立佐和田中学校 本間 悟  
会場校担当(右) 佐渡市立新穂中学校 川上 智博

自信度グラフを活用して、最初の考えと学び合いの後の考えを比較すると、多面的な思考活動を行ってきた自分に気づくことができるので、思考力アップにつなげることができます。

### 手立て設定の理由

予想理由を検討する場面では、自分の考えをしっかりもてなかったり、意見の交流が深まらなかったりすることが多くあります。

自信度グラフを活用することで、単純に意見交流を行う場合と比較して、次の3つの利点があります。

#### 手立てのメリット

- ① 自分の思考過程に気づくことができます。
- ② 周りの生徒の状況がわかります。
- ③ 学び合いの場面で発言しやすくなります。

### 手 立 て

自信度グラフを活用して、予想理由を検討、再構築する。

#### ステップ1

自分の考えに対する自信度を表示する。

#### ステップ2

他の人の自信度を参考に学び合いに取り組む。

#### ステップ3

学び合いの情報をもとに、考えの再構築、自信度を再表示する。

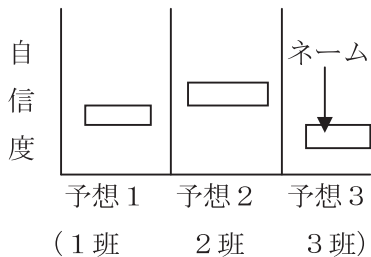
### ! ここは気をつけよう！

自信度とは、さまざまな要因が関係し、同じ考えでも個々の意識で大きく違います。学び合いの場面では、自信度の高い生徒が低い生徒へ教えるという構図が多くなりがちですが、自信度が低い人との交流によって考え方の共通点、相違点等を見いだせ、思考が活性化することと、自信度が学び合い後低くなくても思考が深まっている場合があることを周知させておきましょう。

## ステップ 1

- ① 課題に対しての予想
- ② 予想選択
  - ・ 自信度グラフにネームプレートを貼る

※今の自分を知る



課題について、予想し、自分の考えをまとめます。

その考えに対しての自信度を表示するために、ネームプレートを自信度グラフに貼りつけます。(横軸は、予想の他に各班を示す場合もあります。)

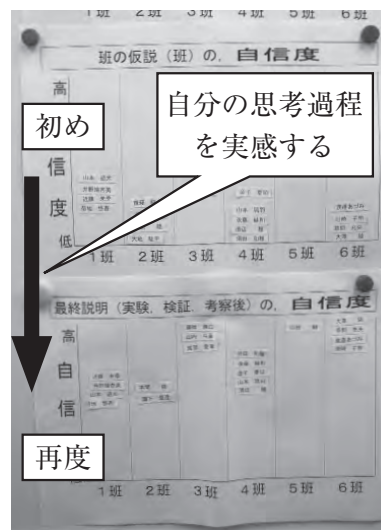
## ステップ 2



自信度グラフを参考に学び合いを行います。

同じ考えのメンバーで班を編制しファシリテーション(FT)をしたり、異なる考えをもった他者との意見交流をしたりして考えを多角化・多面化します。

## ステップ 3



学び合い後、再度、自分の考えを練り直します。なぜ自信度が変わったかを意識し、ネームプレートを貼りなおし、全体でシェアを行います。

授業を振り返り、最初の考えと変わった自分を実感します。

### 指定研究会情報

#### 新潟地区(佐渡市中教研)理科教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して、科学的な思考の高まりを自ら実感できる学習指導の工夫

自信度グラフの手立ては、自分の思考過程を実感できることと、思考力の向上とを目的とし、月の運動と見え方の単元で活用する予定です。

◇月 日：11月11日(金) ◇会場校：佐渡市立新穂中学校

◇公開：1学級 3年 月の運動 授業者 和田 慧一

◇指導者：燕市立松長小学校 校長 鈴木 華奈子

# 理科 〈下越地区〉

## 知識の整理と交流で 科学的な根拠を 見いだす力を育成！



五泉市・東蒲原郡中教研 理科部

研究推進責任者(左) 五泉市立山王中学校 鈴木 尚  
会場校担当(右) 五泉市立山王中学校 荻野 伸也

予想や考察場面において、①既習事項を整理して把握できるように仕組むこと、②他者との意見交換の場面を設定することで、現象の科学的根拠を見出す力を育成します。

### 手立て設定の理由

予想や考察の理由を「なんとなく…」 「よく分からないけど…」と答える生徒には科学的な根拠を見いださせるための手立てが必要です。

その手立てとして「一枚ポートフォリオ」や「意見交換」を通して自分の持つ情報を整理していく活動により、次の2つの効果が期待できます。

#### 手立てのメリット

- ① 知識の構造化が図られます。  
(知識・理解力の向上します)
- ② 他者との交流で、科学的な表現力が向上します。

### 手 立 て

#### 知識の整理と交流を通して科学的な根拠を見いだす

##### ステップ1

一枚ポートフォリオ評価で知識の整理。

##### ステップ2

ツール（ホワイトボード、モデル）を活用した話合い。

##### ステップ3

ワールドカフェを活用して思考の収束。

### ! ここは気をつけよう！

学習課題は、「目の前で起きた現象の科学的な根拠を説明する」と設定する必要があります。他者に伝えることを意識させることで、根拠を見つけようとする意識も生まれてきます。また、伝える相手も明確にすることで、より伝わりやすい表現を工夫する必要感も生まれてきます。

## ステップ 1

### 「一枚ポートフォリオ」

果物などができま  
か？自分の  
う。  
つな  
さ

1. ここまでの学習で一番大切だと思う事を  
書いてください。(電解質)  
塩化ナトリウム水溶液に電圧をかけると  
塩化ナトリウムが電解され、  
陽極で塩素ガスが、  
陰極で水素ガスが生成する。  
水に塩化ナトリウムが溶けると、  
物質を電解質という。

2. ここまでの学習で一番大切だと思う事を書  
いてください。(イオン)  
塩化ナトリウム水溶液中のナトリウムイオンと  
塩素イオンは、  
陰極から陽極へ移動する。  
これは電圧をかけること  
によって電流が流れる。  
原子をイオンという。  
 $H^+$   $H^-$   $H^+$   
水素原子 水素イオン 水素原子  
電子 陽極 陰極

3. ここまでの学習で一番  
かり) 水に入れた  
塩化水素は

4. ここまでの学習で一  
ルカリの正体) 塩化ナ  
トリウム水溶液に電圧  
をかけると、  
陽極で塩素ガスが、  
陰極で水素ガスが生成する。  
水に塩化ナトリウムが溶けると、  
物質を電解質という。

5. ここまでの学習で一  
たがいに  
をかける

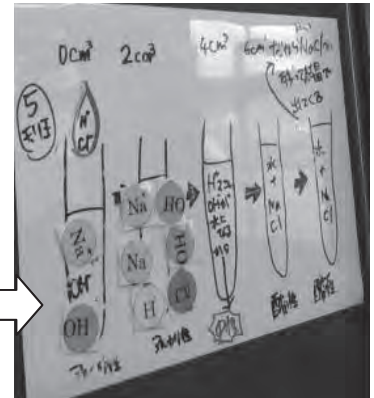
6. ここまでの学習で一  
をかける

の学習をして、何が分かりましたか。またあなたの何が変わり、それについてどう思うかを書いて  
ください。水溶液だけでなく、両極質とイオンは、物質で電

一枚の紙に単元の学習内容を記録することで、学習内容の構造化を図ることができます。

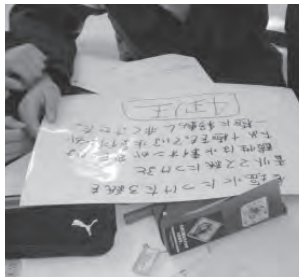
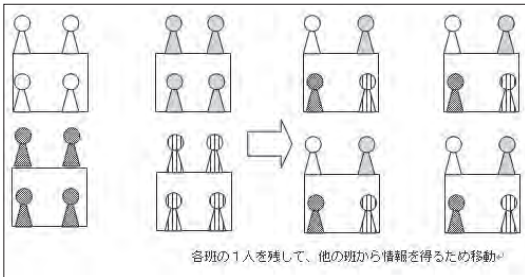
その時間の課題解決に向けて既習事項を振り返る際にも有効に活用できます。

## ステップ 2



課題解決に向けて、班での話し合い活動では、視覚ツールを利用します。根拠を意識して話し合いができるように、ホワイトボードの記載形式も提示します。

## ステップ 3



ワールドカフェでは、自分たちの考えに至る科学的な根拠を他者に説明することになります。聞き手は自分たちの考えと比較して聞き、説明者は他者に伝わるように工夫を凝らすことで、科学的な表現力の育成も促せます。

### 指定研究会情報

#### 下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：根拠をもとにした意見交換の工夫

一枚ポートフォリオ評価によって構造化された知識と前時の実験結果をもとに仮説を考えます。さらにファシリテーション（「ワールドカフェ」）による意見交換を通して検証実験を計画し、実験結果をもとに結論を導く授業を予定しています。

◇月 日：11月1日（火） ◇会場校：五泉市立山王中学校

◇公 開：1学級 3年 酸・アルカリとイオン 授業者 荻野 伸也

◇指導者：上越教育大学 教授 桐生 徹

【引用・参考文献】市川直貴・堀哲夫(1999)「中学生の物質概念に関する実証的研究：イオン概念を中心に(3)」『日本理科教育学会全国大会要項』,48,33. 堀哲夫・西岡加名子(2010)『授業と評価をデザインする 理科』日本標準 pp.68-113 堀哲夫(2013)「理科学習・授業の課題とOPPAの骨子」『日本理科教育学会 第63回全国大会 北海道大会論文集』79.

# 英語

## 表現力 (Speaking) の向上を 目指した単元の構想を！



県中教研英語部 全県部長  
長岡市立秋葉中学校 鷺尾 哲郎

英語の学習を通じて○○ができるようになった。

いわゆるタスクであり、Can doです。教師と生徒が目標を共有することにより、目標に至るまでの活動に必然性が生まれます。

英語科における従来のグループ活動をファシリテーション (FT) に近づけるポイントを紹介します。

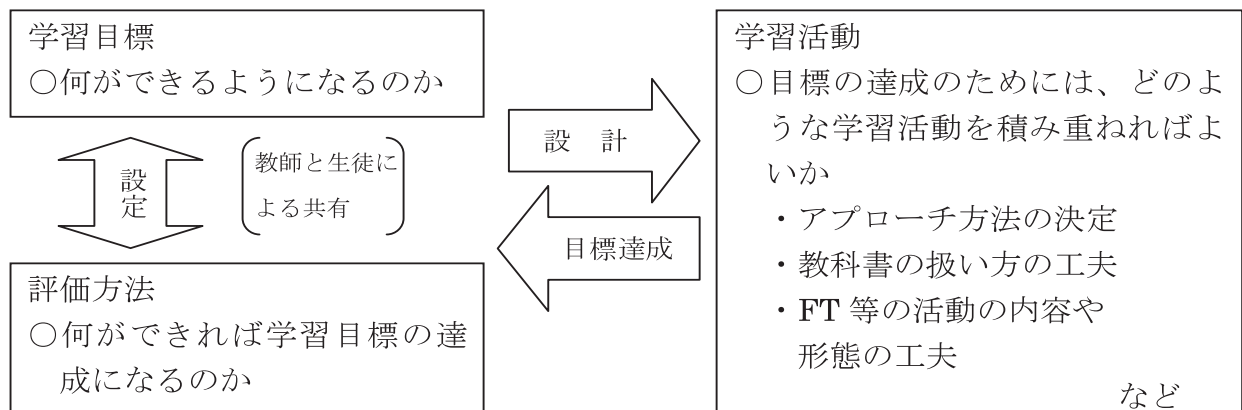
### ポイント1 バックワードデザインにより単元を構成する。

バックワードデザインとは、学習目標と評価方法をあらかじめ設定し、学習目標の達成に向けた学習活動を逆算的に設計して、単元を組み立てていく手法です。

この場合、学習目標は明確で具体的であり、また評価方法はパフォーマンステストのような手法を活用することが望ましいです。

このように設計した単元における学習活動は学習目標の達成というベクトルが働き、集団による問題解決や自己表現を促進することが期待されます。

この点が、特定の事項の定着を目指すような従来の学習活動とは異なり、生徒の主体性、能動的な学習をはぐくみます。



## ポイント2 Speakingを中核に据え、他の3技能との関連を図る。

4技能の中でもSpeakingの力を高めることに難しさを覚える先生が多いです。しかし、現代社会では口頭でのコミュニケーション力（英会話力）の向上が強く求められています。

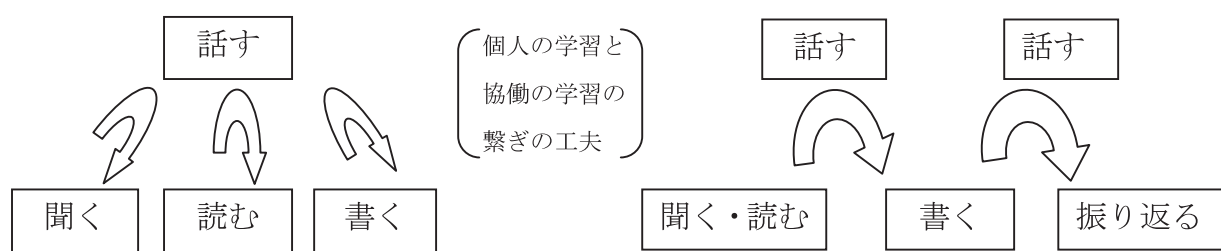
指導方法の改善として、他の3技能の活動を繋ぐ活動として話す活動を位置づけることで、Speakingの量を増やす工夫ができます。

聞く・読む活動の後、ペアやグループでホワイトボードを利用して話す活動を行い、その成果を書く活動に繋げ、さらに発表などの話す活動に繋げるようなプロセスが生まれてきます。

基本的に、聞く・読む・書く活動は個人で行いますが、話す（聞く）活動は他者との協働の活動です。FTを活かす場面でもあります。

＜ある技能の活動の中に話す活動を挿入＞

＜他の技能の活動の繋ぎに話す活動を挿入＞



## 英語 重点方針

基礎・基本の確かな定着を図るとともに、コミュニケーション能力の基礎を培う学習指導を展開する。

- 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域のバランスのとれた指導に努め、まとまりのある英語を理解したり、表現したりする活動を進める。
- 語彙や文構造については、コミュニケーションを支えるものとしての視点から言語活動を関連させながら定着を図る。
- 身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動の実践に努める。
- 小学校の外国語活動に関する小中の連携を深め、小学校における活動内容について情報交換するなど、中学校区ごとに研修をすすめる。

## 英語 学び合い10

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や英語の運用能力など生徒の実態を把握した上で、単元単位の目標や計画を立てている。
③	生徒の興味・関心を喚起する課題設定	生徒の知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような課題を設定している。
④	「練り合い」場面の設定	生徒が協働して表現方法を練り上げる場面を設定している。
⑤	個の学習の確保	生徒が自分の意見や考えを確かめたり深めたりできるよう、「1人学びの時間」を十分確保している。
⑥	ペア・グループによる学習	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（グループ・ペア）と構成を、意図的に選択して行っている。
⑦	活動の手順、ルール周知	活動の手順やルールを明確に提示している。
⑧	役割分担	全員が活動に参加できるように、個人の課題や役割分担を明確に提示している。
⑨	4技能	4技能の使用バランスや、4技能が統合的活用できる課題を設定している。
⑩	評価・振り返り	ねらいや大切なポイントを（評価シート等で）理解させた上で生徒が自分の活動を振り返る場面を計画的に設定している。

# 英語 〈上越地区〉

## タスクにひとり学びの一工夫。 目指せ“全員参加”の学び合い!!



糸魚川市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 糸魚川市立糸魚川中学校 倉若 拓人  
会場校担当(右) 糸魚川市立能生中学校 池上 昭

学び合いの前に必ず個人で課題と向き合い、課題について生徒が自分の考えや意見をもって他者との交流に臨むことができるようにすることで、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めることができる授業を展開します。

### 手立て設定の理由

- ・ 英語学習に苦手意識をもつ生徒は他者に依存する傾向が強く、主体的・協働的に学ぶ学習が成立しにくい…
- ・ 生徒に「何のため」が意識されていない活動、網羅的な指導が多い…

### 手立てのメリット

- ① 生徒が見通しをもち、課題について生徒が自分の考えや意見をもって他者との交流に臨むことができます!
- ② 自然な英語使用及び文法・語彙指導の場面をつくり出し、主体的に課題解決に取り組むことができます!

### 手 立 て

#### タスクにひとり学びの一工夫

##### ステップ1

ひとり学びが保障される学び合いの場面の工夫及びひとり学びを支える学習環境づくり

##### ステップ2

実際に使用することによる英語習得を意識した一連のタスク活動の工夫・設定

##### ステップ3

『ねらいー学び合いーまとめ』のある授業及び単元構成

### ! ここは気をつけよう!

ただ安易に学び合いと称して、ペア・グループ学習の場面を設定するのではなく、一人ひとりの意見や考えをもつ場面を必ず設定することがよりよい学びをする上で必要不可欠です。また、ワークシートや提示資料の内容、教室掲示など、自分の力で課題に取り組むことを支える環境づくりにも配慮していきます。



## ステップ 1



### ひとり学びを支える環境づくり

41	ここに書きました。	You spoke fluently.
42	英語だけ話しているよ。	You spoke only in English.
43	リズムがとてもよかったです。	Rhythm was very good!
44	発音がとても美しかったです。	Pronunciation was so beautiful!
45	ネイティブスピーカーみたいに話しますね。	You spoke like a native speaker!
46	聞かいらね。	You had a good point.
47	素敵な笑顔ですね。	You've got a great smile.
48	素敵な笑顔ですね。	Nice smile!
49	英語でしたか。	You kept listening.
50	アイコンタクトが上手でしたね。	You made a good eye contact.
51	アイコンタクトがよかったですね。	Nice eye contact!
52		You raised your question!

目の前の生徒にとって適切な学習形態、学び合いを支える学習環境づくり（効果的な資料提示、自分の力で課題に取り組むために補助となる教室掲示・辞書使用、互いに認め合い高め合う学習集団づくり）を考えます。

## ステップ 2



### 使うことによって学ぶタスク

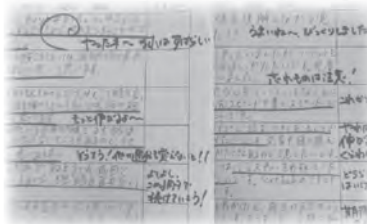


全体で分析・確認する「学習タスク」、型の習得のために行う複数回の「練習タスク」を経て、「学習・練習タスク」と内容的にも形式的にも類似した「評価タスク」で学習到達目標の到達度を評価します。

## ステップ 3



### 個に戻る振り返り・まとめ



ねらいを明確に示し、適切な学び合いの場面を設定し、ねらいに即した振り返りやまとめを確実に実施することで、生徒の学習内容の着実な習得を図ります。

### ICDL (Itoigawa CAN-DO List) の設定と共通理解 My projectの共通実践

上記の2つをチェックポイントとして、市全体で研究を進めます。登り方は教師と生徒の実態に合わせていくつもあります。目指すべき姿と途中経過の共有は忘れずに、共に一歩一歩登っていきたいと考えています。

### 指定研究会情報

#### 上越地区（糸魚川市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：主体的なひとり学びを基盤とした学び合いの工夫

～実際の英語使用の場面を意識したタスク活動における課題解決を通して～

ひとり学びを保障した上で、学び合う場面が適切に設定されれば、生徒は、他者と協働的に課題解決する過程を通して、多様な考え方や表現方法に気付き、主体的に学びを深めていくのではないでしょう。そんな姿を参加者の皆様と共に探ります！

◇月 日：11月9日（水） ◇会場校：糸魚川市立能生中学校

◇公 開：1学級 1年 授業者 池上 昭

◇指導者：上越教育事務所 学校支援第2課 指導主事 重野 準司

# 英語 〈中越地区〉

## 他者とのつながりを活用して英語で表現する力を高める



三条市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 三条市立大崎中学校 五十嵐 博利  
会場校担当(右) 三条市立第三中学校 鶴巻 隆行

課題を一緒に解決するための協働するつながりや、系統的な課題のつながりなどを意図的に多くの場面で設定することで、自立した学習者を育て、表現する力を高めます。

### 手立て設定の理由

三条市では小中一貫教育という連携するためのつながりを大切にしています。また、英語授業ではペアやグループなどで活動することも多くあります。そこで多くの場面で協働するつながりを意図的に設定し、その目的を明確にすることで英語を使って表現する力を高めます。

### 手立てのメリット

- ① 系統的な学びの連続性を意識することができます。
- ② 学習の積み重ねを可視化することで他者との比較・検討が容易にできます。

### 手 立 て

他者とのつながりを活用して英語で表現する力を高める。

#### ステップ1

辞書を使用して自ら学ぼうとする態度を育成する。

#### ステップ2

作成したものを他者と比較・検討することで、多様な表現を学ぶ。

#### ステップ3

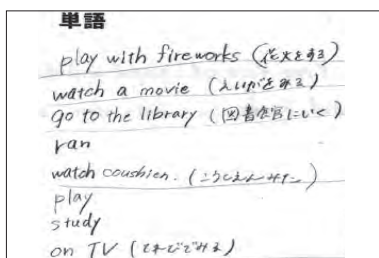
系統的な学びのゴールを明確にする。

### ! ここは気をつけよう!

他者と比較・検討などをする前に、個で考えたり、調べたりする場面を設定する時間を設けることで、自立した学習者を育てることを意識しなければいけません。

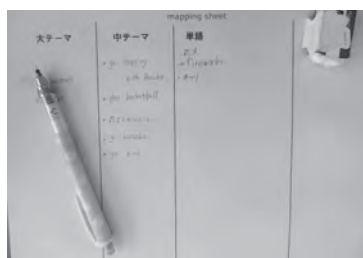
目的意識や活動のゴールなどを明確に事前に伝えることで、生徒の意欲を高めることが必要になります。

## ステップ 1



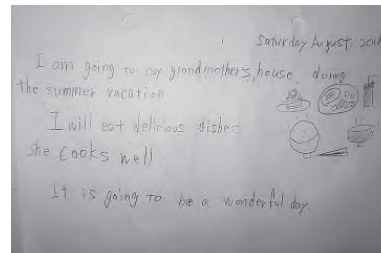
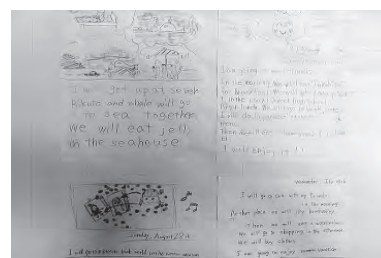
提示されたテーマの英文を作成するうえで必要になる英単語を考え、自ら辞書を使用して調べておきます。調べた単語や表現はリストを作って可視化しておきます。

## ステップ 2



個人で作成したリストと他者が作成したリストを比較することで、新たな単語、表現に気がきます。継続して英作文をすることで、発展的な英文を作成することができます。

## ステップ 3



市と協力して生徒の作成したものを外部とつなげ、活用させる場面を設定します。ゴールを明確にすることで生徒の意欲を高めると同時に相手意識をより高めます。

### 指定研究会情報

#### 中越地区（三条市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：表現力を高める指導の工夫  
～学びのつながりを意識した実践を通じて～

個人での学習場面と集団での学習場面を明確にし、考えを深める時間を設定します。また、単元の計画を共有し、個人と集団での学習を進めます。

◇月 日：11月10日（木） ◇会場校：三条市立第三中学校

◇公開：1学級 2年 授業者 袖山 司

◇指導者：中越教育事務所 学校支援第2課 指導主事 多田 茂  
三条市教育委員会 小中一貫教育推進課 指導主事 小林 貴英

# 英語〈新潟地区〉

## “バックワードデザイン”で ゴールに向かって見通しをもって ステップアップ！



新潟市中教研 英語部  
研究推進責任者・会場校担当  
新潟市立寄居中学校 高田 哲也

身に付けさせたい力を測る“評価タスク”を先に設定し生徒と共有すると、生徒の課題意識が高まるので、問題発見・解決能力やコミュニケーション力がアップします。

### 手立て設定の理由

単元末に「何ができるようになるのか」を生徒が把握しないまま学習が進められたり、「どんな力を測るのか」を英語科教員が共通理解しないまま指導したりしている場合があります。

はじめに単元のゴールを教師と生徒が共有し、そこに到達するために必要な力を明らかにしてから学習に取り組むことが有効に作用します。

### 手立てのメリット

- ① 課題意識が明確になります。
- ② 求められる力が明確になります。
- ③ すべての生徒が自信をもって評価タスクに臨めます。

### 手 立 て

バックワードデザインで単元全体を構成する。

#### ステップ1

単元のゴールと“評価タスク”を教師と生徒で共有する。

#### ステップ2

“学習タスク”で身に付けさせたい力を整理する。

#### ステップ3

“評価タスク”と類似した“練習タスク”で身に付けさせたい力を定着させる。

### ! ここは気をつけよう！

生徒の課題意識を高めるためには、単元のゴールの場面設定がカギを握っています。

- ① I want to try! (興味・関心をくすぐる)
- ② I can try! (適度にチャレンジング)
- ③ I must try! (英語を使う必然性) この3点がポイントです。

## ステップ 1



### 単元のゴール

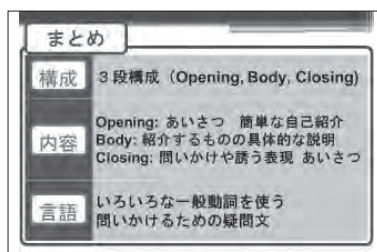
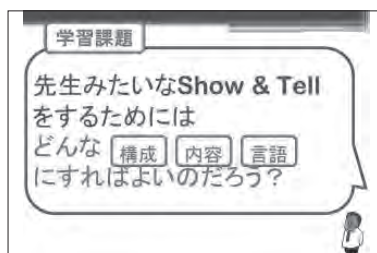
中学校に入学する姪にどんなプレゼントをあげればよいのかわからなくて困っているRussellに、みんなの宝物をShow & Tellで伝えよう。



1年生の一般動詞の単元では、ALTからのビデオメッセージを視聴して、単元のゴールを共有しました。

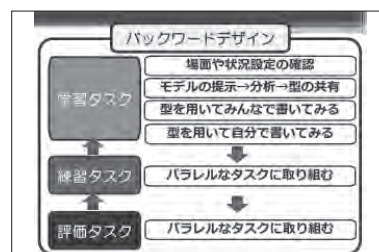
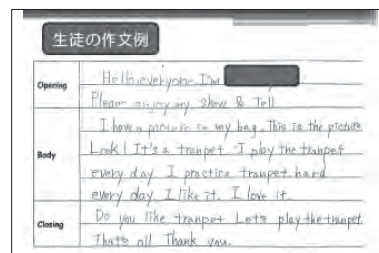
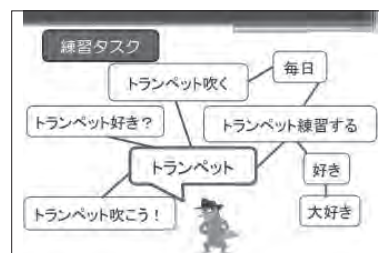
生徒の課題意識を高めるためには、「できそうだけど今のままではできない」という生徒の“モヤモヤ感”をうまく利用します。

## ステップ 2



Show & Tell を成功させるポイントを、①構成 ②内容 ③言語の3点から整理しました。ポイントを評価基準表にまとめることで、生徒による相互評価や自己評価に役立てることができます。

## ステップ 3



パラレルなタスク(学習タスクと類似したタスク)に取り組み、評価基準表を使って振り返りました。

少しずつステップアップしながら練習タスクに複数回取り組みせると、定着をより深めることができます。

## 指定研究会情報

### 新潟地区(新潟市中教研)英語教育研究発表会

◇研究主題: 仲間とともに4技能をバランスよく高めていく生徒  
～見通しをもって学び合う単元構成を通して～

当日は即興的な Speaking に焦点を当てた授業を公開します。1・3年生それぞれが、単元のゴールに向けて練習タスクに取り組む様子を参観していただけます。

◇月 日: 11月10日(木) ◇会場校: 新潟市立寄居中学校

◇公 開: 2学級 3年 Lesson 5 授業者 澤田 庸男  
1年 Lesson 6 授業者 齊木 めぐみ

◇指導者: 新潟市教育委員会学校支援課 指導主事 小林 恵子

# 英語 〈下越地区〉

## “英語で話す→書く→話す” の流れで、表現力を高める



村上市・岩船郡中教研 英語部

研究推進責任者(左) 村上市立荒川中学校 井上 定浩

会場校担当(右) 村上市立村上東中学校 川村 美香

“英語で話す→書く→話す”の手立てが、英語発話に対する自信を段階的に深め、表現の幅を広げたり質を高めたりすることにつながります。

### 手立て設定の理由

英語で表現することに苦手意識をもっている生徒は少なくないと感じています。その中で、授業中に生徒同士が英語で学び合う姿を具現化するためには、具体的なゴールを設定し、段階的にその姿に近づけていく必要があると考えました。

### 手立てのメリット

書く活動【ステップ2】において、生徒の表現した英語を教師が確認・修正し、正しい英語で話す活動②【ステップ3】につなげることができます。

### 手 立 て

“英語で話す→書く→話す”の  
流れで、表現力を高める。

#### ステップ1【話す活動①】

帯活動で練習した英語表現を生かして、自分の意見や考えを伝える。

#### ステップ2【書く活動】

書くことで、伝えた英語の間違い等に気付くことができる。

#### ステップ3【話す活動②】

正しい英語で自信をもって、考えや意見を伝える。

### ! ここは気をつけよう!

- ・ バックワードデザインで単元を構成しましょう。
- ・ 帯活動での英会話活動は、ステップ1・2・3で発話を期待する英語（語彙・文構造など）練習の場として設定しましょう。
- ・ オールイングリッシュの授業を目指しましょう。

## ステップ 1



### 【級友との会話活動】

帯活動で学んだ表現や語彙を活用して、自分の意見や考えをキーワードなどでまとめ、級友と会話を通して伝えます。

## ステップ 2



### 【級友との添削活動】

ステップ1で伝え合った英語を書いて可視化することを通して、自分の間違いや表現の不足に気付くことができます。また、書いた英文を級友と確認し合う中で、さらに表現の幅を広げたり、質を高め合ったりできます。

## ステップ 3



### 【小集団での発表】

ステップ1や2において、級友とのコミュニケーションを通して学んだ英語を、小集団などで発表をします。また、その発表について質問するなどして、インタラクティブな活動にします。

### 【帯活動（英会話活動）】

手立てのステップ1から3の活動で、生徒から発話させたい英語を事前にイメージして、それを帯活動で練習させておきます。

## 指定研究会情報

### 下越地区（村上市・岩船郡中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：自分の意見や考えを表現できる生徒の育成  
～生徒が主体的に参加できる学び合いの工夫～

1年生の授業①②は単元の指導計画における第2、3次となります。「他者を紹介する」活動で、授業①はステップ1から2を、授業②はステップ2から3の流れを公開する予定です。3年生の授業は、「相手に自分で考えたアドバイスを伝える」活動で、ステップ1から2の流れを公開する予定です。

◇月 日：11月4日（金） ◇会場校：村上市立村上東中学校

◇公 開：3学級 1年① Chapter2 Project 授業者 川村 美香  
1年② Chapter2 Project 授業者 進藤 豪人  
3年 Lesson4C 授業者 津野 雅之

◇指導者：下越教育事務所 学校支援第2課 指導主事 辻川 英夫

# 保健体育

## あるべき姿とのギャップから問題意識をもたせ、解決すべき過程で“学び合う”ことが大切！

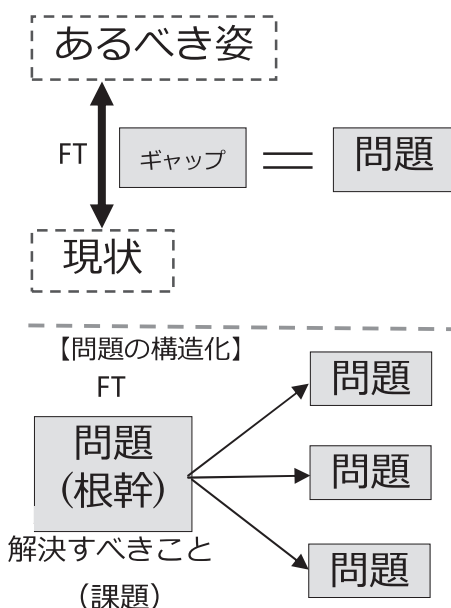


県中教研保健体育部 全県部長  
新潟市立葛塚中学校 若月 弘久

上手い出来ないのは、「なぜ?」「どうして?」

条件やルール・環境の変化により、あるべき姿と現状とのギャップを「問題」として意識し、その問題を解決する課程で、「他者と教えあったり、互いの考えや意見を交流したり、検討すること」は必要な学習活動です。それを「保健体育学び合い10」としてまとめています。その中から、授業づくりで特に大切なポイント2点を紹介します。

### ポイント1 あるべき姿（理想とする姿）と現状とのギャップから問題意識を持たせる。



「あるべき姿」と「現状」とのギャップを「問題」といいます。今回の取り組みにおいて、体育における問題意識の醸成を2つの場合で考えてみました。

1つ目は、理想とする姿と現状とのずれで問題意識を高める場合です。

理想とする姿を資料や示範等で確認しながら、自己やチームの現状との比較の中で、問題を探し出す学び合いになります。

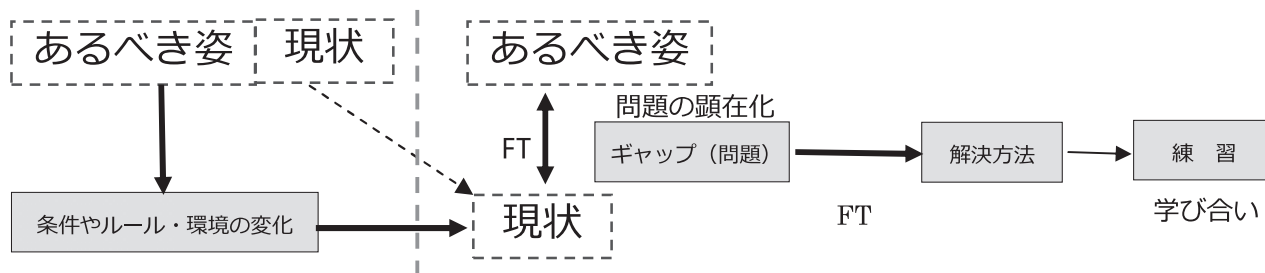
更に、探し出した多くの問題を構造化することで問題の根幹（解決すべき課題）が浮かび上がり、その解決策を協働で練り上げ、解決を図る学び合いです。



## ポイント2 条件やルールの変化によって、あるべき姿（理想とする姿）とのギャップを生みだし、問題意識を持たせる。

2つ目の学び合いは、あるべき姿（理想とする姿）と現状とのギャップ（問題）を意図的に生みだし、問題意識を醸成しながら、解決策や解決に向けた練習方法を導き出すなど、学び合いを通して取り組む方法です。

上手くできていたときには、気づかなかった問題が、より高度な条件やルールの変化により、顕在化されることで、その課題解決に向け、筋道を立てて練習や作戦を考えたり、改善の方法などを話し合ったりする必要性が生まれ、生徒の主体的な学びに広がっていくと考えます。



## 保健体育 重点方針

運動や健康・安全についての理解を深め、体力の向上と健康の保持増進のための実践力を身につけるとともに、各種運動の合理的な実践をとoshi、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を育てる。

- 生徒の実態把握を的確に行う。
- 学習過程を工夫する。
- 学習資料提示の仕方を工夫する。
- 評価方法の工夫・改善を図り、指導に生かす。
- 運動を通して公正さや協力する態度を育てる。

## 保健体育 学び合い10

①	生徒の理解・実態の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し、単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し、主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しを持たせる工夫をしている。
⑥	発問・説明、肯定的なかかわり	思考や気づきを促す発問や説明がされたり、賞賛・助言・励まし等、肯定的にかかわったりしている。
⑦	場の設定	課題の発見や課題解決を促す場づくりがされている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなどかかわり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し、授業の振り返りをさせ、次時への課題をもたせている。

# 保健体育 〈上越地区〉

## グループ活動を通し、 思考力、表現力を向上させ 技能の習得を目指す

### ～器械運動(マット運動)～



上越市・中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 上越市立大潟町中学校 内藤 隆  
会場校担当(右) 上越市立潮陵中学校 小林 洋

タブレットとホワイトボード(WB)を活用し、技能の構造を視覚的にとらえ、修正のために仲間と協力して練習を工夫する手立てを考えます。

#### 手立て設定の理由

タブレット等教具は技能向上に役に立つが、不得意とする生徒には、何をどうすればよいかもわかりません。タブレットを有効活用しつつ、WBの活用も並行して行うことで、思考力・表現力をも向上させ、主体的に授業に参画させます。

#### 手立てのメリット

- ① 他者から様々な意見や手法を学びます。  
(ここがメインとして人間関係を深めるために思考力・表現力を高めます)
- ② 他者の動きと比較しやすくします。
- ③ 人間関係を深めます。

#### 手 立 て

技能の構造をいかに捉え、学び合いをどう促進させるか。

##### ステップ1

ペアやグループでの教え合いを通し技能課題を設定させる。

##### ステップ2

タブレットを活用し動きのポイントを可視化させ、ファシリテーション(FT)につなげる。

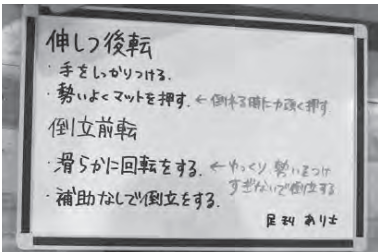
##### ステップ3

FTで得たポイントを活かし協力して練習する学習環境づくり。

#### ! ここは気をつけよう!

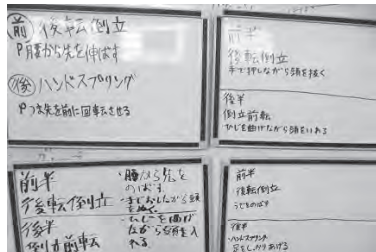
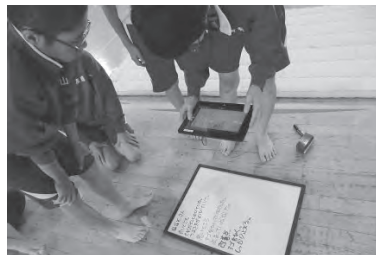
まず、できるようになりたいと思うまで十分に技に挑戦する時間を確保し、映像を見て分析をしたり仲間と話し合ったりする必要性を感じさせます。また、FTで課題を共有化したり、コツやポイントを指摘し合ったりするには技能を観察する視点を整理しておくことが大切です。特にタブレットの操作に終始しないよう活用場面や方法を明確にしておく必要があります。

## ステップ 1



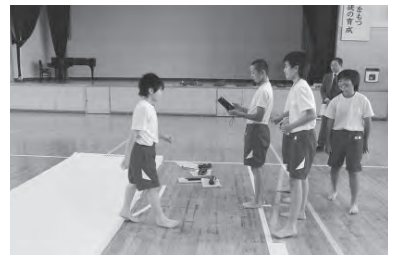
とにかくいろいろな技能を仲間と一緒に繰り返し練習させます。そのペアやグループでの教え合いを通して、技能課題（何ができる、できない）を設定させ、意欲や目標を高めていきます。

## ステップ 2



動きの可視化を追求し、タブレット等での映像の比較やWBへの書き込みでポイントをより意識できるようにさせます。互いに共有できる部分が見つかったら、仲間との話し合いを深めることができます。

## ステップ 3



最終目標である発表会に向けて練習方法や場の設定を工夫し、さらに課題達成に向けた練習をさせます。拡散されていた様々な情報を収束して、より学習しやすい学びの環境を構成していきます。

### 指定研究会情報

#### 上越地区（上越市中教研）保健体育教育研究発表会

◇研究主題：課題を持ち、主体的に学び合う生徒の育成  
～わかる・できる授業を目指して～

マット運動において、タブレットPCやホワイトボードを活用し、互いに学び合いながら思考を活性化し、運動技能の構造がわかって実践できる授業を展開します。

◇月 日：11月11日（金） ◇会場校：上越市立潮陵中学校

◇公 開：1学級 1年 器械運動 授業者 小林 洋

◇指導者：上越市教育委員会 指導主事 石黒 和仁

# 保健体育 〈中越地区〉

## 効果的な戦術・動きをFTで 検証・共有。より具体的な 動きへ高める

### ～球技(バスケットボール)～



長岡市・三島郡中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 長岡市立大島中学校 高橋 正明  
会場校担当(右) 長岡市立三島中学校 小池 寿子

仲間と協働的に学習する過程においてFTや視聴覚機器を利用しながら検証。課題を「見える化」することで、より具体的にしながら課題解決の意欲に繋がります。

#### 手立て設定の理由

保健体育の授業では、様々な活動を行う中で獲得された「知識」を具体的な活動場面に生かす「技能」に結びつけることは容易ではありません。そこで視聴覚機器や互いの戦術アイデアを「見える化」することで、より具体的な動きのイメージをもたせます。そのことにより次の3つのメリットが期待できます。

#### 手立てのメリット

- ① FTで頭の中にある動きのイメージがより具体化されます。
- ② 課題が共有化され、振り返るポイントや互いのアドバイスがより明確なものになります。
- ③ 視聴覚機器をとおして自分の動きの確認はもちろん、仲間や相手の動きも見ることができ、新たな発想のきっかけになります。

#### 手 立 て

各々の知識を出し合い、FTをとおして戦術をより具体的なものに高める。

#### ステップ1

グルーピングの工夫。

#### ステップ2

グループの課題発見と解決のための手立ての考案。

#### ステップ3

FTや視聴覚機器を利用し検証。より具体的な戦術の検討。



#### ここは気をつけよう！

課題がより「見える化」することでいわゆる「課題先行型」にならないように気をつけたいです。それぞれの班に応じた課題であること、解決を目指せる課題であることなどを見取る必要があります。また、運動量の確保が図られるよう授業の進め方に十分配慮していきたいものです。

## ステップ 1

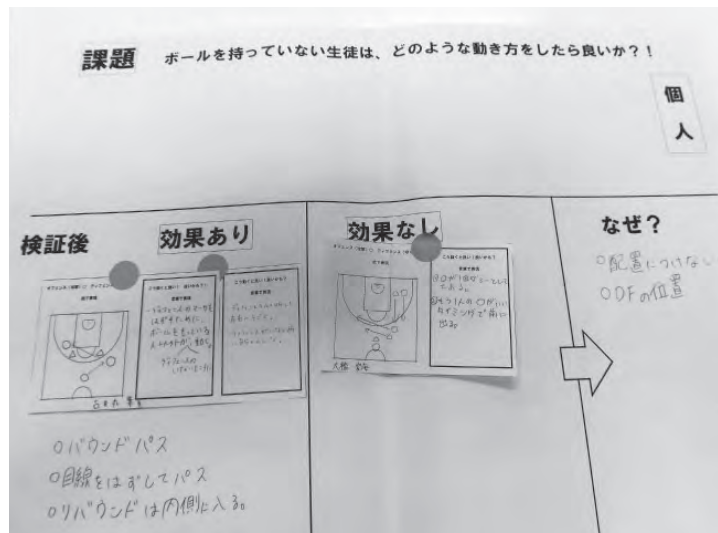
グルーピングについては、次のことをねらいとしてグルーピングを行います。

- ①少人数にすることにより、FTの際に考えを出しやすくします。(人任せにしない)
- ②パスを受けやすい空間を多くします。

## ステップ 2

試しのゲームから、パス回しの重要性和相手より多い人数で攻めることの有利さを学習しました。

そして「ドリブルなしの3対2」を行い、パス回しができるようになる中でゴールに向かう動き方について班ごとに考え実践しました。「人数が多いのにシュートまでいけない」「すぐにボールを奪われてしまう」などの問題点から、ボールを持っている人以外の動きや仲間と連動して動くことの重要性に気づかせます。



※1年次のFTカードより (バスケットボール)

## ステップ 3

ゴールに向かう動きや空間に走り込む動きなど、同じグループの仲間同士でより具体的に動きを共有するためにFTを行います。ホワイトボードや模造紙を使い、それぞれの動きを互いに確認し合いながらフリーでシュートを打つための戦術を練り上げます。また視聴覚機器を用いてプレーを撮影し、戦術の検証をすることでより主体的にプレーに参加する姿勢や、動きを高めていく中で「できた」を積み重ねられる授業を目指します。

### 指定研究会情報

#### 中越地区 (長岡市・三島郡中教研) 保健体育教育研究発表会

- ◇研究主題：課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成  
～わかる・できる授業を目指して～

バスケットボールの授業ではオフェンスに焦点をあて、ボールを持っていない生徒の動きや空間に走り込む動きを考察し、FTで仲間と検証し合う授業を展開していきます。

- ◇月 日：11月22日 (火)      ◇会場校：長岡市立三島中学校  
◇公 開：1学級 2年球技 (バスケットボール) 授業者 小池 寿子  
◇指導者：長岡市立小国中学校 校長 上野 忠英

# 保健体育 〈新潟地区〉

## FTを活用して課題を共有!! 思考を深めて技能定着を促す



新潟市中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 新潟市立新津第五中学校 中山 智司  
会場校担当(右) 新潟市立内野中学校 立花 泰志

課題を生み出す活動を仕組み、FTを活用して、問題意識を喚起し、課題の共有化を図る。動きのコツやポイントを明確に持たせることでよりアクティブ・ラーニングへ。

### 手立て設定の理由

生徒にとって困り感や必要感のあまり感じられない課題では、技能定着が促されないことが多い。どれだけ明確な課題意識を持つかが大切です。FTを活用し、課題の共有化を進めることで次の3つのメリットが期待できます。

#### 手立てのメリット

- ① 教師の「教えたこと」と生徒の「学びたいこと」の一体化が図れます。
- ② FTによる思考の深まりで、課題の共有化が進み、動きのコツやポイントの視点が明確になります。
- ③ 課題を達成、克服するための視点が明確になり、互いに助言、評価するなどの学び合いが促されます。

### 手 立 て

FTで課題が明確に、目指す動きのコツやポイントがより具体的になる。

#### ステップ1

困り感に迫られた課題の設定

#### ステップ2

FTから導き出された具体的な動きのイメージ

#### ステップ3

課題達成を促す教具の工夫と学習環境の整備



### ここは気をつけよう!

効果的な技能定着を促すには、生徒の実態と課題のマッチングがととても重要です。できそうでできないレベルの課題設定にならないと、課題の達成や克服にむけた意欲を十分に喚起できないからです。また、FTで課題の共有化を図る際に注意したいのは、発問の視点を明確にし、生徒の「なぜ」「どうして」を生かしながら思考の深まりを促す必要があります。

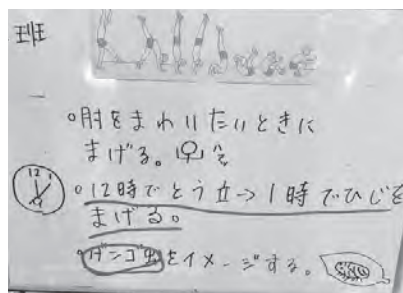
## ステップ 1

ハードルに必要と思われる「振り上げ足」「着地の仕方」などの基礎感覚づくりの運動を積み上げながらも、インターバル間のリズムカルな走りがおおむね定着してきた段階で、より高次の技能習得を期待しています。インターバル間は同じでも、ハードルの高さや歩数への制限を加えることで困り感や必要感のある課題を設定していきます。

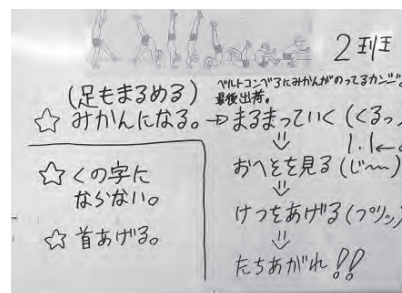
## ステップ 2

※写真は1年次のプレ発表「マット運動」のもの

ホワイトボードを活用して「交流」の学び合いを進め、動きのコツやポイントを可視化していきます。その視点を切り口にグループ内での「教え合う」姿へと促されフィードバックされていきます。



動きのコツやポイントを確認



班内での意見の交流

## ステップ 3

明確になった課題を達成にするために、より生徒が主体的に取り組むための支援を試みます。

生徒の恐怖心を取り除く教具の工夫を図り、学習環境の整備を進めます。



### 指定研究会情報

#### 新潟地区（新潟市中教研）保健体育科教育研究発表会

◇研究主題：課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成  
～わかる・できる授業を目指して～

ハードルの授業では、インターバルの歩数、特に抜き足の動きに焦点をあてます。FTの活用によって、思考を深めるとともに課題を明確にすることをねらいに授業を展開していきます。

◇月 日：6月15日（木） ◇会場校：新潟市立内野中学校

◇公 開：1学級 2年 陸上競技（ハードル） 授業者 立花 泰志

◇指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 瀧澤 訓

# 保健体育 〈下越地区〉

## ファシリテーションで 課題解決能力を高める ～体づくり運動～



新発田市中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 新発田市立豊浦中学校 藤間 善徳

会場校担当(右) 新発田市立川東中学校 緒形 建策

運動課題を各自が捉え、それをファシリテーションで交流し、拡散、検討(収束)することによって、課題解決のための手立てを見つけ実践することができるので、運動への意欲が高まります。

### 手立て設定の理由

多くの生徒は、自らの運動課題を自覚しているが、どのような点が問題なのかを深く追求しないまま活動してしまっている面があります。運動課題を見つけやすい課題設定をし、ファシリテーションを通して、互いに交流し、課題解決のための手立てを探り課題解決していくことによって運動のもつ楽しさや体力を高めることの楽しさを味わわせることができます。

### 手立てのメリット

互いに見合ったり、指摘し合ったりして交流する喜びや、運動課題を解決する楽しさをさらに味わうことができます。そうすることによって学び合い学習の充実を図ることができます。

### 手 立 て

ファシリテーションを用いて  
課題解決のための手立てを探る。

#### ステップ1

運動課題を見つけやすい課題を設定する。

#### ステップ2

課題解決のための手立てを話し合わせる。(ファシリテーション)

#### ステップ3

課題解決のための実践を行い、成果を検証させる。

### ! ここは気をつけよう!

ファシリテーションを意識しすぎると、運動量の確保ができなくなります。単元全体の中で、課題解決学習をどのように位置づけていくかが重要になってきます。また、本授業では、体づくり運動の中の体力を高める運動を行い、タグラグビーを通して、巧みな動きを考え出させ、いろいろな動きを組み合わせながら活動させることが大切です。



## ステップ 1



振りかぶり一歩攻めて面打ち動きのイメージをつかませます。



受け取りを交代で行い目指す姿と現実とのズレに気付かせます。

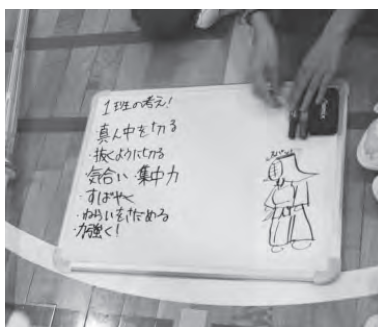
運動課題を見つけやすい場の設定が重要になってきます。

課題が顕著になる活動を組み込み、それを実践させる中から運動課題を見つけさせます。

## ステップ 2



叩くのではなく斬れる打ち方を話し合わせます。



考えを拡散し、極意（コツ）を見つけるよう検討させます。

付箋やホワイトボード等を使って、ファシリテーションによる課題解決の手立てを検討させます。互いの意見交換から問題点や解決方法を考え出させます。

## ステップ 3



検討し合った手立てで練習させます。



練習した成果を検証させます。新たな課題を見つけさせます。

手立てを実践し、課題解決できたか検証していく。そして、「分かる・できる」喜びを味わわせる。また、その中から新たな課題を見つけさせます。

### 指定研究会情報

#### 下越地区（新発田市中教研）保健体育教育研究発表会

◇研究主題：課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成  
～わかる・できる授業を目指して～

目指す姿と現状とのズレから課題を見つけさせ、ファシリテーションによって集団の知的相互作用を促進させることによって、主体的・協働的に学ぶことができる。ホワイトボード等を使うことによって、これまでの運動量重視の活動から一歩踏み出し、より深い理解と問題発見・解決能力を高めていくことができるようになる授業を公開します。

◇月 日：11月10日（木）

◇会場校：新発田市立川東中学校

◇公 開：1年A組学級 体づくり運動「タグラグビー」 授業者 緒形 建策

◇指導者：下越教育事務所 学校支援第2課 指導主事 佐藤 元彦

# 進路指導

## 体験的な学習活動をとおして、 自己の生き方を見つめさせよう



県中教研進路指導部 全県部長  
新潟市立亀田西中学校 堀川 雅司

進路指導では、キャリア発達を促す「キャリア教育」の視点が重要です。キャリア教育は、教育活動全体をとおして体系的に実践する必要があります。

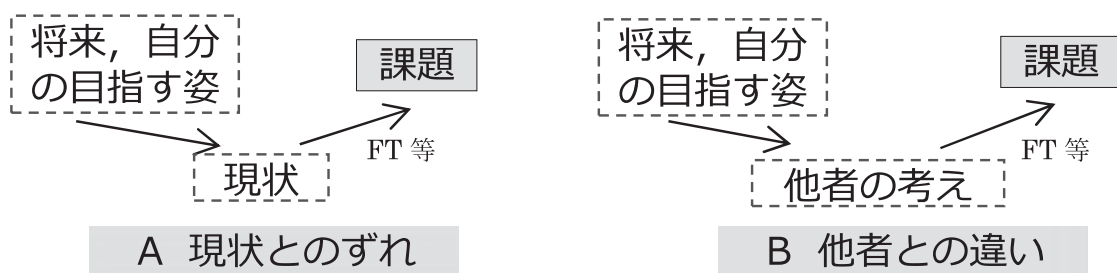
その際、体験的な学習活動を位置付け、仲間や地域の人といった多様な他者と関わりながら自己の生き方を見つめさせる「学び合い」が有効です。

### ポイント1 自分の夢や希望をもって、その実現に向けた学習活動を行う

キャリア教育は、校内体制を整え、すべての教育活動をとおして体系的（計画的・系統的）に実践していくことが求められています。日常的には、教科や特別活動等の授業で自分自身を見つめ、自分の夢や希望の実現に向けてどんな力が必要で、何を学ぶ必要があるのかを考えさせる学習活動がポイントになります。

「将来の目指す姿（夢・希望）」と「現実の自分（今の力）」とのギャップを「課題」とすると、生徒に課題意識をもたせるには2つの場合があります。

1つは、生徒の理想と現状とのずれで課題意識を高める場合（図A）です。この場合は、自分の夢に向けて何に力を入れて取り組んでいくかについて、今までの経験を基にした「学び合い」になります。もう1つは、自分と異なる理想をもつ生徒の存在を知ることによって課題を明確にする場合（図B）です。この場合、生徒がそれぞれの夢や希望を出し合ったり、他者の考えや思いを知り合ったりすることによって、自分の課題を明確にし、職業観・勤労観を育む「学び合い」になります。



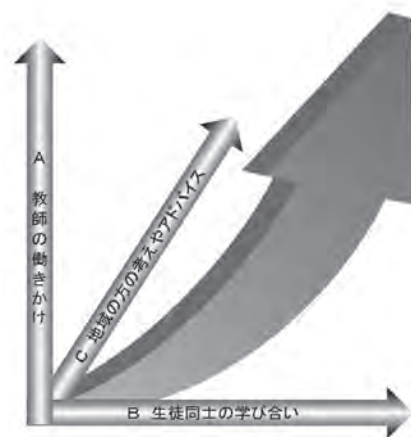
## ポイント2 仲間、地域の人と関わりながら、自己実現に向けた体験活動を行う

生徒に自分の将来を考えさせるためには、学校内の教育活動だけでなく、幅広い年齢・立場の人々と関わったり、社会や職業に関わる様々な体験をしたりすることをおして、自分自身や社会についていろいろな気づきや発見を経験させることが大事です。

その過程では、教師の働きかけ〔縦軸A〕、生徒同士の学び合い〔縦軸B〕、地域の方・ゲストティーチャーの考えやアドバイス〔斜め軸C〕の3つが関わり合う場面を意図的・計画的に設定し、生徒に自分の将来の仕事や生活について考えさせます。

働くことの意義や仕事の大変さについて仲間と検討したり、地域の方から意見を聞いて交流したりすることで、生徒は自己実現に向けた“自分らしい生き方”を見出していきます。

そのような「学び合い」は、学習活動の過程・成果に関する情報を集積した「学習ポートフォリオ」を活用することで、生徒は自己の生き方をより確かに見つけることができます。



### 進路 重点方針

自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。

- 自己理解を深めさせる指導を充実させる。
- 生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。
- 勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。

### 進路 学び合い10

①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力、態度が身につくよう計画している。
②	生徒理解と身につけさせる能力	キャリア教育の視点から、生徒の実態と課題を把握し、どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身につけさせるか、指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において、将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して、将来について自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり、各教科、領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう、横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり、校外で体験活動を展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の生き方とどのようにかわるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が、日常生活や社会とのかかわりの中で進路学習が展開できるよう、地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え、自分の意思で進路を選択し、自己実現できるよう支援している。

# 進路指導 〈上越地区〉

## 「どの仕事にも共通する大切な力」は何か、FTで生徒自身が見付け出す！



柏崎市刈羽郡学校教育研究会 キャリア教育部  
研究推進責任者(左) 柏崎市立北条中学校 宮崎 隆史  
会場校担当(右) 柏崎市立第五中学校 大平 直美

一人一職種の職場体験学習に取り組みます。「働く」ことについて考えを深めながら、どの仕事にも共通する大切なものをFTによって見付け出します。この活動が、21世紀型能力そのものを育みます。

### 手立て設定の理由

マンネリになりがちな職場体験学習。将来やってみたい仕事先を選び、個人の追究活動にとどめるのではなく、職業や働くことに対する視野を広げることを目指します。生徒たちが協力し合い21世紀型能力を発見する授業により、次の利点を生み出します。

#### 手立てのメリット

- ① 体験先の決定や共通質問項目の話し合いの場面では、活動に対する自他の意識の共有や比較ができます。
- ② 個人の追究テーマの交流場面では、自分がない視点について、視野を広げることができます。
- ③ 自ら体験したことを基に共通テーマについてFTで、生徒自身が、自己肯定感や将来の進路設計と社会貢献への意欲、学習に対する意欲の変容を見取ることができます。

### 手 立 て

職場体験学習のまとめの発表会の前後にFTによる練り上げの場面を設定する。

#### ステップ1

職場体験先決定までの学習過程を重視するとともに、FTによる共通質問項目の練り上げの場面を設定する。

#### ステップ2

個別の追究テーマを設定し、全員が異なる職種で5日間の職場体験学習を行う。

#### ステップ3

発表会の前後にFTによる練り上げの場面を設定し、個々の自己肯定感や社会貢献への意欲、学習に対する意欲の変容について相互に交流する。

### ! ここは気をつけよう！

職場体験学習の発表会の前後の練り上げの場面では、事前に設定した個人の追究テーマにしたがって、各事業所で生徒が見つけた大切なことは何か考えをもたせます。それを基にして、どの仕事にも共通する大切な力をFTによって収束させる際に、ワンクッションとなる教師の働きかけをどのように行うかがポイントとなります。

## ステップ 1



第1回職業講話（雇用状況を知る）



他の個人テーマを知り、  
FTで共通質問を決定



事前学習では、職業探索（働くことの意義、職業の種類・分類、職業調べ）、職業講話、職業レディネステストを行いました。一つの仕事は他業種に繋がっているなど各々が異なる体験先で実施する意味を確認します。また、共通質問項目をFTで決定します。

## ステップ 2



事業所説明会の様子



異職種で5日間職場体験を実施



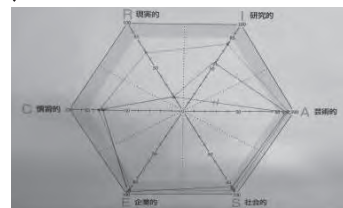
職場体験のねらいや活動日数を5日間に拡大した趣旨、留意事項について共通理解を図るために、事業所説明会を開催しました。

異なる体験先で生徒が同じ質問をしてきます。仕事が変わっても大切なことを考える手立てとなります。

## ステップ 3



個人のまとめから将来生き抜く能力を導きます。職業レディネステストも使い最後は自己肯定感につなげます。



職場体験学習のまとめの発表会の前にFTによる練り上げの場面を設定し、個々の自己肯定感や社会貢献への意欲、学習に対する意欲の変容について交流し合います。

また、「新潟っ子プラン」アンケート等を実施して、以前の結果との比較を行います。

### 指定研究会情報

#### 上越地区（柏崎市刈羽郡中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：自分の考えを広げ、自信をもって将来を生きる生徒の育成  
～職場体験学習を通して生徒が考える21世紀型能力～

職場体験のねらいを「働くこと」について考えることにすることで共通の課題が生まれ、学び合う授業を通して仕事に対する視野が広がります。職場体験は異業種の職場で大人が働く姿や感じたことから、生徒自らが21世紀を生き抜くための能力を追究していく授業を公開します。

◇月 日：11月16日（水） ◇会場校：柏崎市立第五中学校

◇公 開：2年 学級活動 授業者 長谷川 綾子

◇指導者：県立柏崎翔洋中等教育学校 教頭 田中 哲也

# 進路指導 〈中越地区〉

## 「みつめる力」を柱とした キャリア教育で、生徒の 主体的行動を高めます

※みつめる力…新潟っ子プラン「自己理解・自己管理能力」



十日町市・中魚沼郡中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 十日町市立十日町中学校 佐藤 壮

会場校担当(右) 十日町市立下条中学校 八重沢 みづ穂

生徒の実態をもとに、生徒と教師がともに課題を共有し、キャリア教育の視点で教育計画の見直しを行って活動に取り組み、生徒の生きる力を高めていきます。

### 手立て設定の理由

郡市内各校のキャリア教育に対する構えや取組の状況に大きな差がありました。そこで、教師がキャリア教育の意義を理解し、指導していく手立てと、郡市内の生徒の実態と課題についての共通理解を図り、その改善に向けた活動に取り組みました。

### 手立てのメリット

キャリア形成や人間関係形成の基盤となるのは自己理解です。「みつめる力」を中心に高めていくことで、「やり抜く力」や「かかわる力」、「未来を切り拓く力」(夢おこす力)の向上につながっていくと考えます。

### 手 立 て

「みつめる力」を柱としたキャリア教育で、生徒の主体的行動を高める。

#### ステップ1

キャリア教育推進のための校内体制づくりをする。

#### ステップ2

教師、生徒がともに、キャリア教育の視点をもって、学習活動の価値を共有する。

#### ステップ3

「みつめる力(特に主体的行動力)」の向上を目指した活動を工夫する。

### ! ここは気をつけよう!

「みつめる力」向上を目指した活動では、様々な集団での話し合い活動をとおして、自分の活動や自分自身を見つめ直します。生徒に自分で考えるきっかけを与え、主体的な動きを促すキャリアカウンセリングを意識して支援していくことがポイントです。

## ステップ 1



職員研修

### 各種教育計画 例（生徒会活動）

#### 2 生徒会活動 基本計画

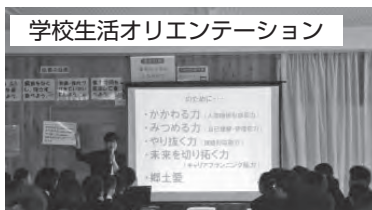
教育目標	協定心に基き、しなやかでたくましい生徒の育成。
目指す生徒の姿	笑む姿、果敢、行動する生徒
生徒会活動のねらい	① 主体的な一員としての自覚をもち、集団の向上を目指して活動をするとともに、自己の役割を主体的に果たす。よりよい集団づくりに貢献しようとする態度を育てる。 ② 学校や学校生活の課題に気づき、解決に向けて取り組み、自ら進んで行動できる、活動意を醸成し、望ましい人間関係の構築を目指す。力を発揮する態度を育てる。
指導の重点（身に付けたい力）	① 主体的な一員としての自覚をもち、集団の向上を目指して活動をするとともに、自己の役割を主体的に果たす。 ② 学校や学校生活の課題に気づき、解決に向けて取り組み、自ら進んで行動できる。 ③ 活動意を醸成し、望ましい人間関係の構築を目指す。力を発揮する態度を育てる。 ④ 自ら進んで行動できる、活動意を醸成し、望ましい人間関係の構築を目指す。力を発揮する態度を育てる。【協定心】

### 活動計画ワークシート 例

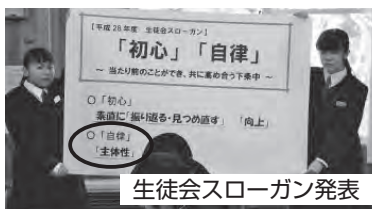
活動計画表	PDCA
-------	------

下条中学校では、キャリア教育についての職員研修の充実、キャリア教育の視点（身に付けたい力）を盛り込んだ教育計画の整備、PDCAに基づいた活動の推進に取り組んでいます。

## ステップ 2



学校生活オリエンテーション



生徒会スローガン発表

### 各種活動 事前・事後アンケート例（体育祭 事前アンケート）

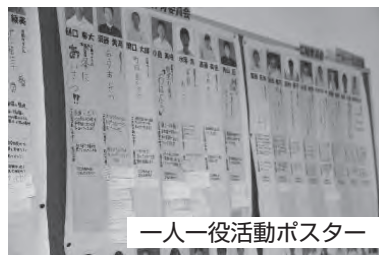
- 1 活動のねらい
  - (1) 一人一人が責任と自覚をもち、お互いを尊重して協力できる結果を目指す。
  - (2) 課題を通して、計画的・体系的な活動・準備・運営を行う力を養う。
  - (3) 経済的・社会的・文化的な観点から、今後の学校生活や社会生活に生かせる。
  - (4) 体育祭、中継生が協力して1つの行事を準備し、共に達成感を味わうこととする。
- 2 達成感と責任を身に付けたい・身に付いた力
  - ① 自分ができること、を教え、主体的（自分自身）に取り組むことができる。（「みつめる力」）
  - ② 他者の関心を惹きながら、協力して活動を進められるようになる。（「かかわる力」）
  - ③ 自分自身の課題意識に主体的に取り組むこと、計画的に取り組むことができる。（「やり抜く力」）
  - ④ 自分自身でできることと課題の両方を言い、協力を図ることとする。（「働きへ自覚する」）
- 3 必要とされた力の育成のために、あらかじめどのような行動をとれるように努力し、準備・計画・実行・振り返り・評価・改善のサイクルを回すこと。
  - ① 準備・計画・実行・振り返り・評価・改善のサイクルを回すこと。
  - ② 準備・計画・実行・振り返り・評価・改善のサイクルを回すこと。
  - ③ 準備・計画・実行・振り返り・評価・改善のサイクルを回すこと。

教師、生徒がともに、将来に必要な基礎的・汎用的能力や自校の課題について理解する場を設定します。学校全体で自己理解の向上や課題の改善を意識し、活動の意義や目標を共有して諸活動に取り組めます。

## ステップ 3



一人一役活動（ハイタッチであいさつ）



一人一役活動ポスター



第1回生徒集会

生徒一人一人が、生徒会の一員として、自分にできることを考え、自分で活動を進める一人一役活動を行っています。互いの活動にも注目し合い、さらに良い活動にしていくなための意見交換の場（委員会、学級、全校）を積み重ねながら、「みつめる力（主体的行動力）」を高めていきます。

## 指定研究会情報

### 中越地区（十日町市・中魚沼郡中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：自分で考え、主体的に行動できる生徒の育成

～「みつめる力」の向上を柱としたキャリア教育をとおして～

一人一役活動の成果と課題を共有し、よりよい活動に向けた意見交換を行う全校集会です。生徒一人一人が自分の考えをもち、積極的に伝え合いながら、主体的に取り組む姿を御覧ください。

◇月 日：11月17日（木） ◇会場校：十日町市立下条中学校

◇公開：第2回 生徒集会「一人一役活動の成果と課題について」

授業者 八重沢 みづ穂

◇指導者：新潟県立教育センター 指導主事 神子 尚彦

本時では、ステップ3を公開します。

# 進路指導 〈新潟地区〉

## 異学年交流で 学び合い、高め合う 職場体験学習



新潟市中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 新潟市立坂井輪中学校 岩崎 正法

会場校担当(右) 新潟市立潟東中学校 佐々木 忠洋

異学年で学び合うことで、働くことの意義についての考えを深め、主体的に活動に取り組み、自己有用感を高めます。

### 手立て設定の理由

本校の課題である自己有用感やキャリアプランニング能力を高めるには、異学年交流活動の推進とFTを取り入れた活動が重要と考え、様々な視点から互いに学び合う手立てを設定しました。

### 手立てのメリット

異学年での交流活動やFTを行うことにより、お互いが自己の役割を果たし、認め合うことで自己有用感を互いに高め合うことができます。

### 手 立 て

“働くことの意義”について  
様々な視点で学び合う。

#### ステップ1

異学年で話し合い活動を行うことで、お互いに学び合う場を設定する。

#### ステップ2

地域や事業所の大人からアドバイスをもらうことで、より具体的に意義について話し合う。

#### ステップ3〔本時〕

これからの自己の課題について話し合う。

### ! ここは気をつけよう!

職場体験学習を終えた2年生、これから行う1年生を同じグループで話し合うことで、「働くことの意義」について考えを深めていきます。メンバーの意見を可視化して収束し、最終的に個で考えます。



## ステップ 1

働くことの  
意義について  
考える



「働くことの意義」をテーマに異学年のグループでFTを行います。職場体験をこれから行う1年生と職場体験を経験した2年生が互いに学び合い、自己有用感を高めることを目指し、話し合いを行います。

## ステップ 2



地域の方からのアドバイスを生かし、収束をかけながら論点を整理していきます。グループの発表を聞いて参考になった点を整理していきます。

## ステップ 3

今後の  
自己の課題  
を見つめる



「今後の自己の課題」をテーマに異学年で再度FTを行います。収束後、個で振り返り、これからの生き方を考えていきます。

### 指定研究会情報

#### 新潟地区（新潟市中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：将来への夢や希望をもち生き方を考えるキャリア教育の推進  
～異学年交流を通して生徒の自己有用感を高める工夫～

異学年交流活動のFTを通して、学び合う授業を実践し、キャリアプランニング能力を高める授業を公開します。

◇月 日：11月24日（木）

◇会場校：新潟市立潟東中学校

◇公 開：4学級 1年 授業者 佐藤 和也, 佐々木 忠洋, 太刀川 隆  
2年 授業者 星 嘉裕, 須藤 順子, 甲田 小知代

◇指導者：新潟市教育委員会 副参事 指導主事 田中 健  
新潟青陵大学 教授 岩崎 保之

# 進路指導〈下越地区〉

## グループ活動や ワールドカフェでの学び合い を通して考えを深める



村上市岩船郡中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 村上市立村上東中学校 白澤 直子  
会場校担当(右) 村上市立神納中学校 佐藤 智之

グループ活動やワールドカフェでの学び合いを通して、多様な視点を得ることで、自分の考えを深めることができる。

### 手立て設定の理由

村上市には「ここで生きる」をテーマとした教育基本構想がある。村上市の未来や自分の将来像を、グループでの学び合いから多様な視点を得ることで、より具体的な考えを引き出し、自分の考えを深めることができます。

また、地域の実状をよく知り今後に向けてのアドバイスを与えてくれる大人を活用します。

### 手立てのメリット

- ① 自分の考えを整理することができます。
- ② 多様な考えに触れることができます。
- ③ 地域の大人からの助言を手掛かりとして、自分の考えを一層深めることができます。

### 手 立 て

いろいろな人の考えを知り、  
自分の考えが深まる。

#### ステップ1

可視化された一人一人の考えを  
グループ活動を通して整理する。

#### ステップ2

ワールドカフェで多様な考えに  
触れる。

#### ステップ3

ゲストティーチャーからの助言  
で考えを深める。



### ここは気をつけよう！

グループ内での役割分担を明確にし、生徒一人一人の活躍の場を設けます。ワールドカフェのメリットは、小集団のため意見交換がしやすい点です。そのために、ワールドカフェの時間を十分に確保します。

## ステップ 1



「自分が生活する地域の良さ」を伸ばすアイデアと、「その地域での課題」を解決するためのアイデアを出します。自分のアイデアを付箋に書いた後、グループで模造紙に貼ります。

他の人から提案された同様な考えをグルーピングします。

## ステップ 2

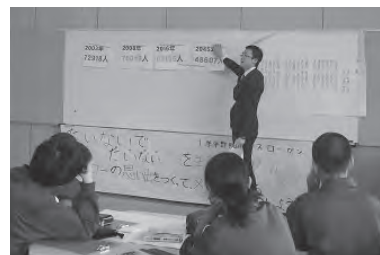


模造紙に話し合った内容をまとめ、それを基に、ワールドカフェを行います。

生徒は、グループを代表して発表する役と、他のグループの発表を聞き・伝える役を担います。

感心したり、参考になったアイデアは、メモにとります。

## ステップ 3



ゲストティーチャーから助言をもらいます。

ゲストティーチャーからの適切なアドバイスを聞き、考えを深めます。そして、「自分が生活する地域の未来の姿」を考え、自分がどのように関わることができるかを職業という視点から考えます。

### 指定研究会情報

#### 下越地区（村上市岩船郡中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：将来の夢をもち、進路を切り拓いていくことができる生徒の育成  
～学び合う授業の工夫を通して～

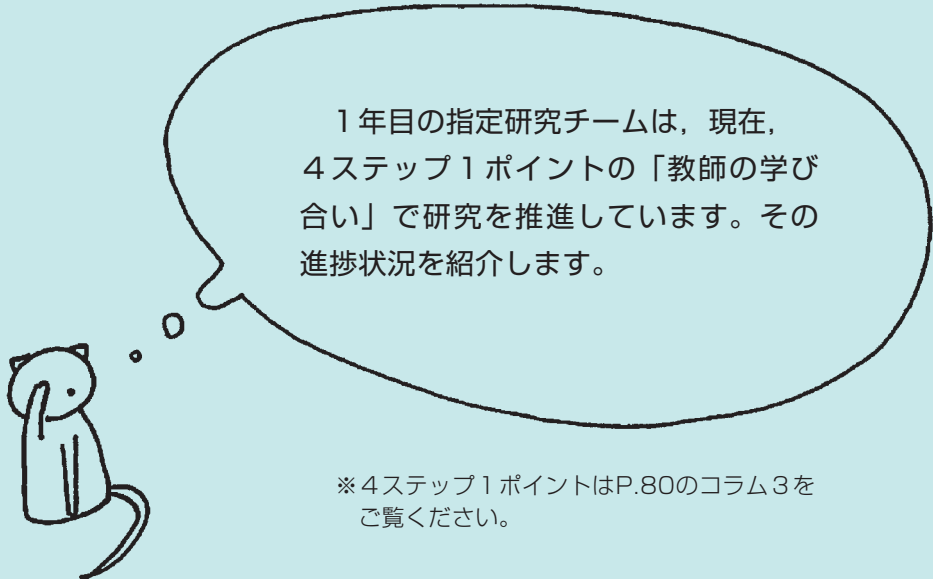
グループ活動やワールドカフェを通して、学び合いを行います。また、ゲストティーチャーからの助言を手掛かりとして、自分の考えを深めます。

◇月 日：11月8日(火) ◇会場校：村上市立神納中学校

◇公 開：3年1組 授業者 高橋 薫, 西山 義一, 坂上 一栄  
2年1組 授業者 本保 美帆子, 佐藤 一亮, 内海 竜太郎  
1年1組 授業者 戸田 明, 加藤 裕子

◇指導者：下越教育事務所 指導主事 若狭 陽一

### 3 指定研究 1 年目の進捗状況



1年目の指定研究チームは、現在、4ステップ1ポイントの「教師の学び合い」で研究を推進しています。その進捗状況を紹介します。

※4ステップ1ポイントはP.80のコラム3をご覧ください。

# 国語

## 目指す姿の実現に有効な 学び合いで、真に力の付く 授業の実現を目指します！

どんな單元でも、生徒に力を付けるために学び合うことが有効となる学習課題が設定され、主体的な学びと楽しさを実感できる授業となるかどうか鍵になると考えています。



全県部長  
上越市立直江津中学校  
校長 竹内 学

### ▶ 上越地区

#### 国語科で目指す学び合う姿を共有！



妙高市中教研  
妙高市立新井中学校  
堀田 加奈子

「国語科における学び合う姿」のイメージをFTで共有しました。まず自分の考えを持つこと、次に伝わるように適切な言葉で表現すること、それを相手や集団と相互にやりとりして自分の考えを深める、自分→表現→相手（集団）→理解→自分というサイクルがあることを確認しました。



「学び合う姿」FTした記録の一つ

今後はこの目指す姿をイメージしながら、授業公開で実態を把握し、研究主題や目指す姿に至るための、有効かつ具体的な手立てを探っていきます。

### ▶ 新潟地区

#### 指導構想を共有しました。

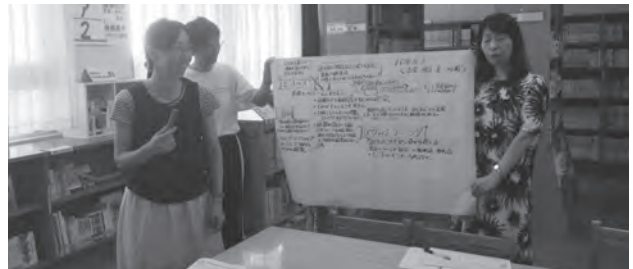


新潟市中教研  
新潟市立東石山中学校  
長嶋 茂

第1回推進委員会にて授業構想シートを示し、「目指す方向」について共有しました。

今後、指導案検討会を行い、研修メンバーによる授業実践を行っていきます。

指導案検討会での意見交換の様子。



### ▶ 中越地区

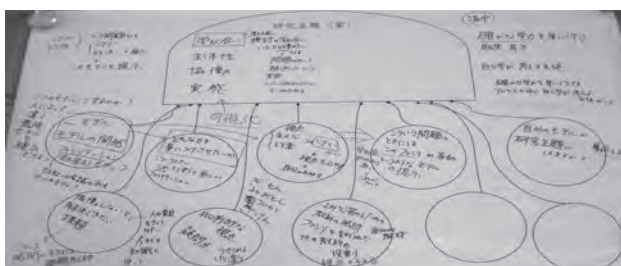
#### 研究主題を検討中



南魚沼市中教研  
南魚沼市立六日町中学校  
柴田 恵理

課題によってFTをどう利用するのが効果的なのか、国語科としての収束のあり方などを話し合いました。推進委員が授業を公開し、研究を進めていくことも確認しました。

研究主題を検討



### ▶ 下越地区

#### 新発田からバトンパス！



五泉市・東蒲原郡中教研  
五泉市立五泉中学校  
関 由香

第1回研推委員会で、前副部長より2年間の研究の進め方や、成果と課題などについてプレゼンをしていただきました。次はNRTの結果を検証し、研究主題を決める予定です。

前副部長によるパワーポイントを使ったプレゼン。



# 数学

## 教師の主体的で対話的な 深い学び合いの中に、子ども の未来がある

研究指定が各地区で起爆剤になり、授業改革が進んでいます。各地区の推進委員が中核になり、未来を担う子どもたちに必要な資質・能力をどのように育むのかを議論しています。



全県部長  
長岡市立中之島中学校  
校長 熊谷 正美

### ▶上越地区

#### 学び合いの場面を模索中!!



柏崎市中教研  
柏崎市立鏡が沖中学校  
土田 貴宏

推進委員会で、今後の活動予定などについて話し合いました。

今後、各校の学力の実態などから、学び合いの視点についてどのように焦点化するかを検討してまいります。

今年度は、鏡が沖中、松浜中、東中で授業公開する予定。



### ▶新潟地区

#### 学び合う授業“相似形”実践中!



新潟市中教研  
新潟市立巻東中学校  
山口 靖博

夏の午後、委員の熱い声が飛び交う。FTは、2時間経っても終わる気配はない。「自分たちで試すことができるテーマが良いね」方向性が決まってきました。

夏の1日、幹事会でFTの実践中!! 形になってきました。



### ▶中越地区

#### 目指す姿を共有し、全員で実践!!



見附市中教研  
見附市立見附中学校  
倉田 孝英

FTを通して、目指す姿を共有しました。そこから、目指す姿を実現するための手立てを検討し、研究主題を設定しました。

2学期からは推進委員が互いに授業を見せ合い、研究を進めていきます。

第1回研究推進委員会の様子



### ▶下越地区

#### 数学担当者会議で授業公開!



村上市岩船郡中教研  
村上市立村上第一中学校  
青山 亮

月1回の数学担当者会議で授業公開を行い、学び合う姿を共有し、授業力向上に努めています。主体的に学ぶための課題作りとその授業構想についてFTを行っていきます。

授業参観後、全員で協議・検討をします。



# 美術

## 「構想を広げる工夫」と「制作過程における見取の工夫」で、どう苦手意識を乗り越えさせ、どう個性を生み出せるか？

### ▶上越地区

#### 県美大会研究テーマの継続確認



上越市中教研  
上越市立直江津中学校  
中澤 聡子

第1回推進委員会で「かわる、かわる、つなぐ造形教育」とALの関わり方、方向を確認しました。実践の蓄積と11月の公開授業を予定しています。

構想検討会  
FTを取り入れました。



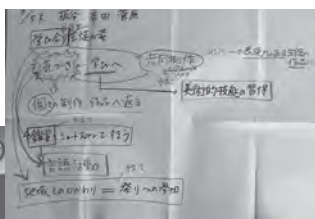
### ▶中越地区

#### 目指す姿と手立てを共有！



加茂市・南蒲中教研  
加茂市立加茂中学校  
近 まどか

美術での目指す学び合う姿やその実現のための手立てについてFTを行いました。地域の人材や材料の活用を含めた、題材についても話し合いました。



第1回研推の様子。地域の特性や重点方針をもとにFTを行う。

各地区、「デザイン」「彫刻」「工芸」と異なる取組。発想・構想段階での学び合いの工夫で、発見と作品への思いが広がります。有効的な「学び合い」の研究が、楽しく、苦手を克服する授業ポイントになります。



全県部長  
五泉市立川東中学校  
校長 古田 修

### ▶新潟地区

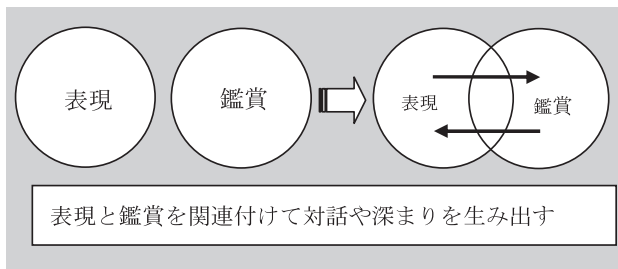
#### ALで学び合う姿を目指す！



新潟市中教研  
新潟市立石山中学校  
丸井 武馬

「研究主題」の確認と美術における「学び合う姿」を共有しました。3つの実践を検討しながら研究を進めていきます。題材に応じたALを展開する予定です。

1年目で目指すAL



### ▶下越地区

#### 推進委員会はFTを軸に！！



新発田市中教研  
新発田市立豊浦中学校  
堀口 博子

生徒のあるべき姿を【発想】【伝えあう】【楽しさ・喜び】の三点から考え、「現状」や「原因と解決の手立て」をFTで検討しました。全員参加で活発な意見交換を行っています。

あるべき姿と現状のギャップを「学び合いで」どう埋めるか。



# 道徳

## 共に考え、探究するプロセスを大切にした「考え、議論する」道徳科への質的転換

質の高い多様な指導方法を展開し、自分自身との関わりの中で多面的・多角的に考え、議論して生徒が主体的に道徳性を養う深い学びの過程や認め、励ます個人内評価を研究します。



全県部長  
長岡市立刈谷田中学校  
校長 比後 慎一

### ▶ 上越地区

#### 考え、議論する授業の工夫 !!



上越市中教研  
上越市立直江津東中学校  
笠原 里美

推進委員が各校の実践を提案し、「考え、議論する」道徳の授業を実現させる具体的な工夫点について検討していきます。そして、10/20にプレ授業を行い、2年目の方向性を見定めていく予定です。

6月に実施した頸城中での学校区共同参観授業の様子



### ▶ 新潟地区

#### FTで共有・実践！



新潟市中教研  
新潟市立白根北中学校  
嵐田 浩二

推進委員会では常にFTを行い、目指す姿や手だてを共有しています。4段階スケールを活用した「学び合う授業作り」を実践していきます。

9月15日  
1年次公開授業に向けた授業案検討会



### ▶ 中越地区

#### 多面的・多角的に考える道徳！



長岡市三島郡中教研  
長岡市立北中学校  
大橋 立明

7月に「多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えるための議論の在り方」を考えるために、推進委員でFTを行いました。11月1日出雲崎中学校で公開授業を行います。

FTで研究テーマを考える研究推進委員会



### ▶ 下越地区

#### 研修テーマに迫るための資料検討会！



阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研  
胎内市立黒川中学校  
小林 典子

8月に、「研修テーマに迫るための効果的な道徳資料とは何か」を考えるために、推進委員一人一人が資料を持ち寄り、検討会を開きました。11月に公開授業を行います。

8月の研究推進委員会で資料検討！





# 総合学習

## 生徒個々の問題意識を醸成し、主体的な学習活動とするための学習過程の工夫とFTの活用はどうあるべきか？

「体験で終わっている。自分の意見や考えがない。」等の各校の総合学習の様子が全県部会で話されました。①生徒が学習の主体となるための学習過程の工夫と②意見交流で考えを練り上げ深化させるFTの活用を視点として研究を進めていきます。



全県部長  
新潟市立西川中学校  
校長 齋藤 雅敏

### ▶ 上越地区

#### 多面的多角的視点で授業構想を



柏崎市刈羽郡中教研  
柏崎市立南中学校  
小松 久子

生まれ育った地域を「歴史文化」・「人」・「自然」の三つの視点で深く考え、継承発展させる方策を、FTを用いて練り上げ、実践していきます。

11月の北条中授業公開に向けてアイデアを出し合う



### ▶ 新潟地区

#### 指導会で構想を検討



新潟市中教研  
新潟市立山の下中学校  
関根 立志

指導の先生をお招きして研究計画と指導案の検討を行いました。

「地域とかかわる防災教育」を題材に学び合う場面を設定していきます。

避難所運営ゲームを使って小グループでの話し合い活動



### ▶ 中越地区

#### 探究のプロセスを大切に



長岡市三島郡市中教研  
長岡市立小国中学校  
渡邊 健実

第1回推進委員会では、今後研究を進めていく上でのポイントについて、自校の実践を踏まえ、意見を出し合いました。そこでは、探究のプロセスの重要性等を確認しました。

第1回研推の様子。FTを取り入れ、構想を検討



### ▶ 下越地区

#### 目指す姿を共有して研究推進！



二市北蒲中教研  
胎内市立乙中学校  
内山 秀実

発表校の実践を中核とし、中教研内の各校が研究主題に迫る取組を進めていきます。生徒がより深い意見交換ができる手立てを工夫していきます。

8月の研究推進委員会  
みんなで授業構想を練る



## 校内の研究授業を4ステップ・1ポイントで!!

### みんなで授業をつくり、みんなで研究しよう

県中教研は「教師の学び合い」で指定研究を進めています。研究チームをつくり、メンバーで目指す姿を共有し、その達成に向けて手立てアイデアを出し合い、みんなで授業を

つくっていく“全員参画型研究”です。各校の校内研修でもこの全員参画型研究をしてみませんか？ 全員参画型研究は4ステップ・1ポイントで進めます。

### 4ステップ・1ポイント

#### みんなで授業を見せ合う

##### ポイント1

1人の教師だけで研究授業をするのではなく、研究主題にそった授業を、全員がみんなで見せ合い、研究をみんなで高めていくことが大切です。



目指す姿を共有

##### ステップ1

まず、「どのような生徒の姿を目指すか？」を全職員で出し合い、共有するFTをします。



方向性を共有

##### ステップ2

次に目指す姿と現状のギャップの「問題」を確認し、解決の方向性（研究主題・研究の流れ）を共有するFTをします。時間があれば、授業をする単元や題材のアイデアを出し合います。



構想検討会

##### ステップ3

指導案ではなく、構想シートによる構想検討会をします。他教科の先生とともに、めざす姿にせまるためのアイデアをいっしょに出し合います。

構想検討会についてはP.81-85に特集を組みました。お読みください。



授業と検討会

##### ステップ4

FTで授業後の検討会を実施します。FT形式での実施はすっかり定着してきました。視点は「学び合う授業」と「ユニバーサルデザイン(UD)」の2つでFTをおこなうとよいでしょう。

#### 振り返り

年度末に研究をKPTで振り返ります。

KPTの振り返りはP.22のコラム2をお読みください。

グループを固定すると出張等で予定どおりなかなか実施できません。そこで、その時々で参加できる4名～6名程度のグループをつくり実施するとよいでしょう。「学び合う授業」や「UD」が視点になるので、教科の枠にとらわれず、多様なメンバーから多様な考えを集めることが必要で有効です。

また、1回のFTを45分間等と時間を決めておこなうは、よい研究を続けるために大切です。

## ④ 全員参加型の構想検討会を してみませんか？



指定研究は昨年度より、構想検討会を取り入れています。  
4ステップ1ポイントではステップ3になります。みんな  
がアイデアを出し合い、みんなで学び合う授業を創ってい  
く研究です。是非、各校の研究や各郡市中教研の研究で、  
取り入れてみてください。

※4ステップ1ポイントはP.80のコラム3をご覧ください。

〈特別寄稿〉

# 全員参加型の 単元構想検討会を おすすめします



新潟市立白新中学校  
竹田 真実子

参加者全員で学級集団の様子やつまずきの予想などを共有し、単元全体を通して子どもたちにどんな力をつけたいかを考え授業を組み立てる、白新中学校の取組を紹介します。

## なぜ単元構想検討会か…

これまでの授業検討会は、授業者が本時指導案を作り上げてから行う検討会、あるいは、授業者が説明をして他の参加者が修正点を指摘する一方通行の検討会、さらに教科ごとに行う検討会が多かったように思います。

## 全員参加型の単元構想検討会は…

わかりやすく楽しい授業づくりには、他教科の職員も一緒に、ファシリテーションなどの手法を用いて検討することが、効果的だと考えています。

授業者は、つい自分の得意な方法で授業の構想や展開を考えてしまうものです。しかも同じ教科の教員であれば視点や感覚が似ていることが多いことも予想されます。他教科の職員も加わり、様々な方向からアイデアを出し合って検討することで、どの生徒にもわかりやすく興味深い授業をめざします。

## 進め方

事前に…

開催日時、授業者、教科を広報

### ステップ1

授業者はA4 1枚で  
単元（題材）構想図を準備

### ステップ2 〈45分間〉

授業者の願いや生徒のつまずき、ねらい、手立て、期待する生徒の様相などについて、参加者全員で検討

### ステップ3 〈45分間〉

検討会后、授業者は指導案を作成 授業後には再び検討会

## ステップ 1

### 〈検討会準備〉



授業者は、「願い」「課題」「ねらい」「手立て」「振り返り」「期待する生徒の様相」についてA4の資料を準備します。

## ステップ 2

### 〈構想検討会〉



生徒の立場で考え、具体的なイメージがもてるよう、当日使うワークシートや教材を使って説明します。



課題に対する興味や手立ての有効さ、生徒に習得させたい内容などについて自由に話し合いをします。



単元構想から、本時の流れを考えます。効果的な手立てやまとめまで、大まかな内容を参加者全員で整えます。

たくさんのアイデアがもらえるのがうれしいです。

本時だけでなく単元全体を検討してもらえるので、授業を組み立てやすいです。

付せんを使い、グループに分かれて検討するので、授業参観だけ、または、事後検討会だけでも参加できます。

みんなで、創っていくという雰囲気が、ほっとします。

一緒に検討した授業が、どんなふうにできあがったのか授業を参観したくなります。

この後、改めて指導案検討会があるわけではないので、負担が少ないです。

構想検討会も授業後検討会も45分で行います。分担して検討するのでコンパクトに検討会をもつことができます。

授業者

参加者

## ステップ 3

### 〈授業と授業後検討会〉



授業では、参加者は付せんに、「手立て1」「課題」など視点1つにコメント1つずつ良さ（青）と課題（赤）を書きながら参観します。



検討会ではまず付せんを、あてはまる項目にグルーピングします。



グループに分かれて、項目ごとに検討します。



グループごとに話し合ったことを発表し全体で共有します。

# 授業(単元)構想シート(記入例と留意)

県中教研版

指定研究1年目の全県部会参加者を対象に「構想検討研修会」を8月17日に実施しました。下の授業(単元)構想シートは研修会時に配布した見本です。

「学び合う授業」づくりの視点として特に大切な箇所は②あるべき姿、④解決の手立て、⑦単元の流れの本時の場所、⑧本時のねらい(特に21世紀型能力)、⑨本時の流れの中の論点(発問)の5点で、留意していただきたいことを記載しました。

県中教研HPから構想シートの枠、指導略案の枠、記入例等がダウンロードできます。

授業(単元)構想シート

教科・領域: 理科 | 年組: 1年1組 | 授業者: 山内伸二

①概要  
 予想理由の表現と検討に「理由付けシート」と呼ぶ70シートを利用して、H25より代表的なシートを示し、そこに論証型反論をグループで出合い、検討・共有するFT(フューチャリング)を行った。

②あるべき姿  
 775全員が「自分の考えを具体的なイメージや根拠で引き出すこと」で、考えを深めている。

④原因と解決の手立て  
 メンバーの考えを引き出す方法を示す、生徒が納得したことが原因  
 「質問とあわせのシート」を示し、70シートにメンバーの考えをOQ(オープンクエスチョン)によって引き出す方法・手順を示す。

⑤単元  
 状態変化 ~物質の融点と沸点  
 物質は融点と沸点を境に状態変化することや、沸点の違いを利用して混合物から物質を分離できることを見いだすことができる。

⑦単元のながれ  
 <1次>水とエタノールの状態変化(2h)  
 ○3つの状態に変化すること  
 ○水の分子の様子との関係  
 固体 ↔ 液体 ↔ 気体  
 <2次>物質の沸点と融点(4h)  
 ○エタノールは78℃が沸点。  
 ○180℃は酸は63℃が融点。  
 ○180℃は酸は20℃になるとどうなるか? **⑦**  
 ○酸、食塩、鉛等の沸点融点。  
 <3次>エタノールの蒸留(2h)

⑧本時のねらい  
 理科: 物質は特有の融点と沸点、融点と凝固点は一致することを見いだすことができる。  
 21CS: OQにより、主張の異なる生徒の考えを聞くことができる。  
 (21CS→21世紀型能力)

⑨本時の流れ  
 <流れ>  
 前時  
 ○180℃は酸を63℃より高い温度にして全て液体にする。  
 20℃には、180℃は酸はどうなるか?  
 個 → 理由付けシートを個人ごとに書く。  
 本時  
 個 → 代表的な生徒がシートを紹介。  
 個 → どのようになっているか? **⑨**  
 個 → 反論を促す。  
 個 → 同じ予想のグループでFT。  
 個 → 異なる予想のグループでFT。  
 拡散  
 収束 → 討論 → 予想の違いは何が違うからか?  
 個 → 全体で討論会 → 討論マトリックス  
 → 予想変更の後、実験結果と見比べる。  
 → ほとりしたことをワークシートに記入。

② 「手立て」によって、実現したい本時の目指す生徒の姿を書きましょう。

④ 目指す生徒の姿を実現するために本時に実施する「手立て」を書きましょう。

⑧ 「手立て」によって、育成されるであろう21世紀型能力(この場合は、コミュニケーション能力)が何かを書きましょう。

⑨ 拡散と収束の論点(発問)を書こう。  
 ※ 疑問文で表すなど論点についてはP.18に詳しい説明があります。

②

④

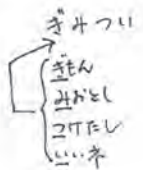
④

⑧

⑨

⑦

単元の流れのどこが本時かを書きましょう。



# 授業(単元)構想検討会を実施してみても…

## 教職員も学び合えるFT



柏崎市立北条中学校  
研究主任 中橋 寿夫

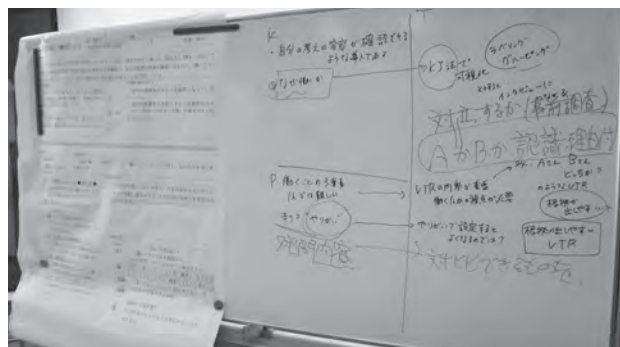
各学年部で作成した「総合的な学習の時間」の授業構想シートを使い、授業構想検討会をFTによって行いました。

提示された授業構想シートによる説明を聴きながら参加者全員で「学び合う授業をつくる8つの視点」からチェックをしました。そして、  
・Keep (続けるべきこと) ・Problem (問題点) ・Try (解決策) の観点でFTを行いました。

8つの視点とKPTは、話し合いを整理しやすく、改善案の練り上げに大変有効でした。



教職員のFTスキルも向上します



KPTの観点のフレームワーク

## 授業(単元)構想の力量を高める

～教科の枠を越えて  
チームで取り組む校内研修～

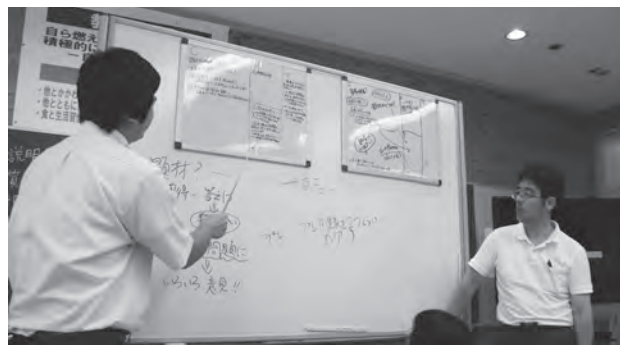


加茂市立須田中学校  
研究主任 石原 朋之

県中教研の「授業(単元)構想シート」を活用しての全職員による検討会を、7月28日(木)の校内研修で初めて行いました。当日は他教科の教員から、教科の枠を越えた生徒目線からの意見や疑問点が次々と出されました。原案作成の段階で授業者が全く考えていなかった視点からの提案も多くあり、教科担任が1名しかいない本校にとって、この検討会は大変有効であることが実感できました。今後も継続していきたいと考えています。



7月28日(木)の検討会の様子



グループでのFTを発表

## “学び合う授業”と“教師の学び合い”を各校・各教室へ

### 各教室・各校に届けるために…

平成25年度の創設50周年を節目に、県中教研は“学び合う授業”を全県の各教室に、“教師の学び合い”を各校に届けることを目指しています。

2つの方法で、その実現を目指しています。1つは図1のように指定研究が“学び合う授業”と“教師の学び合い”のモデルとなり、それが郡市中教研の研究活動へ、そして、各教室へという流れです。4年目を迎え、郡市中教研の組織や体制の改革を進めている郡市、教科領域も出てきました。

2つ目は図2のように校長会研修から研究主任研修、そして職員研修と広げる流れです。平成27年度に、県中教研と県中校長会が連携して研修会を実施し「学び合う授業」によって授業改革を推進する方向性を確認しました。

### 事務局長への講師依頼

現在までに研究主任を対象とする研修が十日町・中魚，上越，加茂・田上，柏崎・刈羽，長岡・三島，燕・西蒲，小千谷が実施または実施予定です。そして、図3のように数多くの県中教研事務局長を講師とする研修会が依頼されています。

会員に直接“学び合う授業”や“教師の学び合い”の意義や考え、FTの有効を伝える研修会講師は大切な機会と考えています。時間が合えば、県下どこにでも伺います。ご連絡ください。

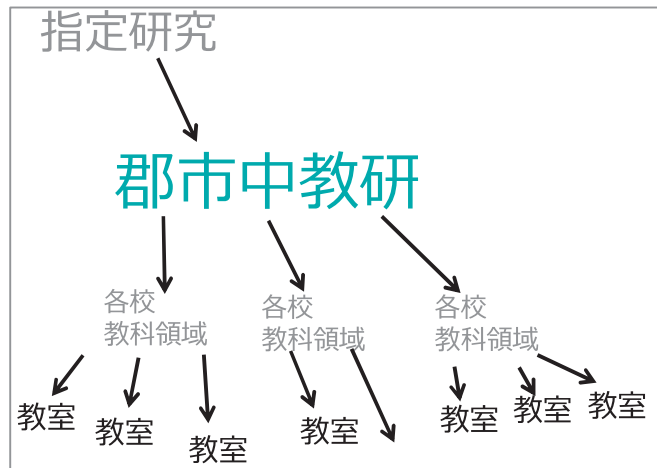


図1 県中教研の組織を利用して各校・各教室へ

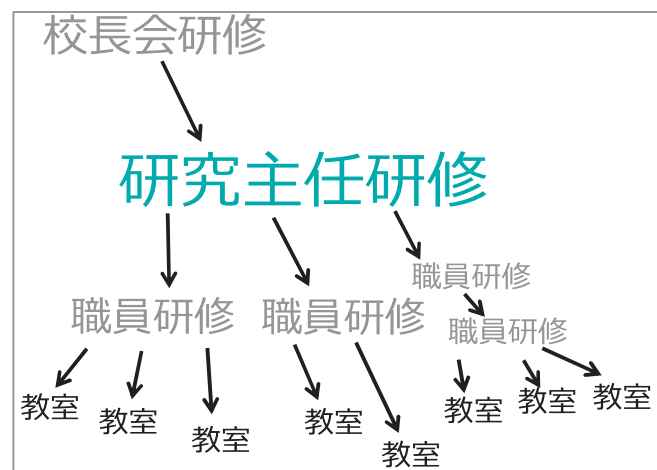


図2 校長会、研究主任から各校・各教室へ

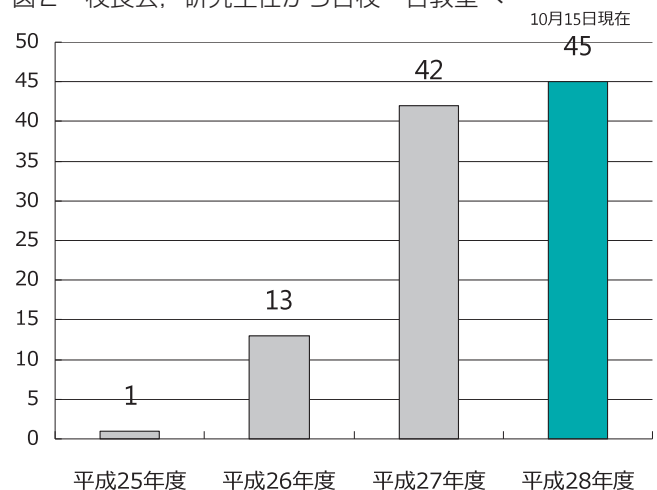


図3 県中教研事務局長が講師による研修会の回数



## 5 授業ナビゲーション

県中教研で開発した授業ナビゲーション（授業スタンダード，研修体制7・WEB配信3，学び合い10）です。また，15部会の重点方針も掲載しました。

授業スタンダード10は，学び合う授業のベースとなるものです。自校化し，各校のスタンダード10を作ってみてください。



※社会，理科，英語，保健体育，進路指導の学び合い10は，P.24～P.73に掲載しました。

※授業スタンダード10の自校化は，Class創刊号P.94に関連記事が掲載されています。

## 県中教研 授業ナビゲーション

研修体制7		
①	(研修) 課題の抽出と目標の設定	(研修) 現状から課題を抽出し、明確な目標を設定している。
②	(研修) 課題と研修目的の共有	(研修) 課題と研究の目的を全教員が共有している。
③	(研修) 年1回以上の研究授業	(研修) 年間1回以上は全教員が研究授業をしている。
④	(研修) 事前事後の検討会	(研修) 研究授業は事前・事後に検討・協議会を組織し、実施している。
⑤	(研修) 他教科や他校職員の参加	(研修) 研究授業では、その教科以外の教員や他校教員が参観している。
⑥	(研修) 参画型の検討会	(研修) 検討・協議会は、ワークショップ型など参加者全員の参画を図っている。
⑦	(研修) 外部指導者	(研修) 外部から指導者を入れて研究授業を行っている。

Web配信3		
⑧	(Web) 全校体制での実施	(Web) 実施監督や採点、入力などを分担する体制ができている。
⑨	(Web) 時間・座席等の環境整備	(Web) 校時表に組み入れたり、テスト用の座席にするなど、環境を整え実施している。
⑩	(Web) 結果の共有と改善	(Web) 結果を分析・共有し、補充学習や授業改善を全校体制で行っている。

授業スタンダード10		
①	指示・発問の明確化	生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。
②	授業のめあてと流れの提示	授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。
③	配色やノートを意識した板書	配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。
④	評価カード等での振り返り	評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。
⑤	忘れ物への対応	予備ワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。
⑥	内容・準備の事前連絡	学習内容や準備するものを事前に伝えている。
⑦	開始終了時刻の厳守	授業の開始時刻、終了時刻を守っている。
⑧	教室前面の掲示物の簡素化	教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。
⑨	机の上の整理	机の上には必要なものだけを置くようにさせている。
⑩	座席・グループの配慮	特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して、座席やグループを決めている。

学び合い10 (国語)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

### 学び合い10 (数学)

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒どうしが関わりあう場	発表会で終わらず、生徒どうしが関わりあう場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

### 学び合い10 (音楽)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルールの周知	活動の見通しが分かるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント(評価シート等で)に即して活動を振り返る場面を設定している。

### 学び合い10 (美術)

#### <美術授業スタンダード5>

①	生徒の理解・指導計画	生徒の発達段階や生活体験、学習状況に基づいて、指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような題材を設定している。
③	自己を見つめる場の設定	言語等を用いて、色や形などを観点に交流したり、振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現意図に応じた技法や表現方法を試したり、材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	創造的な環境づくり	美術室をはじめ、校内に日常的に作品を鑑賞できるような環境を整えている。

#### <美術学び合い5>

⑥	鑑賞授業の充実	感じたことや気付いたことを基に他者と話し合う活動を通して、世界や日本の様々な美術文化に触れる鑑賞活動をしている。
⑦	美術館、大学等との連携や活動	美術館等や大学、関係諸機関との関わりをもち、人材・作品・材料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ、生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け機能や美しさを追求するしたり、生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	デザイン学習において、用途や機能を基に交流したり、検討したりすることを通して、相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

学び合い10 (技術・家庭)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項、他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし、その実現に有効な“学び合い”の場を位置づけて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために、身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて、個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	かかわり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために、教え合い、共同作業、話し合い、発表の場などを取り入れている。
⑥	かかわり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし、話し合い、発表など、それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために、実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり、伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに、よりよい生活や社会の実現について、自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり、次の学習につなげたりするために、観点を明確にした評価の場を設定している。

学び合い10 (特別活動)		
①	必要感・達成感のある題材 (単元)	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心をもち、意欲的に解決しようとする題材 (単元) を設定している。
②	題材 (単元) の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材 (単元) の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒が、よりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見付ける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定している。
⑨	意思決定	集団決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

学び合い10 (学校保健)		
①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気づくことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わりあいを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちを持たせている。
⑥	実践化への意欲づけ	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちを持たせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。

15部会の重点方針

	重点方針
国語	<p>国語を適切に表現、理解し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を高めるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、国語学習の楽しさを実感できる学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音声言語の指導を工夫し、話の内容や意図に応じた表現力を育てる。</li> <li>○主題を明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。</li> <li>○目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。</li> </ul>
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。</li> <li>○学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。</li> <li>○資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。</li> </ul>
数学	<p>数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確かな習得を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組める学習指導の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。</li> <li>○生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。</li> <li>○生徒自らが学習の振り返りができるよう、学び直しの機会を設ける。</li> </ul>
理科	<p>科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や実験の予想を検討し、結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、科学的な思考力、表現力を高める。</li> <li>○他者との関わりを重視した問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。</li> <li>○地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。</li> </ul>
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽のよさを感じ、伝え、関わりあいながら学び、考える授業を展開する。</li> <li>○音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。</li> </ul>
美術	<p>主体的な表現・鑑賞活動を促し、豊かな情操や創造性を培う造形教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活や社会や文化の中での美術の働きを実感させる指導や題材を工夫する。(地域や外部人材等の積極的な活用も含めて)</li> <li>○一人一人の確かな学びを促す指導過程を工夫する。</li> <li>☆郡市美術部会を共同研究組織として確立・運用し、部員の授業力の向上を一層図る。</li> </ul>
保健体育	<p>運動や健康・安全についての理解を深め、体力の向上と健康の保持増進のための実践力を身につけるとともに、各種運動の合理的な実践をとおし、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の実態把握を的確に行う。</li> <li>○学習過程を工夫する。</li> <li>○学習資料提示の仕方を工夫する。</li> <li>○評価方法の工夫・改善を図り、指導に生かす。</li> <li>○運動を通して公正さや協力する態度を育てる。</li> </ul>
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。</li> <li>○学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。</li> </ul>

	重点方針
英語	<p>基礎・基本の確かな定着を図るとともに、コミュニケーション能力の基礎を培う学習指導を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域のバランスのとれた指導に努め、まとまりのある英語を理解したり、表現したりする活動を進める。</li> <li>○語彙や文構造については、コミュニケーションを支えるものとしての視点から言語活動を関連させながら定着を図る。</li> <li>○身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動の実践に努める。</li> <li>○小学校の外国語活動に関する小中の連携を深め、小学校における活動内容について情報交換するなど、中学校区ごとに研修をすすめる。</li> </ul>
道徳	<p>豊かな心を育み、生きる力を培う道徳の時間を中心とした道徳教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める道徳の時間の工夫と改善を図る。</li> <li>○道徳の時間において、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連を深め、そこで行われる道徳教育と密接な関連を図り、計画的、発展的に補充・深化・統合し、道徳実践力の育成を図る。</li> <li>○豊かな体験活動を生かした道徳教育の充実を図る。</li> <li>○保護者や地域の人々との協働による心に響く道徳教育を推進する。</li> <li>○道徳教育を全教師が協力し推進するため、道徳教育の全体計画や年間指導計画の改善を図る。</li> </ul>
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。</li> <li>○自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。</li> </ul>
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。</li> <li>○すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、携帯電話等にかかわる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。</li> <li>○中学校区の小学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職業体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。</li> </ul>
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己理解を深めさせる指導を充実させる。</li> <li>○生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。</li> <li>○望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>
総合	<p>学習過程と評価を中核に、今求められている力を高めるための学習指導等を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協同的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。</li> <li>○「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。</li> </ul>
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。</li> <li>○生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修をすすめる。</li> </ul>

## 参考書籍

“学び合う授業の創造”の推進やClass作成で参考にした書籍・文献です。21世紀型能力やFT特に論理スキルの基の考えを知ることができます。是非、読んでみてください。

### 学び合う授業

- 1 教育出版教育研究所 (2014)  
『教師力アップへの挑戦 学び続ける教師・学び合い編』 教育出版教育研究所
- 2 新潟県中学校教育研究会 (2012)  
『平成25年度 会報第81号』 新潟県中学校教育研究会
- 3 新潟県中学校教育研究会 (2012)  
『創設50周年記念式典および研究大会要項』 新潟県中学校教育研究会
- 4 新潟県中学校教育研究会 (2013)  
『創設50周年記念誌 (平成25年度 研究活動の概要Vol.37)』 新潟県中学校教育研究会
- 5 新潟県中学校教育研究会 (2014)  
『平成26年度 会報第82号』 新潟県中学校教育研究会
- 6 新潟県中学校教育研究会 (2015)  
『平成26年度 研究活動の概要Vol.38』 新潟県中学校教育研究会
- 7 新潟県中学校教育研究会 (2015)  
『授業情報誌Class学び合う授業 創刊号』 新潟県中学校教育研究会

### ファシリテーション

- 8 独立行政法人教員研修センター (2013)  
『教員研修の手引 - 効果的な運営のための知識・技術 - (改訂版)』 独立行政法人教員研修センター
- 9 堀 公俊 (2004)  
『ファシリテーション入門』 日本経済新聞出版社
- 10 加藤 彰 (2014)  
『ロジカル・ファシリテーション』 PHPビジネス新書
- 11 堀公俊, 加藤彰 (2008)  
『ワークショップ・デザイン』 日本経済新聞出版社
- 12 伊勢田哲治 (2005)  
『哲学思考トレーニング』 ちくま新書
- 13 野矢茂樹 (2006)  
『新版 論理トレーニング』 産業図書
- 14 新潟市立白新中学校 (2014)  
『ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業 - 白新中100の実践 -』 新潟日報事業社

# 編集後記



新潟県中学校教育研究会

理事長 玉木 浩(新潟市立白根北中学校 校長)

## バージョンアップした情報誌でさらなる授業改革を

平成27年10月23日に「授業情報誌Class」を創刊したところ、県内の県中教研会員をはじめ教育関係機関においても大きな反響となりました。全会員が学び合う授業による授業改革の具体的なイメージやアイデア(学び合う授業実現への手立て)などを共通に得るために、学び合う授業の考え方や各教科・領域での授業改革のポイント、指定研究会での学び合う授業への進め方とその取組、授業改革を進める各郡市中教研の具体的な取組などを全会員に紹介することを目的に刊行したからであります。さらに、指定研究会の学び合う授業の提案について事前に目を通すことで、どのような授業提案がなされるかを知ることができるとともに、指導案がなくとも前もって授業の進め方を把握できるという刊行物はこれまでありませんでした。

このたび、多くの会員の要望に応え、県中教研では「授業情報誌Class」第2号を発刊する運びとなりました。この第2弾の「授業情報誌Class」には、次の2点について改善を加えてあります。

- ① 創刊号では、新潟青陵大学 岩崎保之先生の特別寄稿「ファシリテーションによる『学び合い』の充実」より、現場では一層の「学び合う授業」の活性化が図られました。一方、このたび平成25年の県中教研創設50周年を節目に進めてきた「学び合う授業の創造」の3年間の取組について、その際に記念講演をいただいた、国立教育政策研究所教育研究機構センター総括研究官 千々布敏弥先生より、「学び合いによって授業はどのように変わるか」と題して、進捗状況に関する今後の研究の方向性、具体的な課題などを明確にした特別寄稿いただいたこと。
- ② 提案性を一層高めるために、各指定研究提案のページに、教科の特性を明らかにする必要性から、研究を進めていく上での「柱」ともいべき「教科論」と、そしてそのポイントとなる事柄を入れたこと。さらに、創刊号で示した「手立て」のポイントを授業構想を明確にするために「ステップ」に切り替えたこと。

この「授業情報誌Class」第2号が、指定研究会への会員の積極的な参画を促すために、また、事前に研究の授業構想を全会員に示すことで、県中教研が目指す『「学び合う授業」の創造』への取組について理解を深めるために、会員の皆さんには「授業情報誌Class」を大いに活用していただきたいと願っています。

最後に、「授業情報誌Class」第2号の編集にあたり、編集に関わった事務局、貴重な原稿をいただいた各全県部長・副部長、各指定研究校の皆さん、各研究推進委員の皆さんに感謝申し上げます。編集後記といたします。

# 新潟県中学校教育研究会

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度発足し、創設53年目を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、15の教科・領域の部があります。その中から毎年20の郡市と教科・領域を指定し、2年間で学び合う授業の具現化を目指し研究する「指定研究」を行っています。

## 授業情報誌

## Class・学び合う授業 第2号

発行日 平成28年10月20日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局  
〒950-0908 新潟市中央区幸西3-3-2  
じょいあす新潟会館

TEL 025-290-2251 FAX 020-4664-3748  
E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp  
<http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk>

印刷 有限会社 東京プリント社

表紙写真 長岡市立東中学校

デザイン・イラスト 山内 伸二 (県中教研事務局) 

ISSN 2189-8111